



G空間EXPO 2014

地理空間情報科学で未来をつくる

平成27年3月

G空間EXPO2014運営協議会

スマートフォンの普及や無線通信環境の充実に加え、オープンデータへの取組推進の動き等に伴い、位置と時間の情報（G空間情報）を取得・活用できる環境は大きく進展し、様々な分野でG空間情報を活用した製品やサービスが生まれ、その結果、G空間情報は日常生活や経済活動に欠かせないものとなっています。

一方、それらを支える測位分野においては、平成22年9月にはより高度な測位を可能にする準天頂衛星初号機「みちびき」が打ち上げられ、2010年代後半を目途に4機体制へ整備、将来的には7機体制に拡充することを目指すなど、衛星測位分野において大きな進展が見込まれています。

また、平成32（2020）年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定し、G空間情報を活用した新しい技術やサービスの登場が期待されています。

「G空間EXPO」は、地理空間情報活用推進基本計画に基づき、G空間社会の裾野を広げることを目的として産学官の連携により、これまで3回にわたって開催され、G空間社会の実現へ向け広く一般の方々の理解を促すとともに、G空間関連産業の発展に努めて参りました。

こうした状況の中、平成26年11月13日（木）、14日（金）、15日（土）の3日間、G空間社会をとりまく状況とこれまでの成果を踏まえ、「ニッポンの未来は、オモシロイ。」をテーマに「G空間EXPO2014」を開催しました。

「G空間EXPO2014」では、前回に引き続き東京・お台場の日本科学未来館を会場とし、様々な分野の技術・製品・サービスに加え、産学官の関係者が一堂に会する場として、展示会や講演・シンポジウム、体験イベントに加え、教育関係者や自治体関係者を対象とした研修や、公募されたプレゼンターによる展示及びプレゼンテーションを行いました。

3日間の会期中、イベント会場には20,311名、講演・シンポジウム会場には2,115名の皆様にご来場頂きました。これらを通して、新たな産業・サービスの創出や創意工夫の掘り起こし、既存のサービスの高度化・発展につなげるという所期の目的の達成に大きく寄与できたものと考えます。

本書は、この「G空間EXPO2014」の開催記録をとりまとめたものです。今回の開催を振り返り、G空間社会の発展に向けての一助となれば幸いです。

最後になりましたが、この度の「G空間EXPO2014」の開催、ならびに本書のとりまとめにあたり、産学官の関係者をはじめ、数多くの方々からご協力を頂きました。

これらのご協力と、多数のご来場に対して、この場を借りてお礼申し上げます。

G空間EXPO2014運営協議会

まえがき

1. 開催概要

開催概要	6
統一テーマ・タイトルロゴ	7
キービジュアル・キャッチコピー	8
開催構成	9
会場構成	10

2. オープニングセレモニー

オープニングセレモニー	12
開会挨拶	13

3. G空間EXPOメッセージゾーン

実施概要	18
会場レイアウト	19
総合インフォメーション	20
テーマ展示	21
メインステージ	28

4. 地理空間情報フォーラム

実施概要	40
会場レイアウト	41
展示会	42
体験イベント	56
測量コンテスト	61
バンダーフォーラム	62
学生フォーラム	63

5. Geoアクティビティフェスタ

実施概要	66
会場レイアウト	67
出展者一覧	68
展示ゾーン	69
Geoアクティビティフェスタ 表彰式	76
電子国土賞 表彰式	77

6. Geoエデュケーションプログラム

実施概要	80
会場レイアウト	81
Geoエデュケーションプログラム	82
Geoアトラクションズ	84
ワークショップ in G空間EXPOメッセージゾーン	86

7. 講演・シンポジウム

実施概要	88
シンポジウム開催報告	89

8. 制作物

チラシ	110
ポスター	111
当日プログラム	112
地理空間情報フォーラム	114
Geoアクティビティフェスタ	115
Geoエデュケーションプログラム	115
G空間キャッシング	116

9. 広報活動

公式WEBサイト	118
公式SNS	119
日本科学未来館との連携	120
メディアパートナーとの連携	122
その他媒体との連携	127
プレスリリース(開催告知)	129
ニュースリリース配信先	132
露出(イベント開催前)	137
露出(イベント開催中及び事後)	141

付録1 来場者アンケート

アンケート用紙	144
アンケート集計	146

付録2 開催実績

開催実績	158
------	-----



1. 開催報告

G空間EXPO2014 来場者数等

	11/13	11/14	11/15	合計	備考
1Fシンボルゾーン・ゲート通過者数 (=来場者数)	5,656	5,845	8,810	20,311	
7F講演・シンポジウム参加者数	618	864	633	2,115	

- 各々の来場者数の重複等については考慮しておりません
- ゲート通過者数については、ゲートに設置されたカウンタの数値について、会場である日本科学未来館よりご報告頂いたものです。
- 講演・シンポジウムの参加者数については、講演・シンポジウム実行委員会事務局にて集計した数値について、ご報告頂いたものです。

名称 G空間EXPO2014 Geospatial EXPO 2014 Japan

開催期間 平成26年11月13日（木）14日（金）15日（土） 10:00-17:00

会場 日本科学未来館／東京都江東区青海2丁目3-6

対象 児童生徒から社会人まで幅広い層

入場料 無料

主催 G空間EXPO2014 運営協議会
(構成員)

公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会、一般財団法人衛星測位利用推進センター、gコンテンツ流通推進協議会、一般社団法人地理情報システム学会、内閣官房、内閣府宇宙戦略室、国土交通省国土政策局、国土交通省国土地理院、独立行政法人宇宙航空研究開発機構

共催 日本科学未来館、臨海副都心まちづくり協議会

後援 東京都港湾局

公式 Webサイト <http://www.g-expo.jp/>

■統一テーマ

「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPO2014においては、各主催者のイベントを包括する統一テーマを設定し、各主催者が実施する展示・特設ステージ、講演・シンポジウム、研修・体験イベント等を通じて、「見られる」「聴ける」「触れられる」ものをタイトルロゴとともに表現しました。

また、統一テーマについては引き続き、開催場所である日本科学未来館で使われている「空間情報科学」とG空間を表現する「地理」とを組み合わせた「地理空間情報科学」をキーワードとして使用しました。

■タイトルロゴ



■キービジュアル



■キャッチコピー

「ニッポンの未来は、オモシロイ。」

宇宙ステーションから見た日本を彷彿させる近未来的なビジュアルと、来場者に「オモシロさ」や「ワクワク感」を感じていただくキャッチーなコピーを採用することで、G空間EXPO への興味を喚起するとともに、G空間情報を活用した技術やサービスが、未来の私たちの暮らしにどのような変化をもたらすのかを、実際に「見て」「触れて」いただくことができる展示会であることをアピールしました。

■ G空間EXPOメッセージゾーン

主催者：G空間EXPO2014運営協議会

- ・「G空間社会って何?」という疑問に回答。
- ・G空間EXPOの導入部として、私たちの身近にあるG空間情報を利用している製品やサービス等を紹介するとともに、これらを支える仕組み等を分かりやすく説明。
- ・G空間社会を牽引する各界のプレーヤーや、多彩なゲストによるさまざまなステージプログラムや体験アクティビティを実施。

■ 地理空間情報フォーラム

主催者：公益社団法人日本測量協会 / 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会 / 公益財団法人日本測量調査技術協会

- ・企業、団体、機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介。
- ・出展各者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応。

■ Geoアクティビティフェスタ

主催者：国土交通省国土地理院

- ・G空間情報に関する独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術等を持つ中小事業者、ベンチャー企業、大学・研究機関等による展示やプレゼンの機会を提供し、関係者間の交流を促進。
- ・展示やプレゼンを行うプレゼンターは一般公募し、選考の上決定。
- ・プレゼンターには、会場においてアイデアや製品等の展示やプレゼンを実施。
- ・優秀な展示やプレゼンへの表彰を実施。

■ Geoエデュケーションプログラム

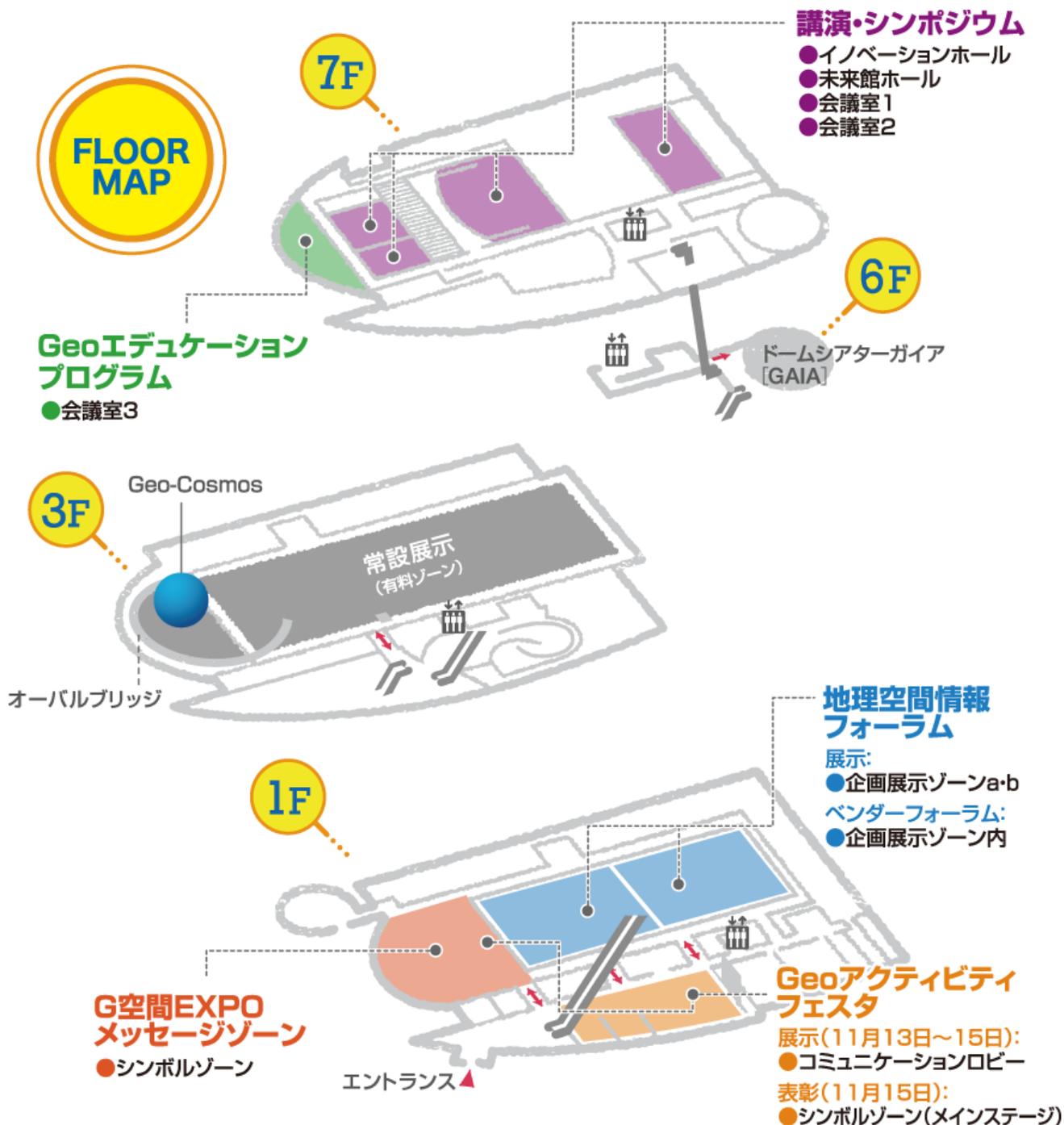
主催者：国土交通省国土政策局

- ・小・中・高等学校教員の方々を対象に、タブレット端末やGPSを用いて、デジタル地図を使った授業づくりの研修会を実施。
- ・自治体職員、NPOの方々を対象に、G空間情報を活用した地域支援活動やオープンデータに関するセミナー・研修会を実施。
- ・子供から大人までが楽しめる、G空間情報に関連する各種体験イベントを実施。
- ・G空間EXPOのイベント企画と日本科学未来館の常設展示を、解説員と一緒に巡る会場ツアーを実施。

■ 講演・シンポジウム

主催者：講演・シンポジウム実行委員会

- ・G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウム、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体により さまざまなプログラムを実施。





2. オープニングセレモニー

オープニングセレモニー

期日 平成26年11月13日（木） 10:00-10:20

会場 日本科学未来館 1F シンボルゾーン（G空間EXPOメッセージゾーン）メインステージ

開会挨拶 国土交通副大臣 北川 イッセイ
日本科学未来館 館長 毛利 衛
公益社団法人日本測量協会 会長 村井 俊治
一般財団法人 衛星測位利用推進センター 理事長 岡部 篤行

テープカット 国土交通副大臣 北川 イッセイ
日本科学未来館 館長 毛利 衛
公益社団法人日本測量協会 会長 村井 俊治
一般財団法人 衛星測位利用推進センター 理事長 岡部 篤行
一般社団法人 地理情報システム学会 会長 矢野 桂司
国土交通省 政策統括官 松脇達朗
国土地理院長 院長 小池 剛



国土交通副大臣

北川 イッセイ



G空間EXPO2014の開会にあたりまして、運営協議会を代表し、一言ご挨拶を申し上げます。

本日はご多忙のところ、多くの皆様にご臨席を賜り、誠に有難うございます。

開催に向けて、準備を進めてこられました各イベントの主催者、出展者の皆様、また、共催である日本科学未来館、臨海副都心まちづくり協議会の皆様等のご尽力に改めて厚く御礼申し上げます。

現在、G空間社会の発展に向けて産学官連携による様々な取組が進められているところです。その1つとして、災害に強い国土を実現するため、より使いやすい防災アプリ開発支援や防災データベースの整備に取り組んでいます。

地理空間情報の高度化・活用は、産業を成長・発展させ、また、私達の暮らしを安全・安心で利便性の高いものにする上で欠かせないものであります。

政府一丸となって、これを強力で推し進めていく所存です。

今回のEXPOは、地理空間情報の最先端技術に関する展示や講演・シンポジウム、さらには子どもから大人まで楽しめる体験イベントなど、盛りだくさんの内容となっております。

このEXPOが、まさに副題であります「ニッポンの未来はオモシロイ」を具現化する、G空間社会のさらなる高度化に向けた強力な一歩となることを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

日本科学未来館 館長

毛利 衛



昨年に引き続いてG空間EXPOを日本科学未来館で開催できることをとても光栄に思っています。

日本科学未来館は、先端の科学技術について未来の可能性や社会での役割を互いに語り合う場というコンセプトで2001年に開館しました。今年のG空間EXPOのキャッチフレーズ「地理空間情報科学で未来をつくる」は日本科学未来館の活動とも共通する部分が多く、このテーマでイベントを開催いただけることに感謝しております。

皆様の頭上にある日本科学未来館のシンボル展示Geo-Cosmosは、200万分の1の地球です。先端技術である有機ELパネルを使って、このような明るい環境下でも宇宙に輝く地球の姿をリアルに表現できるようになりました。画面上を流れる雲の映像は、人工衛星からのデータを毎日取り込んで反映したものです。このGeo-Cosmosは地球をマクロに見せ、多くの人に地球全体を実感してもらうために、衛星・測位技術などのG空間技術を利用しているのですが、G空間技術はさまざま分野においてイノベーションを起こし、日本の社会を活性化していく可能性があるかと信じております。

本イベントを通して、新しいG空間技術を使い、どのような将来の社会をつくっていくのか、多くの方々に語り合っただけを期待しています。是非、3日間を有意義にお過ごしください。

公益社団法人 日本測量協会 会長

村井 俊治



皆様、おはようございます。

このG空間EXPOは産官学の連携で開催されておりますが、その『産』、産業界、民間を代表して、日本測量協会会長の村井が一言ご挨拶申し上げたいと思います。

このG空間EXPOは、平成19年、2007年にできた地理空間情報活用推進基本法という非常に我々にとっては重要な法案、超党派で成立したと聞いておりますが、この法律の精神に基づいて、いかに地理空間データ、あるいは、情報が社会を豊かにするかというキャンペーンをするためのものだと考えてございます。

おかげさまで、国土交通省の国土地理院をはじめとして、様々な官庁が国民の税金を使って、データを無料、あるいは、安価に公開するということが徐々になされてきておりまして、わたくし共、民間側は大変その恩恵に被っているわけでございます。

この日本でできた法律の11年前、1998年1月31日に当時のアメリカのゴア副大統領は、デジタルアースという構想を発表したのであります。このデジタルアースという言葉日本語に訳すと、電子国土となるのですが、アメリカはこの法律、構想に基づいて、民間レベルで解像力 1 mの地球観測衛星を打ち上げ、GISオープンコンソーシアムというのを立ち上げて、いまアメリカは世界をリードしているわけでございます。

そういうわけで、日本は11年遅れはしましたが、やっと各政府団体はこの精神に基づいて、データを整備してくれております。しかし、ここが私が言いたいところなんです。データだけでは、世の中よくなるわけではございません。これを活用するための様々な規制がございまして、民間ごときはこのようなデータは使ってはならぬというがごとき、ものがございまして、これを何とか取り除いていただきませんと、産業界はこれを事業化することができないのであります。いろんな規制は、その当時、その時代の技術に合わせてできた規制でございまして、それなりに意味があるわけですが、時代の進歩とともにそのような規制はかえって、新しい技術の進歩を制約することにもなりかねないわけでございます。

今日は、北川副大臣を後ろに控えて申し訳ございませんが、是非このような規制を取り除いていただいて、産業界が税金で作ったデータを自由に使って、できたら大いにお金を稼いでいただいて、それをまた税金に収めるという好循環を巡らせるようにしていきたいと思っておりますので、是非ともこの機会を通じて、そのような議論を行われることを期待しております。

多少、小言じみたことを言って、申し訳ありませんが、産業界としてはこのような気持ちでいるわけでございますので、何卒ご理解の程、お願いいたします。また、参加者の皆様は、この素晴らしい科学未来館で十分に地理空間情報関係の先端技術を学んで、また、それを事業に取り入れてということをやりたいと思います。長くなりました。ありがとうございました。

一般財団法人 衛星測位利用推進センター 理事長

岡部 篤行



ただ今ご紹介頂きました一般財団法人衛星測位利用推進センター-SPACの岡部でございます。私どもSPACは、2010年に打ち上げられた準天頂衛星“みちびき”の民間利用推進と事業創出を目指して、現在、325の団体・企業の活動を支援しております。

この度の「G空間EXPO2014」は、G空間社会実現に向けて産官学が連携し、地理空間情報と衛星測位の利活用を推進する場として企画されました。このEXPOにおきましては、様々な最先端の空間情報技術を、皆様方に体験頂けるように企画されております。このEXPOでは、盛りだくさんのイベントが用意されております。ここで、ご紹介するのはとても時間がございませんが、いくつかご紹介いたします。

空間情報と測位技術を融合したイベントとしましては、ロボットの走行が企画されております。また、宇宙空間展示セクションでは、宇宙ステーションとの通信デモ、準天頂衛星『みちびき』の緊急メッセージを用いた男鹿半島での実証試験ビデオをご覧頂くことができます。さらに、最新情報を紹介頂く講演・シンポジウムでは、17の団体の講演が未来館ホールで計画されております。SPACシンポジウムも同時開催をし、国土交通省国土情報課西澤課長に基調講演を御願ひしております。

東京オリンピック・パラオリンピックが、2020年に開催されます。既に、関係省庁、地方自治体が受け入れにあたって、体制整備や実証試験に着手されておりますが、産業界におきましても、地理空間情報、衛星測位の利活用に向けた取組みを始めております。なかでも、海外から来られるたくさんの方々、快適で安全にご案内ができるような日本得意のおもてなしを実感頂けるよう研究に着手しております。

私どもSPACも、衛星測位を活用して、是非国家的なイベントに貢献したいと考えております。

それでは、ご来場の皆様方の益々のご発展とG空間EXPO2014の成功を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。どうも、ありがとうございました。

A grayscale illustration of space. At the top, a large, bright celestial body, possibly the moon, is partially visible. A satellite with two long solar panels is in orbit on the left. The central focus is the horizon of a planet, with a bright light source behind it creating a lens flare. Below the horizon, a city with tall buildings and a winding path is visible on the planet's surface. The background is filled with stars.

3. G空間EXPOメッセージゾーン

■ G空間EXPOメッセージゾーン

G空間EXPOメッセージゾーンにおいては、「G空間社会って何?」という疑問にお答えするため、G空間EXPOの導入部として、私たちの身近にあるG空間情報を利用している製品やサービス等を紹介するとともに、これらを支える仕組み等を知りやすく説明しました。また、G空間社会を牽引する各界のプレーヤーや、多彩なゲストによるさまざまなステージプログラムや体験アクティビティを実施しました。

名 称	G空間EXPOメッセージゾーン
開 催 期 間	平成26年11月13日（木）14日（金）15日（土） 10:00-17:00
会 場	日本科学未来館 1Fシンボルゾーン

メッセージゾーン空間演出

日本科学未来館に常設されているGeo-Cosmosを地球、3Fオーバルブリッジを測位衛星の軌道と捉え、その下に広がるシンボルゾーンにG空間社会の仕組みをつくる様々な製品やサービスを展示することで、シンボルゾーン全体の空間を演出し、G空間社会のしゅみを表現しました。

インフォメーション

メッセージゾーン入口付近にも、インフォメーションを設け、各種ご案内を行いました。また、エデュケーションプログラムの体験コンテンツの受付及び集合場所として設けました。

テーマ展示

衛星・測位技術を象徴する展示や、G空間社会を構成するさまざまな技術や製品などの企画毎の展示、及び来場者が製品などを実際に触れることができる場を複数カ所設けました。

メインステージ

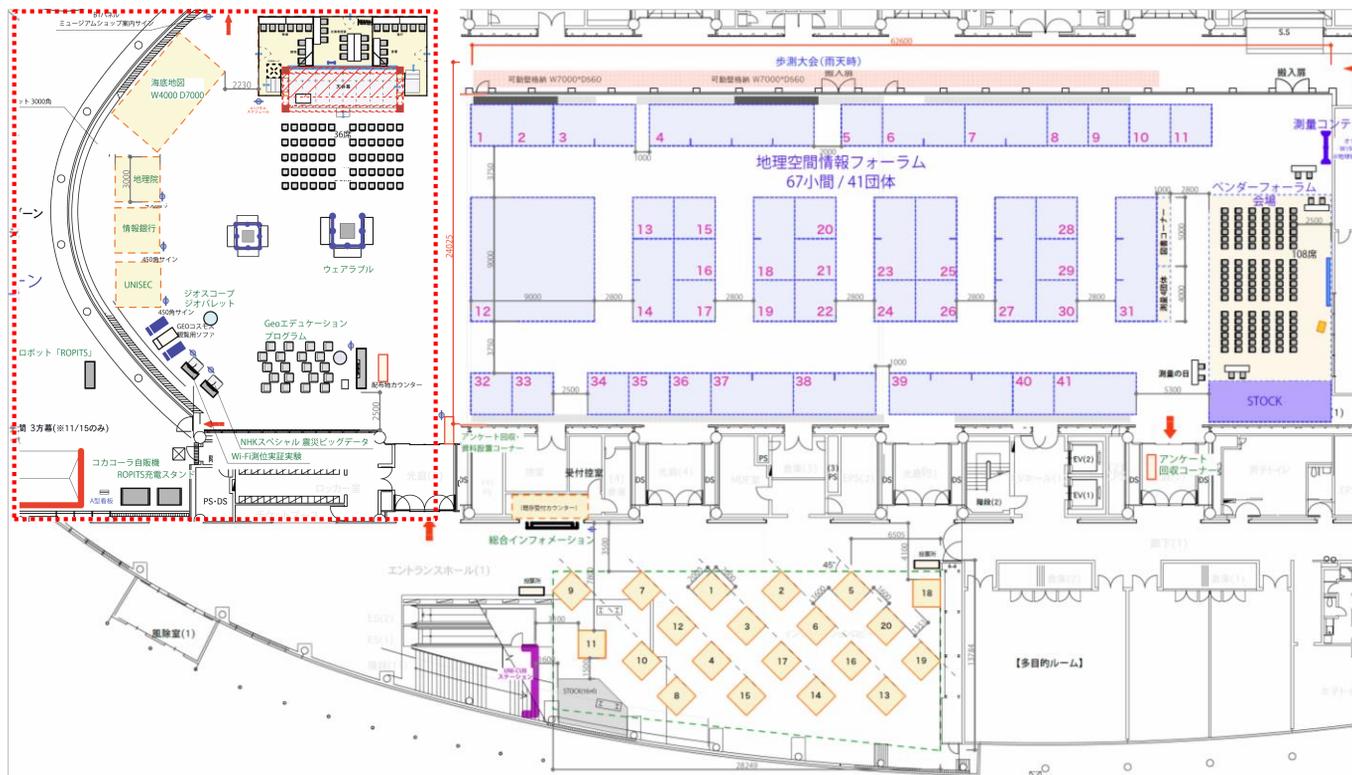
G空間社会を牽引する各界のプレーヤーや、多彩なゲストを招き、G空間社会を支える最先端技術や製品・サービス等を分かりやすく紹介するなど、さまざまなステージプログラムを実施しました。また、日本科学未来館と連携し、メインステージ中にGeo-Cosmosを利用したデモを実施しました。また、メインステージにおいては、G空間EXPOの開幕にあたり、各主催者・関係者代表者等が登壇し、オープニングセレモニーを開催しました。

館内（Wi-Fi）・屋外（GPS）における位置情報サービス

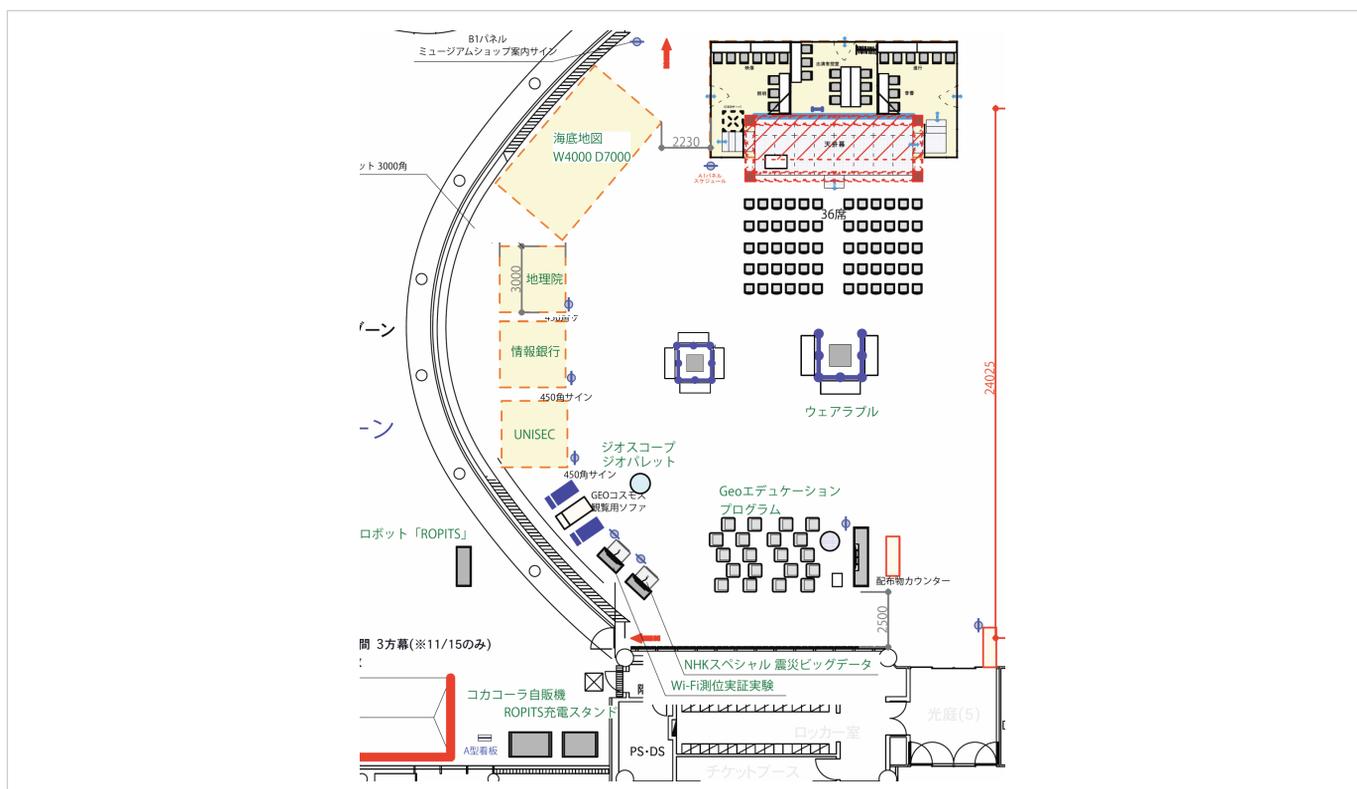
1回のタップで『館内（Wi-Fi）⇔屋外（GPS）』を切り替えることができる一貫性のあるアプリを制作し、来場者の方々に利用していただきました。館内においては、無線LAN接続サービスや、館内ナビゲーションサービスをご提供し、位置情報サービスの仕組みの紹介や、来場者の移動データを可視化するなど、位置情報を利用したデモンストレーションを行いました。

会場レイアウト

[日本科学未来館 1F G空間EXPO2014全体レイアウト]



[日本科学未来館 1F G空間EXPOメッセージゾーン]



■ 総合インフォメーション

日本科学未来館入口の正面に、「総合インフォメーション」を設け、当日ガイドの配布や各種ご案内を行いました。
また、来場者アンケートの配布・回収、メディアパートナーの資料の設置配布等を実施しました。

(運営要項)

対 応 ス タ ッ フ 測量4団体、国土政策局、国土地理院
 運営スタッフ2名

業 務 内 容 ・「当日ガイドブック」の配布
 ・「来場者アンケート」配布～回収（ノベルティ提供）
 ⇒アンケートの記入は「アンケート記入場所」をご案内
 ・メディアパートナー資料の配付、メディア各社の取材受付など
 ・関係者受付対応
 ・拾得物・迷子対応、その他来場者からの問い合わせ対応など

配 布 物 ・当日ガイドブック 20,000部
 ・来場者アンケート 20,000部
 ・アンケート回答者用ノベルティ 1,000個
 ・メディアパートナー資料 1社@100部
 ・関係機関パンフレット等の設置



■ 移動支援ロボット「ROPITS®」

日本科学未来館前のウエストプロムナード公園内で、(株)日立製作所で開発している歩道を自律走行する搭乗型移動支援ロボット「ROPITS®」のデモ走行を実施しました。

(運営協力)

株式会社日立製作所

(運営要項)

・ウエストプロムナード公園1周を10分間で走行（4名が体験可能）

(運営フロー)

- ①ブース前で整理券配布（所要確認）
- ②整理券記載時間に各駅に集合いただき、簡単な説明を実施。
- ③一周に4か所駅を設置し、搭乗していただく。

その他、ROPITS®の紹介VTRを幕間で放映及びブースにカタログスタンドを設置しました。



■ワークショップ in G空間EXPOメッセージゾーン

一般来場者向けの体験プログラムの拠点に加え、マップコンシェルジュ株式会社、株式会社日建設計 ボランティア部にご協力いただき、実際に来場者の皆様がその場で体験できるパネル展示やワークショップを実施しました。

(運営協力)

マップコンシェルジュ株式会社、株式会社日建設計 ボランティア部



【みんなでつくる自由な地図 オープンストリートマップ】
マップコンシェルジュ株式会社



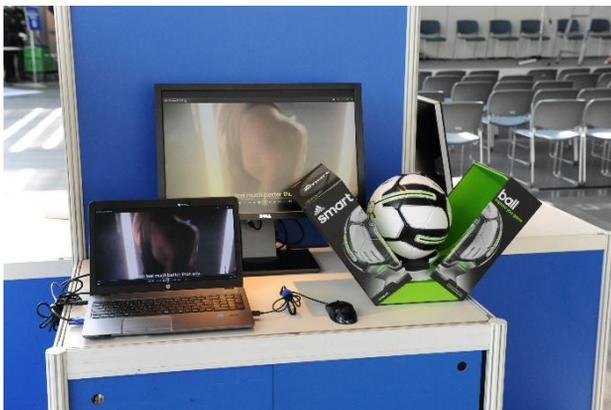
【災害からみんなを守る！逃げ地図プロジェクト】
株式会社日建設計 ボランティア部

■スポーツにおけるデータサイエンスコーナー

慶應義塾大学SDM研究所スポーツデザイン・マネジメントラボ代表の神武教授協力のもとスポーツ分野におけるデータの活用を先進的に取り組まれている企業の製品を展示・紹介しました。

(運営協力)

慶應義塾大学SDM研究所スポーツデザイン・マネジメントラボ、アディダス株式会社



【スポーツにおけるデータサイエンスコーナー】
アディダス株式会社



【スポーツにおけるデータサイエンスコーナー】
アディダス株式会社

■ Wi-Fi測位実証実験（G空間EXPOアプリ）ヒートマップ

iOS・Androidアプリ「G空間EXPOアプリ」をインストールしていただくことで、iBeaconやWi-Fi測位により日本科学未来館(1F)のフロアマップから、現在地を確認できるほか、出展ブースの内容の閲覧や、ステージプログラムの開催時間などを案内しました。また、「G空間EXPOアプリ」利用者の動きをヒートマップで表示することで、館内の混雑状況を可視化するとともに、行動履歴や滞在時間等を集計しました。

(運営協力)

NPO法人位置情報サービス研究機構（Lisra）、シスコシステムズ合同会社、合同会社ミルディア、株式会社ジエナ



■ NHKスペシャルプレゼンツ 震災ビッグデータ

1万8500人も死者・行方不明者を出した東日本大震災。あの時、あの場所で何が起きていたのか。そして南海トラフ地震や首都直下地震に私たちはどのように備えたらよいか。2011年3月11日、携帯電話やカーナビ、ツイッターや救助記録など膨大な災害情報＝「震災ビッグデータ」が記録されていた。NHKスペシャル「震災ビッグデータ」では、浸水域にいた数十万人の行動の軌跡や震災1週間でつぶやかれた1億8千万のツイートなどから被災者1人1人の命を見つめた。本可視化システムは、携帯電話の位置情報をもとに推計された震災当日の人口を示したものを展示しました。

(運営協力)

日本放送協会



■ 最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー

特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構の協力のもと今最も市場が“アツい” ウェアラブルデバイスの普及に積極的な企業による製品の展示・デモを実施しました。

(運営協力)

特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構

ウエストユニティス株式会社、株式会社ブリリアントサービス、セイコーエプソン株式会社



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
特定非営利活動法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
ウエストユニティス株式会社：「inforod」



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
株式会社ブリリアントサービス：「mirama」



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
セイコーエプソン株式会社：「MOVERIO」



【最新ウェアラブルデバイスが大集合！ Touch&Tryコーナー】
セイコーエプソン株式会社：「WristableGPS」

■ 位置情報とウェアラブルデバイスの活用が実現する未来

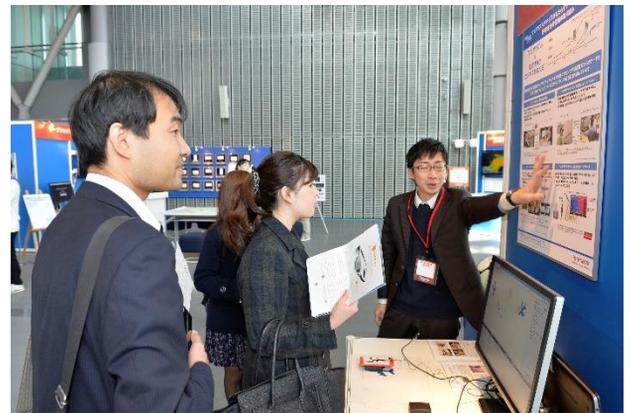
位置情報とウェアラブルデバイスがビジネスを変革しようとしている昨今、位置情報とウェアラブルデバイスが実際の業務でどのように活用される可能性があるのかを、具体的な取り組みの事例とともに紹介しました。

(運営協力)

株式会社野村総合研究所



【位置情報とウェアラブルデバイスの活用が実現する未来】
株式会社野村総合研究所



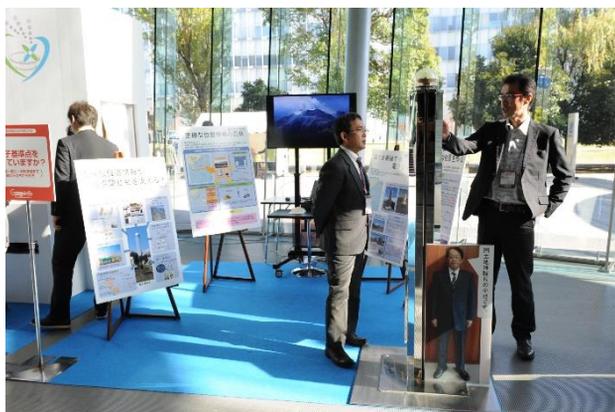
【位置情報とウェアラブルデバイスの活用が実現する未来】
株式会社野村総合研究所

■ 電子基準点を知っていますか？（測量～防災・天気予報まで 縁の下のちからもち）

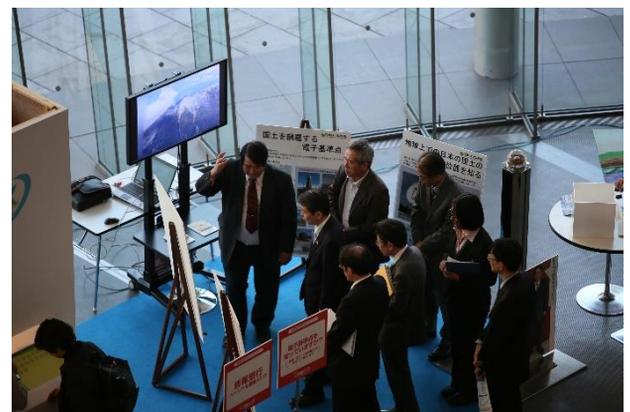
正確な位置情報を提供するとともに地理空間情報サービスの発展及び安全・安心・便利な国民生活の実現に貢献している「電子基準点」について、模型（1/3スケール）、映像等で解りやすく紹介しました。

(運営協力)

国土交通省 国土地理院



【電子基準点を知っていますか？
（測量～防災・天気予報まで 縁の下のちからもち）】
国土交通省 国土地理院



【電子基準点を知っていますか？
（測量～防災・天気予報まで 縁の下のちからもち）】
国土交通省 国土地理院

■ 運用が広がる、超小型衛星のいま！

宇宙工学等の分野で研究を行っている学生を支援するNPO法人 大学宇宙工学コンソーシアムにご協力いただき、小型衛星の展示やデモを実施しました。

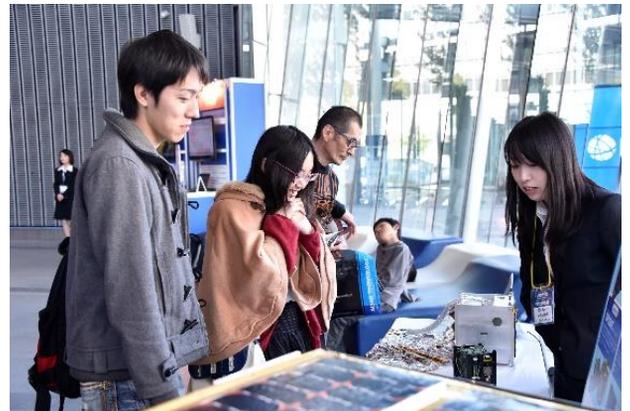
(運営協力)

NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム

日本大学、大阪府立大学、和歌山大学、鹿児島大学、NPO法人鹿児島人工衛星開発協議会



【運用が広がる、超小型衛星のいま！】
NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム



【運用が広がる、超小型衛星のいま！】
NPO法人大学宇宙工学コンソーシアム

■ 情報銀行: パーソナル情報ATM

「情報銀行」は個人個人が持つ情報を個人の意思で預け活用する仕組みです。個人が自分の情報を情報銀行の口座に蓄積・管理することで個人や社会における高度な情報の利活用を、プライバシーを確保しながら効果的に進めるための社会的な仕組みです。ここでは、あなたが持つパーソナル情報がどの程度あるのかを見ることができる「パーソナル情報ATM」を紹介しました。

(運営協力)

インフォメーションバンクコンソーシアム



【情報銀行: パーソナル情報ATM】
インフォメーションバンクコンソーシアム



【情報銀行: パーソナル情報ATM】
インフォメーションバンクコンソーシアム

■ 地球をさぐる、Geo-Scope

日本科学未来館の常設展示でもある、科学者や研究機関から集めたさまざまな地球観測データへ自由にアクセスできる「Geo-Scope」を設置しました。

(運営協力)

日本科学未来館



【地球をさぐる、Geo-Scope】
日本科学未来館



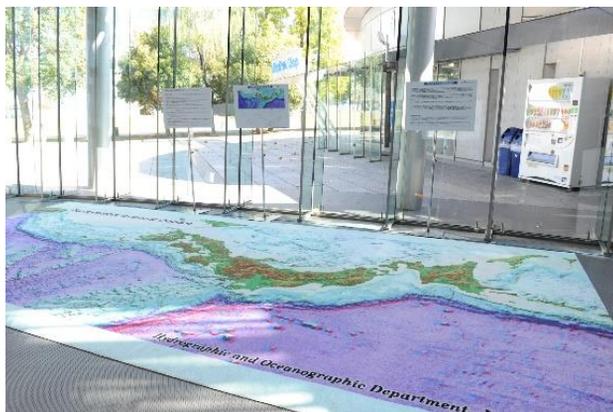
【地球をさぐる、Geo-Scope】
日本科学未来館

■ 3D海底地形図

測量船に登載された最新技術のマルチビーム音響測深機や画像処理を駆使して作成された、日本を取り巻く海の海底地形を三次元でご覧いただきました。

(運営協力)

地理空間情報フォーラム、海上保安庁



【3D海底地形図】
地理空間情報フォーラム、海上保安庁



【3D海底地形図】
地理空間情報フォーラム、海上保安庁

■ ニッポンの未来はオモシロイ！ G空間社会がつくる未来の暮らし

G空間EXPO2014のオープニングステージとして、主催者である日本未来科学館 科学コミュニケーターの進行のもと、東京大学 柴崎教授にG空間社会の最新動向や、G空間EXPO2014の見どころなどについて紹介いただきました。

(日時) 11月13日 (木) 11:30-12:10

(出演者)

東京大学 空間情報科学研究センター 教授 柴崎 亮介 氏

日本科学未来館 科学コミュニケーター 本田 ともみ 氏

eスポーツプロデューサー / エウレカコンピューター株式会社取締役 犬飼 博士 氏



■ 電子国土賞 表彰式

国土地理院では、国土地理院が提供・配信しているデータを活用したGISソフトウェアやGISコンテンツの中から、優れたものを表彰する『電子国土賞』を創設しています。今年度も、『電子国土賞2014』として表彰式を行いました。

(日時)

11月13日 (木) 12:20~13:10



■ G空間社会を突き動かす宇宙技術の最新動向

急速な技術革新や、超小型衛星の登場を受け、宇宙ビジネスは今後どのような変貌を遂げ、今後どのように活かされていくのか、宇宙ビジネスに詳しい三菱総合研究所 羽生様をモデレーターに、先進的な取り組みを行っている方々をゲストに迎え、その事業内容や今後のビジネス展望について紹介していただきました。

(日時) 11月13日 (木) 13:30~14:10

(出演者)

株式会社三菱総合研究所 科学技術グループ グループリーダ・主席研究員 羽生 哲也 氏

和歌山大学 宇宙教育研究所 所長 / 特任教授 秋山 演亮 氏

日本スペースイメージング株式会社 代表取締役社長 東 誠 氏



■ 今、最新ロケーション技術がオモシロイ！～G空間EXPO会場内における実証実験のご紹介～

Wi-FiやiBeaconを組み合わせたハイブリットシステムの実験 + GPSを使用した屋外におけるG空間キャッシングとの連動など、NPO法人位置情報サービス研究機構 (Lisra) のご協力により実施しているG空間EXPO2014の会場内における実証実験について解説するとともに、最先端ロケーションサービスの動向について紹介していただきました。

(日時) 11月13日 (木) 14:20~15:00

(出演者)

NPO法人位置情報サービス研究機構(Lisra) 代表理事 / 名古屋大学未来社会創造機構 教授 河口 信夫 氏

シスコシステムズ合同会社 ソリューション・アーキテクト、エバンジェリスト 小野寺 好広 氏

合同会社ミルディア 代表社員 三屋 光史朗 氏

株式会社ジェナ 執行役員 コンサルティング事業部兼新規事業部マネージャー 岡村 正太 氏



■「位置情報は誰のもの？ – パーソナル情報としての位置情報の利活用と保護について –」

準天頂衛星による高精度測位や屋内外測位の実用化、また、モバイル機器のGPS標準搭載やスマートフォンの普及など、あらゆる場面でユーザの位置情報を利用したLBSも増加している。また、iBeacon等、常に位置情報を発信する新技術により、プライバシーに配慮した取扱いが求められ、総務省『スマートフォン・プライバシー・イニシアティブ』などが発表されている。ビッグデータの時代を迎え、国際的にも、OECDでは、集積データの中の価値が見直され、パーソナル情報の経済価値などの検討が始まり、EUではデータ保護規制が、米国でもプライバシー権利章典などが発表され制度的な枠組みにも変化が見られる。日本においても、世界再先端IT国家創造宣言において、経済活性化におけるデータ利用が求められ、「パーソナルデータの利活用に関する制度改正大綱」が政府から公開され、個人情報を巡る制度改正が進められている。このセッションでは、パーソナル情報を中心とした国内外の制度的枠組みの変化や、センシング技術などの高度化に伴う利用について、事例を交えつつ紹介し、利用と保護の両側面から、今後のあるべき姿について考察していただきました。

(日時) 11月13日 (木) 15:10~15:50

(出演者)

一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用研究部 部長 坂下 哲也 氏

(株) 企 (くわだて) 代表取締役クロサカ タツヤ 氏

デジタル・アドバイジング・コンソーシアム株式会社 プロダクト開発本部 広告技術研究室 主任研究員 原田 俊 氏



■ 準天頂衛星の実用化に向けた取り組みと未来の展望

2009年の準天頂衛星初号機の打ち上げより行われてきた実証実験の最新事例をはじめ、今後、利活用が期待できる産業分野や現在進められている計画などについて、ご紹介頂きました。さらに、2018年の準天頂衛星システムの本格的なサービス運用開始や、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催など見据えた未来のビジネス展望について、議論を交わしていただきました。

(日時) 11月14日 (金) 10:40~11:10

(出演者)

一般財団法人 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用研究部 部長 坂下 哲也 氏

一般財団法人衛星利用推進センター (SPAC) 第一事業部 事業部長 松岡 繁 氏

日本電気株式会社 準天頂衛星利用推進室 エグゼクティブ・エキスパート 神藤 英俊 氏



■ G空間に商機あり!ウェブからリアルへ ~進化する街区ロイヤルティ戦略と実空間ビジネス最前線~

G空間情報にバイタルデータ(生体情報)と情緒性データ(人間関係情報)を掛け合わせることで、都市空間は未来のコミュニケーション・サービスの主戦場となる...O2Oやオムニチャネルでは解決できない、わざわざ行きたくなる未来の都市とは? 事業利用が期待される未来のテクノロジーとは?...ロイヤルティ形成に向けた最新事例を振り返るとともに、街区CRM戦略・マーケティング戦略の視点からこれからのG空間ビジネスを展望していただきました。

(日時) 11月14日 (金) 11:30~12:10

(出演者) 電通国際情報サービス (ISID) オープンイノベーション研究所 Chief Product Strategy 鈴木 淳一 氏



■NHKスペシャル プレゼンツ～震災ビッグデータで命を守る～

1万8500人もの死者・行方不明者を出した東日本大震災。携帯電話やカーナビなど、当時を記録した膨大な災害情報＝「震災ビッグデータ」を見つめることで、被害の全貌に迫る取り組みが進んでいる。2013年から始まったNHKスペシャル「震災ビッグデータ」シリーズでは、浸水域にいた数十万人の行動の軌跡や震災1週間でつぶやかれた1億8千万のツイートなどから、多くの人々が浸水域に戻っていたことや総距離3000 kmにも上る渋滞発生メカニズムを解明。全国75万社の企業取引情報からは、被災地の復興格差を浮き彫りにした。講演では、番組制作の舞台裏と共にビッグデータを活用した最新防災事例について紹介していただきました。

(日時) 11月14日(金) 12:20～13:00

(出演者) 日本放送協会 報道局 遊軍プロジェクト ディレクター 阿部 博史 氏



■今、屋内測位と行動計測がオモシロイ！

屋内計測技術や歩行者自律航法(PDR)技術が注目を集めています。これらの技術により、屋内での人の位置に対応した様々な情報サービスの提供や、人がどのように移動したか、何をしているか、といった行動計測が可能になりつつあります。本セッションでは、屋内測位や行動計測を実際に利用している産学の識者から事例紹介や技術の現状を紹介していただくと同時に、この分野の将来についての議論を交わしていただきました。

(日時) 11月14日(金) 13:30～14:10

(出演者)

NPO法人位置情報サービス研究機構(Lisra) 代表理事 / 名古屋大学未来社会創造機構 教授 河口 信夫 氏
産業技術総合研究所 サービス工学研究センター 行動観測・提示技術研究チーム長 蔵田 武志 氏
マルティス株式会社 代表取締役 那須 俊宗 氏



■AR（拡張現実感）が拓くG空間社会

AR（拡張現実感）とは、現実世界の中にコンピュータ内の情報を直接三次元的に映し出す技術です。通常、そのような情報はパソコンであれスマートフォンであれディスプレイに表示し、ユーザはそれを見るものですが、理想的なARが実現するとそのようなディスプレイはいりません。現実世界の中に、それが実在するかのように情報を見ることができるようになるからです。このようなマジックのようなARによる情報表示方式は、G空間情報の活用において非常に重要な役割を担います。コンピュータがいくら有益な情報を探し出したり、計算で導き出しても、それがユーザに伝わらなければ意味がありません。G空間社会では、その時、その場所では有益な情報をユーザに提供できます。このような情報をユーザにわかりやすく的確に伝えるために、ARが利用できるのです。本講演では、このARがどのような技術なのか、また、それによってG空間情報をどのように活用することができるのかを解説していただきました。

(日時) 11月14日(金) 14:20~15:00

(出演者) 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 加藤 博一 氏



■ウォッチ vs メガネ G空間を制するのはどっち?!ウェアラブルデバイスの最新動向

ここ数ヶ月の間に登場したウォッチ型デバイスによる新たなサービスへの期待が高まる中、同様に進化が期待されるメガネ型デバイスについて、ウェアラブルデバイスの第一人者である神戸大学の塚本教授をはじめ、ウェアラブルデバイスを開発している各社を招き、その最新動向をご紹介いただくとともに今後の展望について、議論を交わしていただきました。

(日時) 11月14日(金) 14:20~15:00

(出演者)

神戸大学大学院 工学研究科 教授 / NPOウェアラブルコンピュータ研究開発機構理事長 塚本 昌彦 氏

ウエストユニティ株式会社 代表取締役 福田 登仁 氏

株式会社ブリリアントサービス 代表取締役 杉本 礼彦 氏

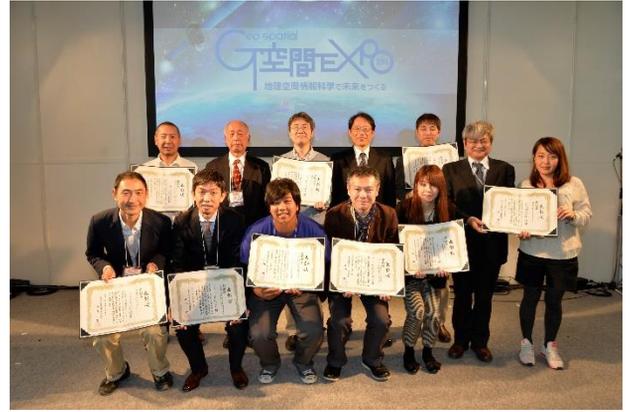
セイコーエプソン株式会社 ビジュアルプロダクツ事業部 HMD事業推進部 部長 津田 敦也 氏



■ Geoアクティビティフェスタ 表彰式

Geoアクティビティフェスタにおいて、優秀な作品展示およびプレゼンテーションを行ったプレゼンターに表彰を行いました。

(日時) 11月15日 (土) 10:40~11:10



■ 地図好きに聞く!地図のここがオモシロイ!

わたしたちの生活に欠かすことができなくなった『地図』。そして地図を見る手段は、スマホであったり、本であったりと人それぞれの時代である。地図をジブンゴト化することで楽しめる未来の生活についてお話していただきました。

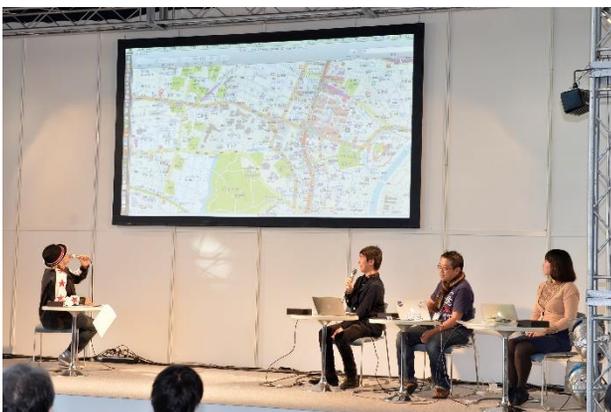
(日時) 11月15日 (土) 11:30~12:10

(出演者)

空想地図作家 今和泉 隆行 氏

マップコンシェルジュ株式会社 代表取締役社長 古橋 大地 氏

仙川地図研究所 所長 小森 葵 氏



■ オープンデータで見えてくる、あなたの知らない東京?!

政府や公共機関が公開している様々なオープンデータについて、「〇〇が最も多い区（市）はどこ？」など私たちの身近なコト・モノのデータをユニークな視点でご紹介しながら、オープンデータを分析することで見えてくる地域特性などについて、街歩きや地域に詳しい泉麻人氏を迎え、東京大学 越塚教授よりオープンデータの活用事例等を紹介していただきました。

(日時) 11月15日 (土) 12:20~13:00

(出演者)

東京大学 大学院情報学環 教授 越塚 登 氏
コラムニスト 泉 麻人 氏



■ アスリートの未来が変わる！データサイエンスによるスポーツ革命

スポーツのトレーニング等で様々なデバイスを導入し、選手の各々のデータの数値化や分析、チーム戦略立案など、スポーツ分野におけるデータの活用が広がりつつあります。スポーツ分野でのデータ活用例に加え、データサイエンスが一般の方々でも活用できることについて、慶應義塾大学 神武准教授をモデレーターに迎え、CLIMB Factory 馬淵様、アディダスジャパン 山下様、SAPジャパンの馬場様に紹介していただきました。

(日時) 11月15日 (土) 13:30~14:20

(出演者)

慶應義塾大学 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 神武 直彦 氏
CLIMB Factory 株式会社 代表取締役 馬淵 浩幸 氏
アディダスジャパン株式会社 アディダスマーケティング事業本部 Football/Rugby/mi ビジネスユニット
カテゴリーマーケティング シニアマネジャー 山下 崇 氏
SAPジャパン株式会社 バイスプレジデント 馬場 渉 氏



■ 第3回位置モノ ガジェット&アプリ大賞

G空間EXPOでは毎回恒例となっている角川アスキー総合研究所 遠藤氏による、「位置モノ ガジェット&アプリ大賞」の第3回を開催。スマートフォンの急速的な普及によって生まれた、最新の位置モノ ガジェット&アプリを独自の視点から紹介していただきました。

(日時) 11月15日 (土) 14:30~15:10

(出演者) 角川アスキー総合研究所 取締役 主席研究員 遠藤 諭 氏



■ G空間社会がつくる未来は?あなたの疑問にお答えします!

G空間EXPO2014のエンディングステージとして、東京大学 柴崎教授、慶應義塾大学 神武教授等ご登壇いただき、イベント期間中に来場者から寄せられた、G空間社会に関する質問や意見にお答えしていただきました。

(日時) 11月15日 (土) 15:20~15:50

(出演者)

東京大学 空間情報科学研究センター 教授 柴崎 亮介 氏

慶應義塾大学 システムデザイン・マネジメント研究科 准教授 神武 直彦 氏



■ 測量コンテスト 表彰式

G空間EXPO2014内で実施した測量コンテストの表彰式を行いました。

(日時) 11月15日 (土) 16:15~16:45



A grayscale illustration of Earth from space. At the top, a large, bright moon is partially visible. In the upper left, a satellite with two long solar panels is in orbit. The Earth's horizon is curved, with a bright glow from the sun or moon. Below the horizon, the Earth's surface is shown with city lights at night, particularly concentrated in the eastern United States and Europe. The background is filled with stars.

4.地理空間情報フォーラム

■ 地理空間情報フォーラム

企業・団体・機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しました。出展各者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応しました。

名 称	G空間EXPOメッセージゾーン
開 催 期 間	平成26年11月13日（木）14日（金）15日（土） 10:00-17:00
会 場	日本科学未来館 1F企画展示ゾーンa・b

展示会

G空間社会（地理空間情報高度活用社会）に関わる基盤技術、応用技術、機器やシステム、ソフトウェア、データ、器具・材料、サービスが、産学官連携により一堂に会する科学技術展示を実施しました。

ベンダーフォーラム

ベンダーフォーラム（技術説明会）は、出展者他が技術や製品・サービスの専門的な詳しい内容の説明を実施しました。

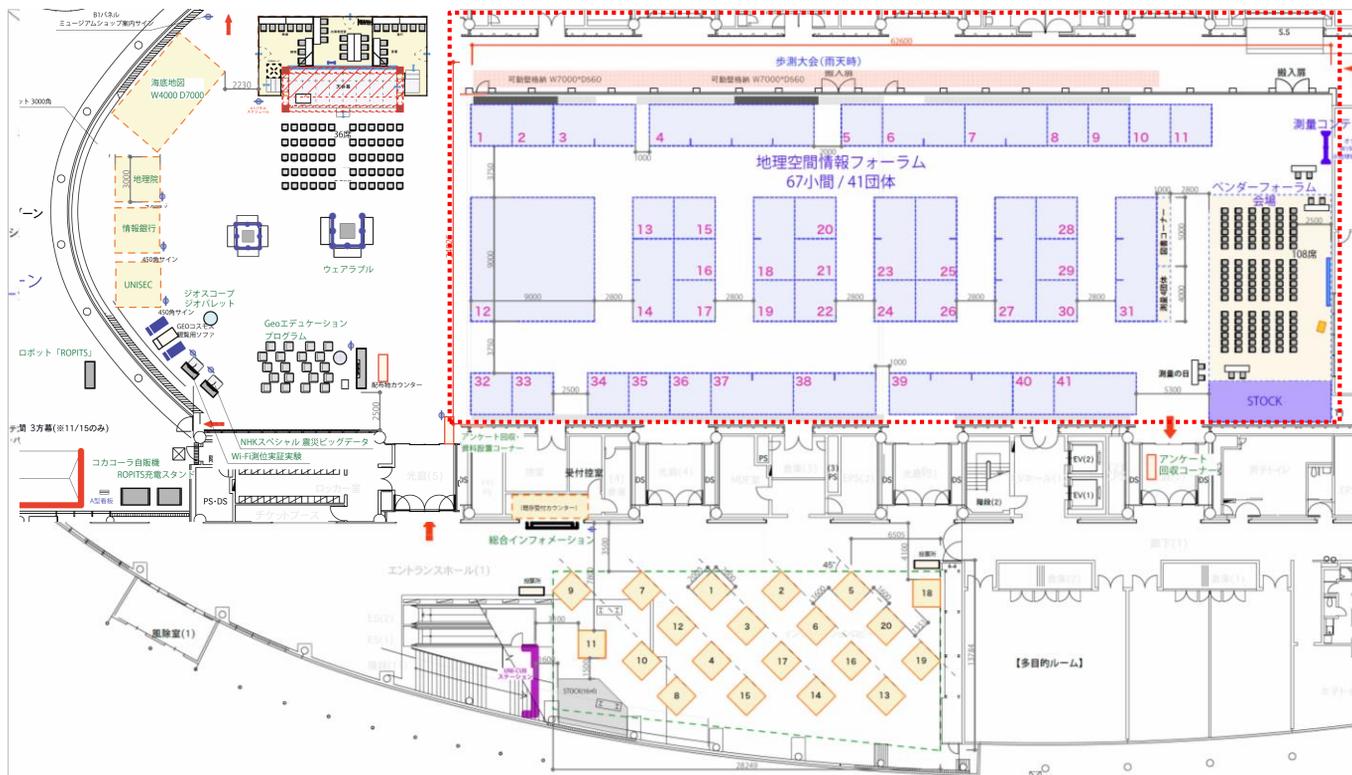
体験イベント

- ・測量コンテスト / 公益社団法人日本測量協会
- ・動態管理サービスや店舗検索システムを体験 / 株式会社ゴーガ
- ・「みちびき」による高精度な測位を体験 / 独立行政法人宇宙航空研究開発機構
- ・3DLレーザースキャナデータでAR体験 / リーグルジャパン株式会社
- ・端末やタブレットによる操作体験 / 総務省統計局 独立行政法人統計センター
- ・VRモデリングした3次元空間をスマートフォンで体験 / 株式会社フォーラムエイト
- ・知的モビリティに搭乗し、運転することができる体験イベント / 独立行政法人産業技術総合研究所
- ・MR（ミクスト・リアリティ）技術で3次元体験
公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会
- ・宇宙を疑似体験 / 一般財団法人日本宇宙フォーラム
- ・QZS屋内外で測位体験 / IMESコンソーシアム、東京エレクトロニックシステムズ株式会社、測位衛星技術株式会社、
一般財団法人衛星測位利用推進センター
- ・Robot Eye Walker 4D タッチ&トライ体験 / 株式会社岩根研究所
- ・バーチャルリアリティ体験 / インクリメントP株式会社
- ・距離を測る体験「歩測大会」
- ・「測量船」一般公開 / 海上保安庁

学生フォーラム

今年もG空間EXPOに合わせて、学生フォーラム2014を開催いたしました。学生フォーラムとは、地理情報分野のボトムアップを目的とした学生による学生のための学術交流の場です。学生が普段行なっている研究をポスター発表しました。

[日本科学未来館 1F G空間EXPO2014全体レイアウト]



[日本科学未来館 1F 地理空間情報フォーラム 出展者一覧]

出展者一覧		
1 東京スポーツイマージュ (株)	12 宇宙技術でG空間社会の未来を拓く 内閣府宇宙戦略室、 準天頂衛星システムサービス(株)、 経済産業省、 (独)宇宙航空研究開発機構、 (一財)衛星測位利用推進センター、 (一財)日本宇宙フォーラム、IMESコンソーシアム	26 (株)リプロ
2 日本スペースイメージング(株)	13 (株)ヘミスフィア	27 (株)マブコン
3 (株)日立製作所、 (株)日立アドバンストシステムズ、 (株)日立産機システム、 (株)日立ソリューションズ	14 (株)パスコ	28 (株)ゼンリン
4 アイサンテクノロジー(株)、 三菱電機(株)	15 (株)イメージワン	29 ESRIジャパン(株)
5 総務省統計局 (独)統計センター	16 インクリメントP(株)	30 ビジोटেকス(株)
6 総務省	17 (株)ゴーガ	主催者コーナー (公社)日本測量協会、 (一社)全国測量設計業協会連合会、 (一社)日本測量機器工業会、 (公財)日本測量調査技術協会
7 (独)産業技術総合研究所	18 国際航業(株)	31
8 (一財)日本建設情報総合センター	19 リーグルジャパン(株)	32 (株)コア
9 (一社)日本リモートセンシング学会	20 タマヤ計測システム(株)	33 (株)NTTデータ
10 (公社)日本測量協会	21 (株)アスコ	34 日立造船(株)
11 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 (株)イマジックデザイン	22 朝日航洋(株)	35 日本インターグラフ(株)
	23 (株)岩根研究所	36 (株)フォーラムエイト
	24 バックスインターナショナル	37 (一財)日本情報経済社会推進協会
	25 アジア航測(株)	38 (一社)日本測量機器工業会
		39 (独)防災科学技術研究所
		40 (独)国立環境研究所
		41 国土地理院

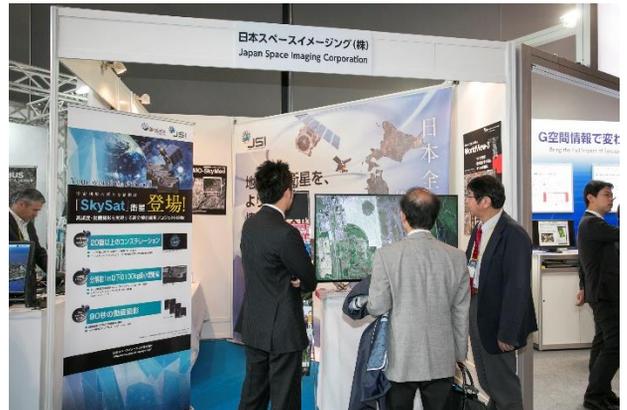
1. 東京スポットイメージ株式会社

航空宇宙産業の世界的第一人者であるエアバスグループに属する東京スポットイメージは、衛星データをベースにしたプロダクト、サービス及びソリューションをご提供しています。この度は高分解能衛星画像（SPOT 6&7とPléiades 1A&1B）と関連プロダクト、活用事例、そして3D都市モデル作成ソフトを紹介しました。SPOT6&7とPléiadesは同じ軌道で運行しており地球上のどこでも毎日観測できるので、農業、森林、地図作成、防衛、都市計画といった様々な分野で目的に合わせたご利用が可能です。また、3D都市モデル自動生成システムのStreet Factory™は3D都市モデル作成のための、オブリーク画像・ストリート画像の迅速且つ完全な自動処理を可能にするソリューションです。



2. 日本スペースイメージング株式会社

日本スペースイメージングは、地球観測衛星を利用者のニーズに合わせて最適運用し（撮影サービス）、画像作成・付加価値処理（衛星画像製品）、配信・解析（地理空間情報サービス）しています。これらの製品・サービスの組み合わせによって、費用対効果の高い、より身近な情報ソースとして地球観測衛星が普及するよう、利用のお手伝いをしています。本展示会では、2014年8月に打上った世界最高分解能31cmを誇るWorldView-3衛星、世界初の動画撮影機能を有するSkySatを中心に衛星画像・動画の利用事例を紹介しました。



3. 株式会社 日立製作所 / 株式会社 日立アドバンスドシステムズ / 株式会社 日立産機システム 株式会社 日立ソリューションズ

日立グループでは、"G空間"を社会インフラの一つと捉え、屋内外での測位・地図・分析に関する技術やノウハウを活用しG空間情報の利活用ビジネスを推進しております。また、人やモノの位置を把握することで状況を可視化でき、様々な課題解決の糸口を見つかることができると考えております。本展示では、日立グループのG空間関連の製品、ソリューションを紹介しました。



4.三菱電機株式会社 / アイサンテクノロジー株式会社

三菱電機が開発した三菱モバイルマッピングシステム (MMS)は、車両の上部にカメラとレーザースキャナを搭載し、道路を走行するだけで、道路周辺の画像と、絶対精度10cm以内、相対精度1cmレベルの3次元点群データを収集することが出来ます。MMS は公共測量を始め、近年では道路インフラの維持管理への利用が活発化しております。またITS 業界においても、高精度ドライブシミュレータ用データ作成や、安全運転支援用の地図作成等の実績があり、活用フィールドは年々拡大しております。今年3月に国土交通省より公開された“新たな「国土のランドデザイン」”にも登場するMMSと、併せて準天頂衛星関連サービスも紹介しました。



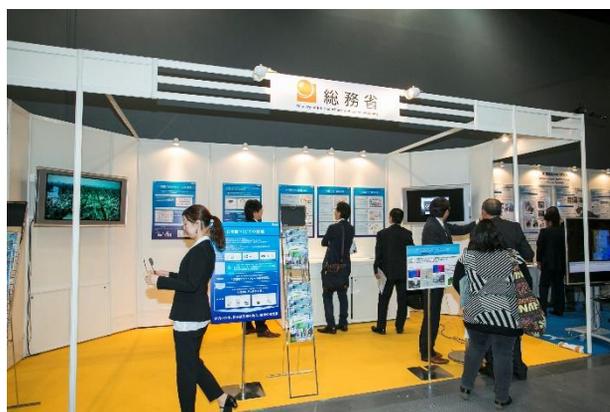
5.総務省統計局 / 独立行政法人 統計センター

総務省統計局、独立行政法人統計センターは、各府省等が公表する統計関係の情報を集約し、統計データの検索、地図表記、ダウンロード等の機能を備えた政府統計の総合窓口 (e-Stat) を運用しており、地図で見る統計 (統計GIS) では、統計データのグラフ表示、集計、印刷等の機能を備え、高度利用を可能とするデータ提供も行っています。更なる展開として、ユーザーの保有データを取り込んで分析する機能や任意に指定したエリアにおける統計算出機能を備えた次世代統計利用システムを構築し、試行運用を行っているところです。本展示ブースでは、政府の統計の総合窓口 (e-Stat) と次世代統計利用システムの統計GISの概要及びツール類について紹介しました。



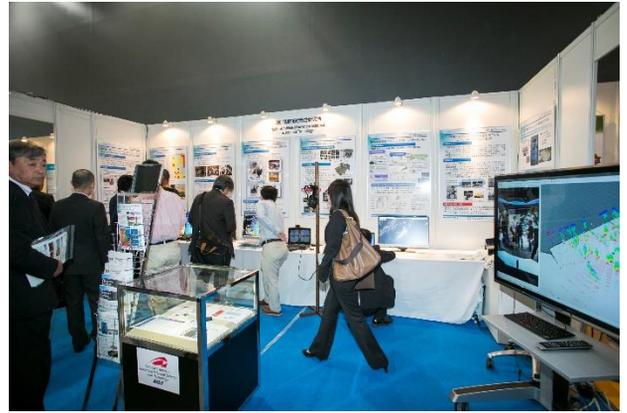
6.総務省

総務省では、G空間情報をICTにより高度に利活用することによって新たな付加価値創造と様々な課題解決をすることを目的に、「G空間×ICT」の取組を推進しています。今回の出展では、総務省の取組を中心に、G空間×ICTの最新技術を紹介しました。



7. 独立行政法人 産業技術総合研究所

屋内測位や人流計測といった人間行動のセンシング、知的モビリティのための3次元地図構築、衛星画像の即時配信といった応用を目指した研究から、センシング情報からの特徴量抽出、機械学習、それを処理するための情報基盤技術といったG空間情報を扱うための基礎的な研究に至るまで産総研で進めているG空間に関する研究開発事例を幅広く紹介しました。



8. 一般財団法人日本建設情報総合センター

JACICでは現場で発生する様々な課題の解決を支援できるよう幅広く研究開発を推進しています。

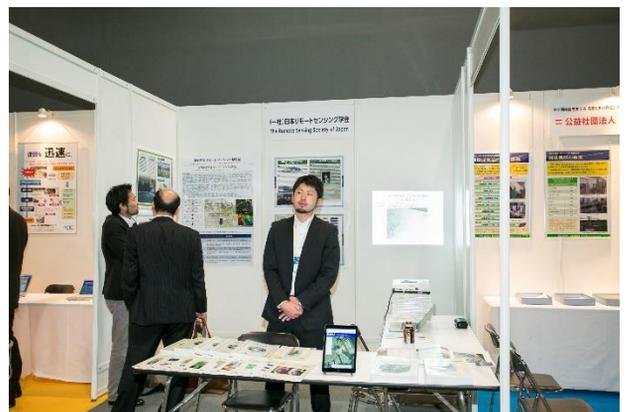
今回JACICブースでは、

1. 災害復旧効率化支援システムPhotog-CAD
 2. CIMとGISのためのショーウィンドー
 3. 建設副産物・発生土情報交換システム
- の3つを紹介しました。



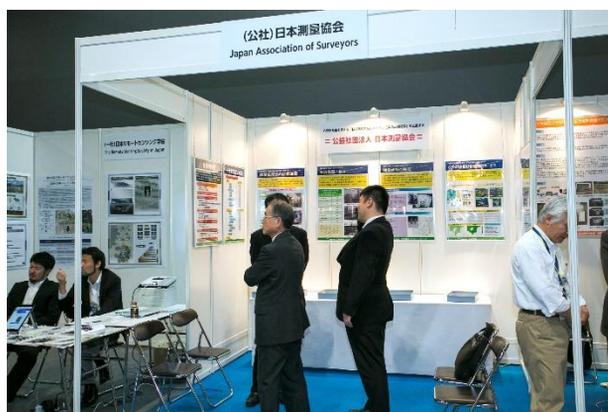
9. 一般社団法人 日本リモートセンシング学会

学会ポスター、研究会ポスター、リモートセンシング学会書籍（日本語版、英語版）を展示しました。



10.公益社団法人日本測量協会

公益社団法人日本測量協会測量技術センター及び支部技術センターが実施している測量機器・測量成果検定等の検定、調査、コンサルタント業務及び衛星測位情報の提供サービス等の事業について、パネル展示の形式で紹介しました。



11.独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 株式会社イマジックデザイン

共有と連携を目指した3次元GIS「VIMS」と新製品のモバイルGIS「iVIMS」を展示します。VIMSで構築したマップデータ、属性テーブル、関連付けされたファイルもiVIMSに転送して現場に持ち出せます。履歴管理がしやすいため、施設の点検管理や営農管理に適しています。災害調査では内蔵のカメラとGPSでGISデータとして保存、VIMSサーバーにメールで送信すると、VIMSクライアントで共有・連携できます。AR（拡張現実）でGISデータを見ることで、施設や地中埋設物の位置確認ができるのも大きな特徴です。住民参加の地域づくりとGIS、自主防災マップ、復旧・復興・災害対応についても展示しました。



12.内閣府宇宙戦略室／準天頂衛星システムサービス株式会社 / 経済産業省 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 / 一般財団法人衛星測位利用推進センター 一般財団法人日本宇宙フォーラム／IMESコンソーシアム

ゾーン展示 「宇宙技術でG空間社会の未来を拓く」
地球を測る宇宙技術の紹介とともに、H-IIAロケット模型、各種衛星模型等を展示しました。

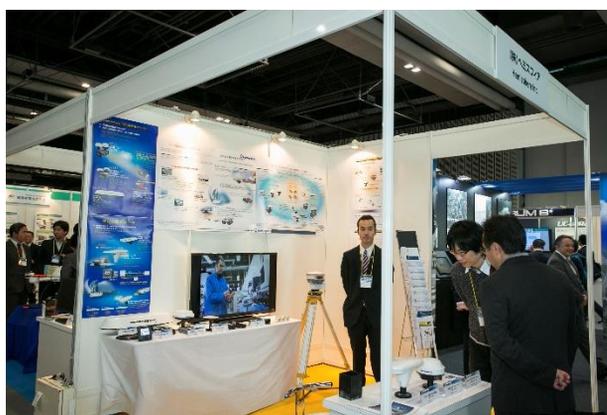
- ◆地球上の位置や形を測り、そこに正確に必要な情報をのせる
- ◆地球の営みを監視する



13.株式会社ヘミスフィア

「Hemisphere GNSS」に社名変更してMulti-GNSS 製品を開発する Hemisphere GNSS社の新ラインナップを紹介しました。

- ・“使い勝手”の良さを更に進化させた製品ラインのご紹介
 - －制御ファーム：MFAを実装し、操作・設定を簡略化
- ・新たにBeiDou(北斗)に対応した製品を投入し製品ライン拡充
 - －様々な環境に柔軟に対応する豊富なオプションを用意
 - VS/Vシリーズ・コンパス、R330/A325 GNSS受信機、および組込みシステム向けの各種モジュール製品を出展しました。



14.株式会社パスコ

最先端の空間情報の収集と加工・処理・解析技術によって、お客様の課題を技術で解決する空間情報サービスを提供しております。

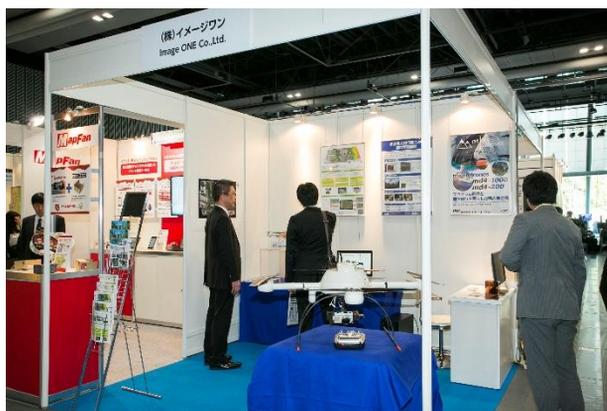
今回の展示では、人工衛星や航空機、車両を使った最先端の計測技術とその成果を紹介しました。

- 人工衛星、航空機、UAVを活用した災害モニタリング
- UAVやレーザー計測を活用した文化財の三次元計測
- 航空写真と車両計測（MMS）を活用した高精度三次元都市・道路モデル



15.株式会社 イメージワン

当社は高付加価値の地理空間情報を作成するためのツールとして、UAVや画像処理ソフトウェアなどを組み合わせることにより、農業、環境、防災、写真測量など様々な分野で利用が可能な商品や各種サービスをご提供しております。今回は空中写真を精密な3Dモデルに自動で処理をするスイスPix4D社製ソフトウェア「Pix4Dmapper」と、ドイツmicrodrones社製小型無人飛行機の展示を行いました。



16. インCREMENT P 株式会社

スマホ向け地図アプリ「MapFan」や高性能カーナビ「carozzeria」を手掛ける弊社が培ってきた、デジタルで利用されることに特化した地図データや、アプリ開発技術を基に、最新サービス・ソリューションを紹介しました。RPG風や古地図風にもカスタマイズ可能な地図APIや、3D標高データのデモ、イラストマップをベースにした、新しいナビゲーションの提案などをはじめ、リアルな位置情報を使った「位置ゲー」、本格的ARナビアプリと簡易ヘッドマウントディスプレイを使った、バーチャルリアリティをお楽しみいただけるデモコーナーも用意しました。



17. 株式会社ゴーガ

Google Mapsを使った店舗検索、動態管理、商圈分析等の業務効率化システムを展示しました。店舗検索システムでは、地図を使った店舗誘導で、お客様の来店増加に繋がります。動態管理システムでは、車両、社員、スマートフォンなどの移動体を地図で管理し、業務効率化を促進します。商圈分析システムでは、自社の顧客情報に統計データ等を重ね、情報の可視化を実現します。その他、日本およびアジアパシフィック地域での、Google Maps分野における最優秀パートナーとしてJAPAC Partner of the Yearを授与した弊社ならではのソリューションを紹介しました。



18. 国際航業株式会社

防災・減災、観光振興に役立つARによる各種情報提供の技術を紹介しました。



19.リーグルジャパン株式会社

- ◆地上型3Dレーザースキャナー
 - ・地上にレーザースキャナーを固定し、安全に離れた位置から非接触、ノンプリズムで大量点群データを取得します。従来の「単点」の測量ではなく、短時間に大量かつ「面的な」3次元空間の座標を取得する計測技術です。
 - ・1,400mまで計測可能な「RIEGL VZ-1000」の実機を展示し、実際に計測の様子とデータがその場でご覧いただきました。また、様々な計測データのアニメーションを紹介しました。
- ◆UAV搭載型レーザースキャナー
 - ・今話題のUAV (Unmanned Aerial Vehicle) に搭載可能な超小型・高性能レーザースキャナー「RIEGL VUX-1」を紹介しました。



20.タマヤ計測システム株式会社

- タマヤ計測システムでは、G空間の原点である測量機の製造から販売に携わって来ましたが、今回は特にZ方向にこだわった測量機を出展しました。
- 精密音響測深機TDM-BIII
一等デジタルレベルDiNi0.3+新型水準測量用データコレクターLC-4000
鉛直レーザー-FG-LL30 (天頂器)、FG-LL32 (天底器)



21.株式会社アスコ

- UAV
GNSSアンテナ・ジャイロ・デジタルカメラ等の計測機器を搭載し、高度から撮影を行う。撮影画像より画像相関法による3Dモデルおよびオルソデータの作成を行う。
- ・従来の航空機よりも小規模な地域の撮影に適している
 - ・災害現場などの立入が困難な場所での撮影が可能
 - ・平面図の作成や3Dモデル化し任意の箇所での断面図が取得出来る
- MMS
GNSSアンテナ・IMU・360°カメラ・360°レーザースキャナを搭載し、レーザーデータ (三次元点群データ) と写真画像データを取得する。
- ・新規平面図作成および経年変化箇所の抽出
 - ・任意箇所での断面図作成
 - ・視距改良、道路完成イメージ、交通規制イメージ動画等のCGパースへの利用



22.朝日航洋株式会社

MMSブラウザは、モバイルマッピングシステム（MMS）で取得したデータを閲覧するクラウド型Webシステムです。

- 機能
 - ・全方位画像の閲覧
 - ・走行映像（ハイビジョン動画）の閲覧
 - ・レーザ点群データ（鳥瞰図、縦横断面図）の閲覧
 - ・路面オルソ画像の閲覧
- 動作環境
 - ・インターネット接続
 - ・Webブラウザ（モダンブラウザ対応、端末、OSの種類は問いません）
 - ・クライアント端末側のインストール不要



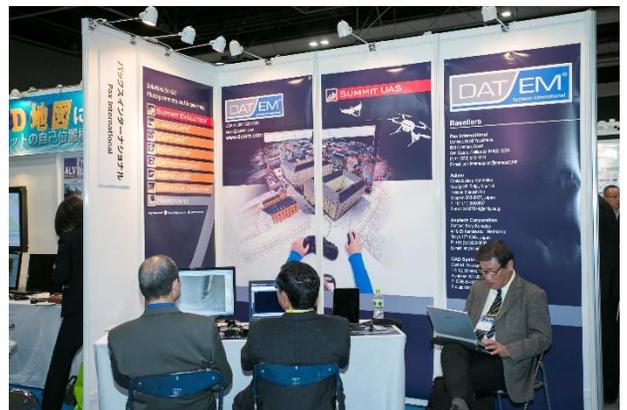
23.株式会社岩根研究所

- 移動計測装置
 - DualCam IMS3 画像型の移動計測装置
 - DualCam+ IMS4 画像型の移動計測装置
高精度GPS無しで高精度実現
全周囲画像+高精細画像で見たい
所を見て高精度に計測
 - DualCam IMS5 画像型の移動計測装置
- Robot Eye Walker 4D 画像型の歩行計測装置
…室内高精度計測
- SPIDER（参考出展）UAV（無人航空機）
…CV技術をUAVに搭載予定
- 応用アプリケーション
 - WebALP3.0 3次元WebGISを容易に実現
 - LV for ArcGIS3次元GISを容易に実現
 - MapOn3D 全周囲映像からCADデータ作成他3次元
形状取得



24.パックス インターナショナル

DAT/EM System International 社はデジタル航空写真、地上写真、衛星写真等を使用して地図作成、オルソ画像、MMS地図作成等の多目的な用途達成の為にSummit Evolution、Landscape、Dgn Dwg Capture、MapEditor、Ortho+Mosaic、Contour Creator等の製品を開発しております、またサポートチームも迅速に対応する為に安心して活用できます。



25. アジア航測株式会社

アジア航測は、名前が示すように「航空写真測量」を創立以来の基幹事業としており、広域の地形情報を精密に収集しています。本年度の展示会は、弊社が注力する3D事業製品を展示・紹介しました。

1. 三次元表示システム

斜め写真システム等で作成した3Dモデルを弊社で独自開発したソフトウェアにて紹介しました。

2. 斜め写真システム

3Dモデルを作成する写真の取得方法をご紹介します。

3. 3Dモデリングサービス

写真撮影から3Dモデル作成までの一連のサービスを紹介します。



26. 株式会社 リプロ

境界杭一筋43年。リプロのプラ杭は地上のしるしとして、皆さんの財産を守るお手伝いをして参りました。

リプロの「プラ杭」が選ばれる理由は、その1 確かな品質

(40年の実績と確かな技術、自社工場でJIS規格に対応した高品質の製品)、その2 作業性アップ(コンクリート杭に比べ軽量で輸送コストを削減でき経済的、さらに独自のリサイクルシステムにより再利用可能で環境にやさしい)、その3 付加価値(ICタグ、センサを内蔵した情報杭による杭の一元管理と大切な土地を守ります)になります。リプロ杭のみの付加価値、品質の良さをアピールするとともに「杭から知る・伝える・防ぐ」をテーマに皆さんにわかりやすく説明する仕組みをたくさん用意しました。



27. 株式会社 マフコン

弊社は地理空間情報時代の主役、地理情報システムの開発会社です。地理的な情報を総合的に管理、分析、運用する地理情報システム(GIS)ソフト「PC-MAPPING」をご紹介します。地図を創るから始まり、デジタル化された地図は様々な分野や用途で活躍し可能性は限りなく広がります。多様化する利用する環境では、64ビットOSに完全対応し、Web対応、クラウド対応、シンクライアントやターミナルサービスに至るまで幅広く対応している国産自社開発製品です。地理空間情報時代ではデータベース、周辺機器との連携も不可欠であり、MMSに代表される3DデータやGPS、タブレットPCや携帯端末などの対応も行っております。



28.株式会社ゼンリン

ゼンリンでは、実際の街並みを再現した、『3D都市モデルデータ』を使用し、制作したゲームを展示しました。

◆3D都市モデルデータ

ゼンリングループが以前より独自フォーマットで整備してきたカーナビゲーション向け3D地図データを3D・CG関連ソフトウェアで利用可能な汎用的3Dフォーマット「FBX形式」に変換したデータです。ゲームや景観シミュレーションなどにご活用いただけます。



29.ESRIジャパン株式会社

ESRI（エスリ）ジャパンでは、デスクトップ、サーバ、クラウド、モバイル、カスタムアプリケーションなど、幅広い環境で利用可能な GIS（地理情報システム）ソフトウェア、「ArcGIS」（アーク・ジー・アイ・エス）の展示を行ないます。

クラウド型の GIS サービスである「ArcGIS Online」（アーク・ジー・アイ・エス・オンライン）を中心に、スマートフォンを利用した屋外での情報収集アプリケーションや、マップと各種メディア（写真、動画など）を用いてさまざまなストーリーを語る事ができる「ストーリー マップ」など、位置情報の利用を身近なものにするソリューションを紹介しました。



30.ビジオテックス株式会社

最高レベルのBathymetry機能を新しく加え、すべての関連するデータが処理できる（SSS/SBP/Magnetometer）マッピングソフトウェア SonarWiz5（米国Chesapeake Technology Inc社製）を展示しました。作業効率（省力化）2倍、操作性に優れた特徴を有し、全世界で2800本、日本では80本を超えるライセンスが使用される実績のあるソフトウェアです。Bathymetry機能は去年10月に正式リリースされ徹底してユーザー様のご要望に即して改善が加えられ、最高レベルのAll-In-OneマッピングソフトウェアとしてV5.07.0005を9月に正式にリリースしました。Bathymetry/SSS/SBP/Magnetometerデータが同一ソフトウェア上で処理できます。



31.主催者コーナー

公益社団法人日本測量協会 / 一般社団法人全国測量設計業協会連合会
一般社団法人日本測量機器工業会 / 公益社団法人日本測量調査技術協会

主催者コーナーでは、MR技術による3Dの世界を体験していただきました。
各出展者より提供していただいた3Dデータで現実と仮想を融合した世界を臨場感ある映像で見ることができました。



32.株式会社コア

- ・「QZS+GPS」シリーズ：準天頂衛星からのGPS補強信号、補完信号を受信可能。メートル精度の自立測位を評価できる高精度受信機。
- ・多周波RFデータストリーマー：GNSSが放送する信号をダウンコンバート後、A/D変換したデータをPCに記録する装置。GNSSの実証研究で、様々な用途に利用可能。
- ・ソフトウェアLEXデコーダ：QZS（準天頂衛星）のLEX信号（cm級測位用補強信号）を受信し、高精度補正情報を取得可能。全ての処理をソフトウェアで実現。
- ・ソフトウェアGNSS受信機：L1、L2、L5帯域のデータをファイルに保存。事後処理にて信号処理から測位演算までをソフトウェアで実現。



33.株式会社NTTデータ

株式会社NTTデータは、米国DigitalGlobe（DG）社の国内総代理店として公共・民間市場においてDG社の衛星画像・サービスを提供しています。DG社は今年の8月に最新の衛星であるWorldView-3の打ち上げに成功し、世界最高峰となる30cm解像度の衛星画像の提供開始に向けて準備を進めています。NTTデータは NTT空間情報株式会社と共にDG社の高い解像度と位置精度を誇る衛星画像・サービスを提供するとともに、これらを活用した高品質で使いやすい付加価値サービスを提供します。また、世界で初めて5m解像度で全世界の陸地をカバーするDEMデータである「全世界デジタル3D地形データ」も提供しています。本製品は独立行政法人宇宙航空研究開発機構の陸域観測技術衛星「だいち（ALOS）」に搭載されたPRISMにより3方向から撮影された画像を用いて作成されており、解像度のみならず位置正確度、品質に優れた3次元地形データです。



34. 日立造船株式会社

日立造船が長年培ってきた衛星測位技術のノウハウに基づいた、防災・減災、安心・安全なシステムを紹介しました。地震・火山、地すべりをはじめ、防災・気象・海洋分野でのモニタリング観測・運用・保守までトータルにサポートするシステムを提供します。物流、交通、製造の各シーンにおいては、高精度測位をはじめRFID、ジャイロ、レーダーなどの各種センシング複合技術で、シームレスな移動体ソリューションを提供します。



35. 日本インターグラフ株式会社

弊社のサーバ(ERDAS APOLLO, Mobile Alert)、及び地理空間情報 (GeoMedia, ERDAS IMAGINE) ソリューションを中心に展示します。高速画像配信サーバ製品であるERDAS APOLLOではAmazonクラウド(AWS)上で構築したデモをお見せしました。煩わしいサーバ運用から解放や使っただけ支払うことによるコスト節約等の長所があります。

この他にも、市民がスマートフォンから自治体に情報提供できるクラウドサービス(Mobile Alert)や、GeoMedia、ERDAS IMAGINEの最新情報についても展示しました。



36. 株式会社フォーラムエイト

3次元バーチャルリアリティソフトUC-win/Roadを中心として、各種土木設計ソフトや構造設計・構造解析ソフト、クラウドシステムとの連携を図り、CIMに関わるソフトウェアや技術サービスソリューションの紹介、GISファイルや点群データによる3次元空間モデリングを紹介しました。

- 3次元リアルタイムバーチャルリアリティ「UC-win/Road」
- 3DVRをクラウドで実現VR-Cloud(R)・体験プレゼント実施
- 3D空間への没入性を向上させたOculus Rift
- 3Dレーザスキャン・モデリングサービス
- 3D模型サービス
- 3D図面作成・3D配筋図面
- 土石流シミュレーション・落石シミュレーション



37.一般財団法人日本情報経済社会推進協会 / gコンテンツ流通推進協議会

JIPDECが事務局を務めるgコンテンツ流通推進協議会は、「位置情報に関係したコンテンツ」(gコンテンツ)の流通・利用環境の整備、新規ビジネスの創出等による豊かな社会の実現を目指し、平成15年度より、各種委員会活動、情報発信・提言活動等を続けてまいりました。近年、インターネットの進展やスマートデバイスの普及等により、地理空間情報の利活用にますます注目が集まっています。本展示ブースでは、gコンテンツに関する各種政策の最新動向や、会員企業の最新の取り組みを紹介しました。



38.一般社団法人日本測量機器工業会

測量機器と情報化通信技術(“ICT”)の融合が実現した土木・建設施工の革命
情報化施工とは建設工事の調査設計から維持管理までの一連の建設生産プロセスの内、「施工」に注目しICT(情報通信技術)により得られるデジタルデータを活用して、効率的で高精度な施工を実現することで建設生産プロセス全体の生産性の向上や品質の確保を目的としたシステムです。今回は、この情報化施工システムの中で重要な役割を果たす測量機器がICT(情報通信技術)とどのように融合し、利活用され施工の生産性向上と品質確保に役立っているかをパネルやトータルステーションとブルドーザーの模型を使って展示説明しました。



39.独立行政法人防災科学技術研究所

- ①PCやスマートフォンから地震動予測地図や地すべり地形分布図が閲覧できる「地震ハザードステーション」と、WEB上でボーリングデータ等が閲覧できる「ジオ・ステーション」の紹介しました。
- ②オープンソースWeb-GISを含むウェブシステム「eコミュニティ・プラットフォーム」をはじめ、自治体災害対応業務を支援する情報システム「官民協働危機管理クラウドシステム」や「見守り情報管理システム」等を紹介しました。



40. 独立行政法人国立環境研究所

◆ 環境情報をわかりやすくご提供

独立行政法人国立環境研究所では、「環境展望台」(<http://tenbou.nies.go.jp/>)というWEBサイトを公開し、環境に関する情報をわかりやすく提供することに努めています。

今回は、そのコンテンツの一つである「環境GIS」について、解説パネルやPCを使って紹介しました。

「環境GIS」では、日本国内における環境の状況（大気汚染や水質汚濁など）や環境指標・統計（人口分布シナリオなど）をはじめとする様々なデータをGIS技術により地図やグラフで表示し、わかりやすく提供しています。



41. 国土交通省国土地理院

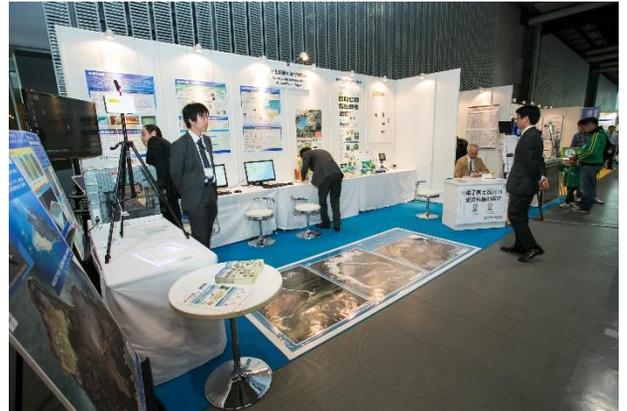
【電子国土賞】

国土地理院の電子国土基本図等の各種データを活用し、地理空間情報の高度活用社会の形成に貢献するGISソフトウェア及びGISコンテンツの中から、特に優れたものを『電子国土賞 2014』展示ブースでは、受賞作品を紹介しました。

【G空間社会の実現に向けて】

国土地理院は、国民が安全・安心・豊かな生活を営むことが出来るための環境整備として「G空間社会」の推進に積極的に取り組んでいます。

展示ブースでは、「地理院地図」、「電子国土基本図」をメインに「地理院地図 3D」、「携帯端末を用いた防災アプリ」などを身近に感じてもらえるように、映像・デモ等で紹介しました。



■ 測量コンテスト

3人一組のグループが、目標物の大きさ、又は距離を測り、2時間以内に報告書を提出してもらいました。

【主催】

公益社団法人日本測量協会

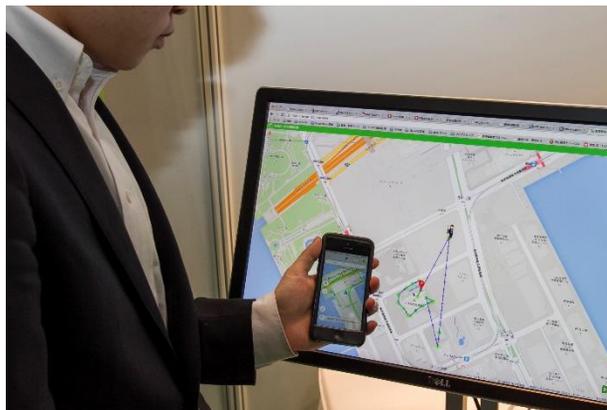


■ 動態管理サービスや店舗検索システムを体験

弊社動態管理サービス『ugomeki』アプリをその場でインストールしていただき、ご自身の移動経路を確認していただきました。また、店舗検索システム『GOGA Store Locator』、その他弊社地図システムのデモ体験をブース内で実施しました。

【実施者】

株式会社ゴーガ



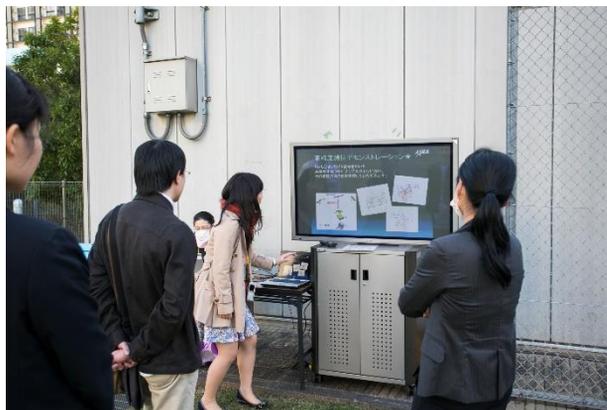
■ 「みちびき」による高精度な測位を体験

地上型 3Dレーザースキャナーで計測されたデータを活用して、AR (Augmented Reality - 拡張現実) 体験していただきました。

タブレット端末を印刷物にかざすと 3D点群データが表示され、あらゆる角度から観る事ができました。

【実施者】

リーグルジャパン株式会社



■ 3DレーザースキャナーデータでAR体験

地上型 3Dレーザースキャナーで計測されたデータを活用して、AR（Augmented Reality - 拡張現実）体験していただきました。

タブレット端末を印刷物にかざすと 3D点群データが表示され、あらゆる角度から観る事ができる体験をしていただきました。

【実施者】
リーグルジャパン株式会社



■ 端末やタブレットによる操作体験

- ・端末によるe-Stat及び次世代統計システム（統計GIS）の操作を行っていただきました。
- ・タブレットによる、「アプリDe統計」の操作を行っていただきました。

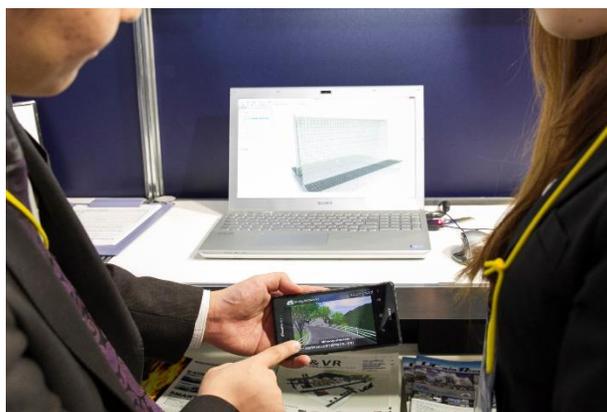
【実施者】
総務省統計局
独立行政法人統計センター



■ VRモデリングした3次元空間をスマートフォンで体験

VRモデリングした3次元空間をスマートフォンにて容易な操作で空間内の視点移、運転走行、3DVR空間におけるディスカッションの作成・編集、共有を体験していただきました。その他に、3次元図面表示をサポートした土木CADクラウド「3D配筋CAD for SaaS」を用いて、CIM時代を先取りした現場ツール、干渉チェックを体験していただきました。

【実施者】
株式会社フォーラムエイト



■ 知的モビリティに搭乗し、運転することができる体験イベント

知的モビリティに搭乗し、運転することができる体験イベントを行いました。

知的モビリティに乗って走行しながら画像や慣性情報を収集することで、走行と同時に周辺の環境や路面状況などをセンシングすることができます。経路から外れた場合や危険な運転をした場合には警告を出すことも可能です。

【実施者】

独立行政法人産業技術総合研究所



■ MR (ミクスト・リアティ) 技術で3次元体験

地理空間情報フォーラム主催4団体のコーナーにて、3Dワールドをお見せしました。出展者の皆様方から提供していただいた3次元データで、モニター画面では想像できないバーチャルな世界を体験していただきました。

【実施者】

公益社団法人日本測量協会

一般社団法人全国測量設計業協会連合会

一般社団法人日本測量機器工業会

公益社団法人日本測量調査技術協会



■ 宇宙を疑似体験

ミニステージにおいて、宇宙ステーションから撮像した地球の映像放映を計画しており、宇宙を疑似体験できるコンテンツを提供しました。

【実施者】

一般財団法人日本宇宙フォーラム



■ QZS屋内外で測位体験

屋内での位置を導出できる屋内測位（IMES）を利用し、屋内外でシームレスに位置がわかり、それに関連した情報を得ることで豊かな生活が送れることを体験できる「QZS屋内外（シームレス）測位体験（本小間内で受信機貸出）」を実施しました。

【実施者】

IMESコンソーシアム
東京エレクトロニクスシステムズ株式会社
測位衛星技術株式会社
一般財団法人衛星測位利用推進センター



■ Robot Eye Walker 4D タッチ&トライ体験

本商品は(株)岩根研究所と(株)U'sFactoryの共同開発商品です。
(株)岩根研究所独自のCV（カメラベクター）技術を用い、全周囲動画映像からカメラ位置を高精度に求め、座標値を持った3次元映像を作成します。
レーザー測量値でCV値を補正する事で、映像内の構造物を3次元CG化し、市販の3DCADに変換が可能な技術です。
本イベントでは実際に会場内を歩行計測して頂き、データ処理からCG作成・CAD図変換までを体験していただきました。

【実施者】

株式会社岩根研究所



■ バーチャルリアリティ体験

本格的ARナビアプリと簡易ヘッドマウントディスプレイを使った、バーチャルリアリティをお楽しみいただけるデモコーナーを設けました。

【実施者】

インクメントP株式会社



■ 距離を測る体験「歩測大会」



■ 「測量船」一般公開



■ 準天頂衛星自動販売機連携デモ



■ 自律走行ロボットカーデモ走行



【測量コンテスト参加チーム】

3人一組のグループが、目標物の大きさ、又は距離を測り、2時間以内に報告書を提出してもらいました。

No.	グループ名	学校名・企業名	参加部門
1	鹿田研究室チームA	金沢工業大学	自作機器
2	鹿田研究室チームB	金沢工業大学	自作機器
3	鹿田研究室チームC	金沢工業大学	自作機器
4	伏見エシビルクラブA	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
5	伏見エシビルクラブB	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
6	伏見エシビルクラブC	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
7	伏見エシビルクラブD	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
8	伏見エシビルクラブE	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
9	伏見エシビルクラブF	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
10	伏見エシビルクラブG	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
11	伏見エシビルクラブH	京都市立伏見工業高等学校	精密機器
12	ひらめき研究室	東京農業大学	自作機器
13	空間情報工学研究室	木更津工業高等専門学校	自作機器
14	チーム これもん	高知工科大学	精密機器
15	チーム どれもん	高知工科大学	自作機器

【測量コンテスト受賞チーム】

賞	団体名	チーム名	参加部門
総合優勝	伏見工業高等学校	伏見エシビルクラブC	精密機器
敢闘賞	伏見工業高等学校	伏見エシビルクラブF	精密機器
アイデア賞	金沢工業大学	鹿田研究室C	自作機
特別賞	高知工科大学	チームこれもん	精密機器



総合優勝：伏見エシビルクラブC



敢闘賞：伏見エシビルクラブF



アイデア賞：鹿田研究室C



特別賞：チームこれもん

ベンダーフォーラム（技術説明会）は、出展者他が技術や製品・サービスの専門的な詳しい内容を説明しました。



日本科学 未来館 1F	11/13 木	11/14 金	11/15 土
11:30		11:30~12:00 災害復旧効率化支援システム Photog-CAD (一財)日本建設情報総合センター	
12:00			
13:00	13:00~13:30 IM&VRソリューションと 3DVRエンジニアリングサービス (株)フォーラムエイト	13:00~13:30 日本スペースイメージングの提供する 衛星画像ラインナップ 日本スペースイメージング(株)	13:00~13:30 画像型移動計測装置と3Dソリューション (株)岩根研究所
14:00	13:45~14:15 これからのG空間社会に向けて ~地図会社だから貢献できること~(仮題) インクリメントP(株)	13:45~14:15 Pix4Dmapperによる複数の画像データを 合成した点群データの作成事例 (株)イメージワン	
15:00	14:30~15:00 タブレットを現地調査に役立てよう! (株)マブコン	14:30~15:00 タブレットを現地調査に役立てよう! (株)マブコン	14:30~15:00 タブレットを現地調査に役立てよう! (株)マブコン
16:00	15:15~15:45 3次元空間情報による 山間部境界確定の加速化 アジア航測(株)	15:15~15:45 4基の衛星によるコンステレーション 東京スポットイメージ(株)	
	16:00~16:30 画像型移動計測装置と3Dソリューション (株)岩根研究所	16:00~16:30 バスコGIS自治体クラウドサービスから はじまるオープンデータ (株)バスコ	

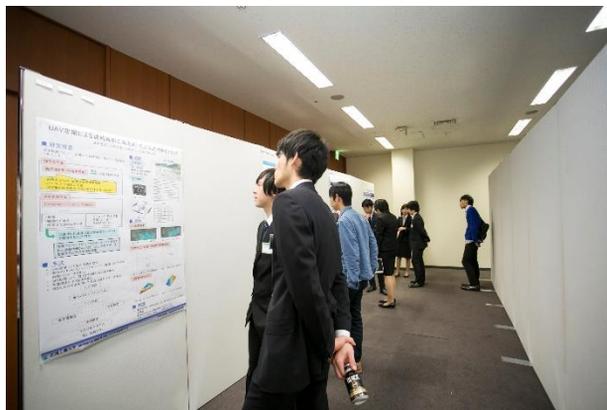
今年もG空間EXPOに合わせて、学生フォーラム2014を開催いたしました。学生フォーラムとは、地理情報分野のボトムアップを目的とした学生による学生のための学術交流の場です。学生が普段行なっている研究をポスター発表しました。

日 程 平成26年11月15日（土） 10:00-17:00

会 場 日本科学未来館 7F 会議室1

プログラム

10:00	受付開始
10:30	開会式
10:45	研究室紹介
12:00	昼休み
13:00	第1セッション（40分）
13:45	第2セッション（40分）
14:30	第3セッション（40分）
15:15	特別講演
16:45	閉会式
17:30	懇親会



A grayscale illustration of Earth from space. The Earth's horizon is visible, with a city at night glowing with lights. A satellite is in orbit in the upper left, and the moon is in the upper center. The background is filled with stars.

5. Geo アクティビティ フェスタ

■ Geoアクティビティフェスタ

世の中にある様々な地理空間情報（G 空間情報）に関する独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術、新たなサービス等について、展示や発表（プレゼン）を行う場を設け、関係者間の交流により G 空間情報の利活用の促進及び拡大に貢献することを目的とします。特に、これまで発表の機会の少なかった、中小事業者の製品や、ベンチャー企業の技術、教育機関での研究成果、個人レベルのアイデア、NPO の取組など、潜在的な G 空間情報の利活用事例を「発掘」することにより、新たなサービス・産業の創出や、既存サービス・製品の高度化・発展を目指します。

名 称	Geoアクティビティフェスタ
開 催 期 間	平成26年11月13日（木） 14日（金） 15日（土） 10:00-17:00
会 場	展示 : 1階 コミュニケーションロビー プレゼン : 7階 イノベーションホール 表彰 : 1階 シンボルゾーンのメインステージ

プレゼン・展示内容

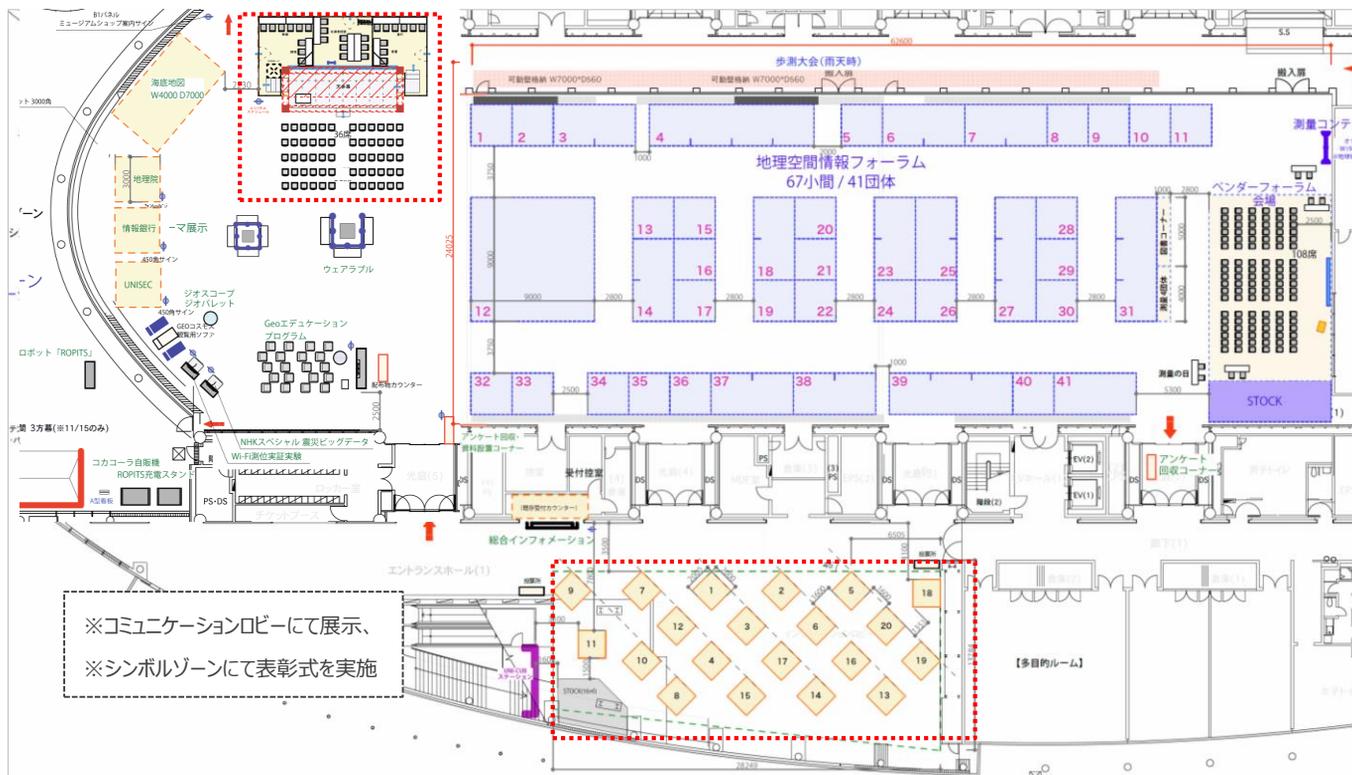
G空間情報を活用したアプリ、システム、機器、端末、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例等を対象（既存のサービス、製品や、完成途中のものやアイデア段階のものも含む）

審査委員一覧 ※順不同、敬称略

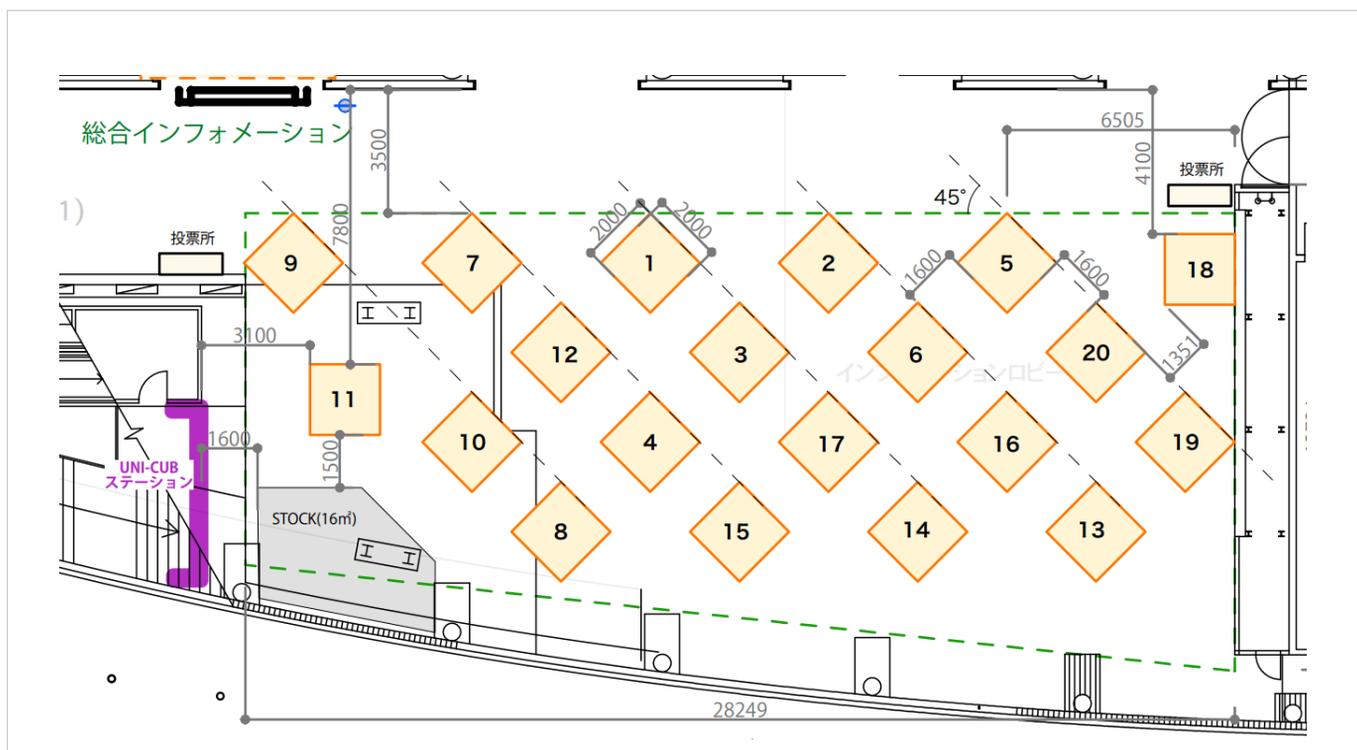
委員長	小泉 俊雄	千葉工業大学 工学部建築都市環境学科 教授
委員	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科 教授
〃	牧野 秀夫	新潟大学 工学部情報工学科 教授
〃	坂下 哲也	(一財) 日本情報経済社会推進協会 電子情報利活用研究部長
〃	津留 宏介	(公社) 日本測量協会 測量技術センター空間情報技術部長
〃	尾関 憲一	(株) NHKエンタープライズ制作本部情報文化番組エグゼクティブ・プロデューサー
〃	片岡 義明	フリーランスライター
〃	宮里 孝則	経済産業省 商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室長補佐
〃	宮元 康一	国土交通省 国土政策局国土情報課 地理空間情報活用推進官
〃	出口 智恵	国土交通省 国土地理院地理空間情報部 電子国土調整官
事務局		国土交通省 国土地理院企画部 地理空間情報企画室

会場レイアウト

[日本科学未来館 1F G空間EXPO2014全体レイアウト]



[日本科学未来館 1F コミュニケーションロビー]



出展者一覧

No	時間	発表作品名	プレゼンター名
	10:30~10:34	開会挨拶	
第1ブロック (10:35開始11:58終了)			
1	10:35~10:48	お父さんのための「今日どこいく? マップ」	あおき地理情報システム研究所 青木 和人
2	10:49~11:02	みんなで作る案内板データベース Monumento (モニュメント)	(株) まちクエスト 小川 智史
3	11:03~11:16	未来統計	株式会社楽しいチリビジ
4	11:17~11:30	地図が語る戦没者足跡	GIS沖縄研究室 渡邊 康志 沖縄タイムス社 與那覇 里子
5	11:31~11:44	D3.js を用いた地図の球面ディスプレイへの投影	(同) PhysVis 代表: 湯村 翼
6	11:45~11:58	タブレット+地図+帳票 これで現地から戻ってからの再入力が無くなった!	あっとクリエイション株式会社 松田 知久
第2ブロック (13:00開始14:09終了)			
7	13:00~13:13	地理・歴史教育を豊かにする伊能社中の新たな試み	NPO法人 伊能社中
8	13:14~13:27	地域資源 × G空間情報 - 地域の景観・伝説を再発掘、G空間を楽しもう! -	山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 倉田研究室 代表: 倉田 研治
9	13:28~13:41	地理空間情報により作成した背景地図を活用した 鳥瞰図及び観光地図アプリの作成	株式会社 武揚堂 北陸営業所 山田 勲
10	13:42~13:55	地図上での直感的な街歩きプランの作成を可能とする 対話的ツールCT-Planner	首都大学東京 倉田研究室 + 東京大学 原研究室
11	13:56~14:09	フィットネスバイクによる仮想スタンプラリーシステム「うごスタ」	近畿大学うごスタチーム 代表: 溝渕 昭二
第3ブロック (14:20開始15:29終了)			
12	14:20~14:33	地図データ管理クラウドサービス「SOCOCA (ソコカ)」	株式会社リサーチアンドソリューション ITプロダクトサービス部 永本 祐樹
13	14:34~14:47	ジオフェンスを活用した避難誘導アプリ	ESRIジャパン株式会社
14	14:48~15:01	地域防災マップ作成支援システム	GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会
15	15:02~15:15	写真測量による三次元自然地形計測ソフトウェア ImageMatch 3D	株式会社アモーガイメーシング 代表: 花嶋 正昭
16	15:16~15:29	地山崩壊の二次災害感知を対象とした 緊急通報システムの開発	関東測量協議会新分野開拓委員会 緊急通報システム部会 代表: 木名瀬 雅
第4ブロック (15:40開始16:35終了)			
17	15:40~15:53	小型有人ヘリによる空間線量の地図化 - 赤城大沼を事例に -	スカイマップ株式会社 三田 友規、井上 寛 国立環境研究所 野原 精一
18	15:54~16:07	地下街の高密度三次元点群データの利活用	愛知工業大学 工学部 中村研・山本研 代表: 安田 将康
19	16:08~16:21	測位・情報社会基盤プラットフォーム	防衛省 防衛大学校 電気電子工学科 浪江 宏宗
20	16:22~16:35	携帯型屋内3次元位置案内装置	新潟大学大学院・情報工学コース 代表: 中澤 陽平

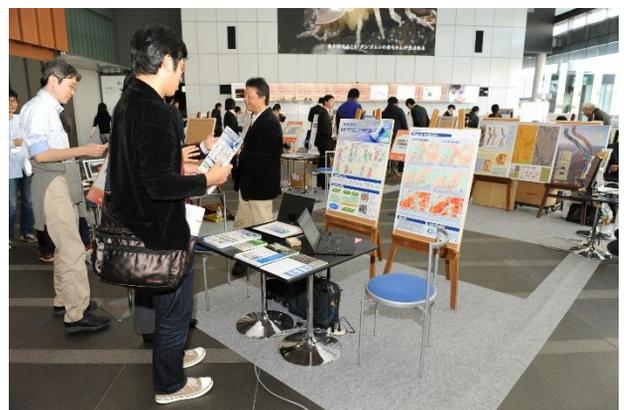
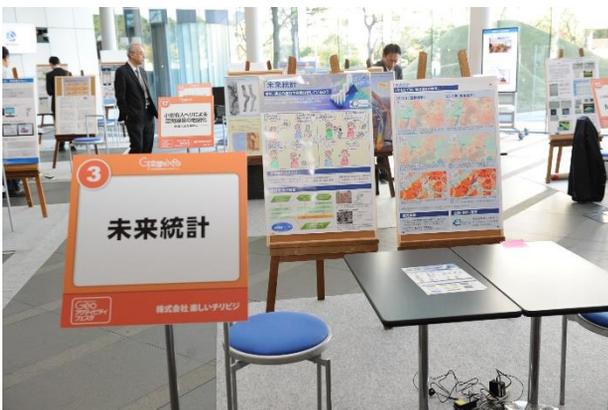
1. 発表作品名 お父さんのための「今日どこいく? マップ」
 プレゼンター名 あおき地理情報システム研究所 青木 和人



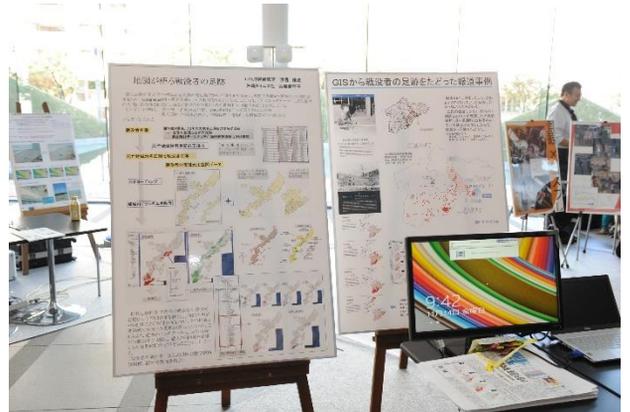
2. 発表作品名 みんなでつくる案内板データベース Monumento (モニュメント)
 プレゼンター名 (株) まちクエスト 小川 智史



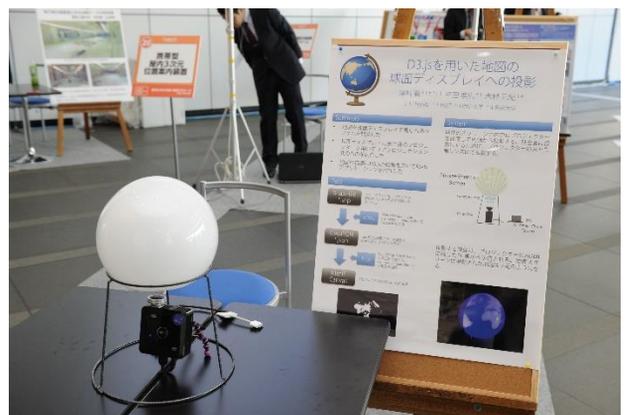
3. 発表作品名 未来統計
 プレゼンター名 株式会社楽しいチリビジ



4. 発表作品名 地図が語る戦没者足跡
プレゼンター名 GIS沖縄研究室 渡邊 康志 / 沖縄タイムス社 與那覇 里子



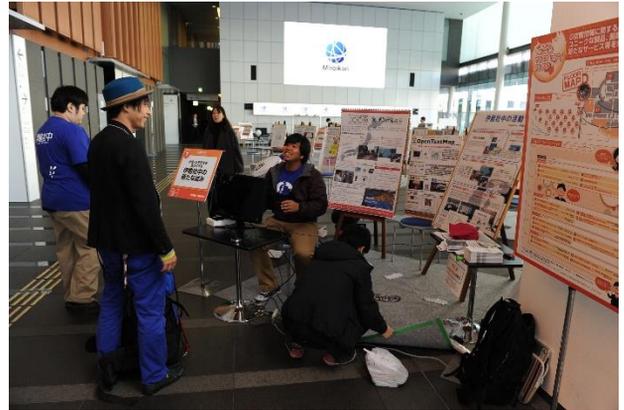
5. 発表作品名 D3.js を用いた地図の球面ディスプレイへの投影
プレゼンター名 (同) PhysVis 代表 : 湯村 翼



6. 発表作品名 タブレット+地図+帳票これで現地から戻ってからの再入力がなくなった！
プレゼンター名 あっとクリエーション株式会社 松田 知久



7. 発表作品名 地理・歴史教育を豊かにする伊能社中の新たな試み
プレゼンター名 NPO法人 伊能社中



8. 発表作品名 地域資源×G空間情報- 地域の景観・伝説を再発掘、G空間を楽しもう！
プレゼンター名 山口県立大学国際文化学部文化創造学科 / 倉田研究室 代表:倉田 研治



9. 発表作品名 地理空間情報により作成した背景地図を活用した鳥瞰図及び
 観光地図アプリの作成
プレゼンター名 株式会社 武揚堂 北陸営業所 山田 勲



- 10. 発表作品名** 地図上での直感的な街歩きプランの作成を可能とする対話的ツール
CT-Planner
プレゼンター名 首都大学東京 倉田研究室 + 東京大学 原研究室



- 11. 発表作品名** フィットネスバイクによる仮想スタンプラリーシステム「うごスタ」
プレゼンター名 近畿大学うごスタチーム 代表：溝瀆 昭二



- 12. 発表作品名** 地図データ管理クラウドサービス「SOCOCA (ソコカ)」
プレゼンター名 株式会社リサーチアンドソリューション ITプロダクトサービス部 永本 祐樹



13. 発表作品名 ジオフェンスを活用した避難誘導アプリ
プレゼンター名 ESRIジャパン株式会社



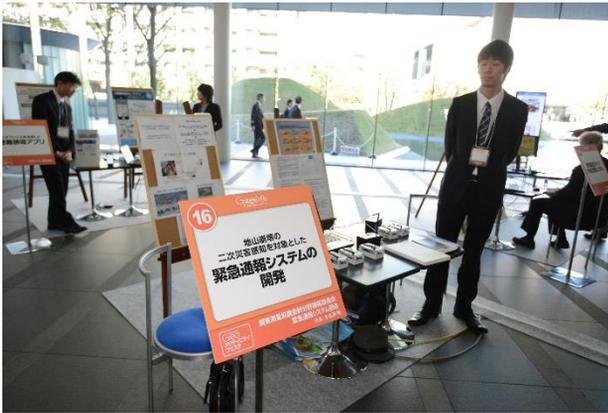
14. 発表作品名 地域防災マップ作成支援システム
プレゼンター名 GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会



15. 発表作品名 写真測量による三次元自然地形計測ソフトウェア ImageMatch 3D
プレゼンター名 株式会社 アモーガイメージング 代表：花嶋 正昭



- 16. 発表作品名** 地山崩壊の二次災害感知を対象とした緊急通報システムの開発
プレゼンター名 関東測量協議会新分野開拓委員会 緊急通報システム部会
 代表：木名瀬 雅



- 17. 発表作品名** 小型有人ヘリによる空間線量の地図化-赤城大沼を事例に-
プレゼンター名 スカイマップ株式会社 三田 友規、井上 寛 / 国立環境研究所 野原 精一



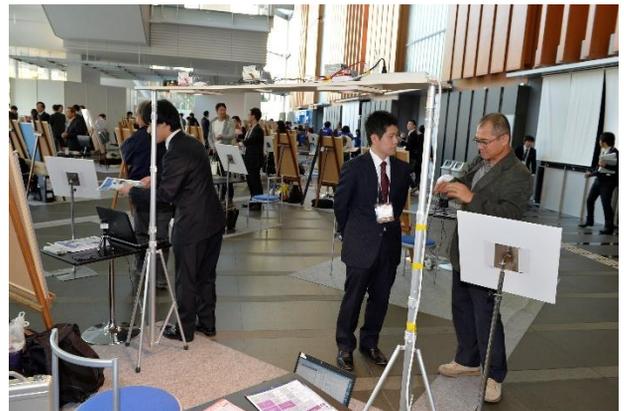
- 18. 発表作品名** 地下街の高密度三次元点群データの利活用
プレゼンター名 愛知工業大学 中村研・山本研 代表：安田 将康



19. 発表作品名 測位・情報社会基盤プラットフォーム
プレゼンター名 防衛省 防衛大学校 電気電子工学科 浪江 宏宗



20. 発表作品名 携帯型屋内3次元位置案内装置
プレゼンター名 新潟大学大学院・情報工学コース 代表：中澤 陽平

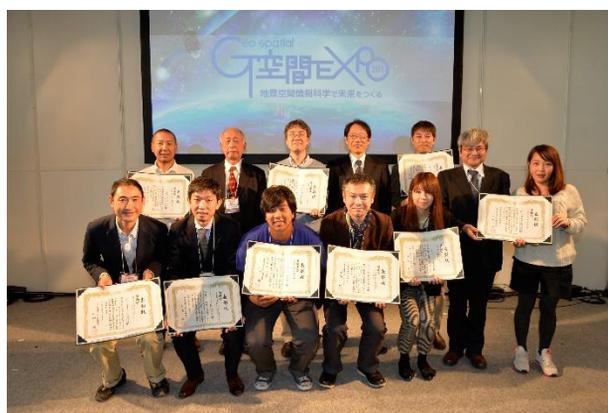


【その他：プレゼンテーションの様子】



【受賞作品】

	展示作品名	プレゼンター
Geoアクティビティフェスタ 最優秀賞	地図上での直感的な街歩きプランの作成を可能とする 対話的ツールCT-Planner	首都大学東京 倉田研究室 + 東京大学 原研究室
Geoアクティビティフェスタ 優秀賞	みんなでつくる案内板データベース Monumento (モニュメント)	(株) まちクエスト 小川 智史 様
	フィットネスバイクによる仮想スタンプラリーシステム 「うごスタ」	近畿大学うごスタチーム 代表：溝淵 昭二 様
Geoアクティビティフェスタ 奨励賞	お父さんのための「今日どこいく？マップ」	あおき地理情報システム研究所 青木 和人 様
	地図が語る戦没者足跡	GIS沖縄研究室 渡邊 康志 様 沖縄タイムス社 與那覇 里子 様
	地域資源 × G空間情報 - 地域の景観・伝説を再発掘、G空間を楽しもう！ -	山口県立大学 国際文化学部 文化創造学科 倉田研究室 代表：倉田 研治 様
	ジオフェンスを活用した避難誘導アプリ	ESRIジャパン株式会社
	小型有人ヘリによる空間線量の地図化 -赤城大沼を事例に-	スカイマップ株式会社 三田 友規 様、井上 覚 様 国立環境研究所 野原 精一 様
	測位・情報社会基盤プラットフォーム	防衛省 防衛大学校 電気電子工学科 浪江 宏宗 様
Geoアクティビティフェスタ 来場者賞	地理・歴史教育を豊かにする伊能社中の新たな試み	NPO法人 伊能社中



【受賞作品】

	作品名	受賞者名
電子国土賞 モバイル部門	Bump Recorder Web	バンプレコーダー株式会社 八木 浩一 様
	下田市津波 ハザードマップアプリ	株式会社中央ジオマックス 田中 尚行 様
電子国土賞 PC部門	LVSquare	アジア航測株式会社 小川紀一郎 様
	gittok (Geospatial Information Technology Tool Kit)	国際航業株式会社 太田 守重 様
電子国土賞 コンテンツ部門	「やまつみ」 紙で作る山岳立体模型の“やまつみ”シリーズ	有限会社キューアールシー 渡邊 啓広 様 北海道地図株式会社 秋山 一司 様
	HCC Craft	北海道地図株式会社 秋山 一司 様
電子国土功労賞	旭市 防災アプリケーション	千葉県旭市 様
	MapMakerシリーズ	森田 伸二 様
	「e・マップさむかわ」ニューバージョン	神奈川県高座郡寒川町 様





6. Geoエデュケーションプログラム

■ GeoEduケーションプログラム

- ①小・中・高等学校教員の方々を対象に、タブレット端末やGPSを用いて、デジタル地図を使った授業づくりの研修会を行いました。
- ②自治体職員、NPOの方々を対象に、G空間情報を活用した地域支援活動やオープンデータに関するセミナー・研修会を行いました。
- ③G空間EPOメッセージゾーン内にてGeoEduケーションプログラムの受付及び案内等を行うスペースならびに展示・体験イベントを実施するスペースを、設営し、運用しました。
- ④子供から大人までが楽しめる、G空間情報に関連する各種体験イベントを行いました。
- ⑤G空間EXPOのイベント企画と日本科学未来館の常設展示を、解説員と一緒に巡る会場ツアーを行いました。

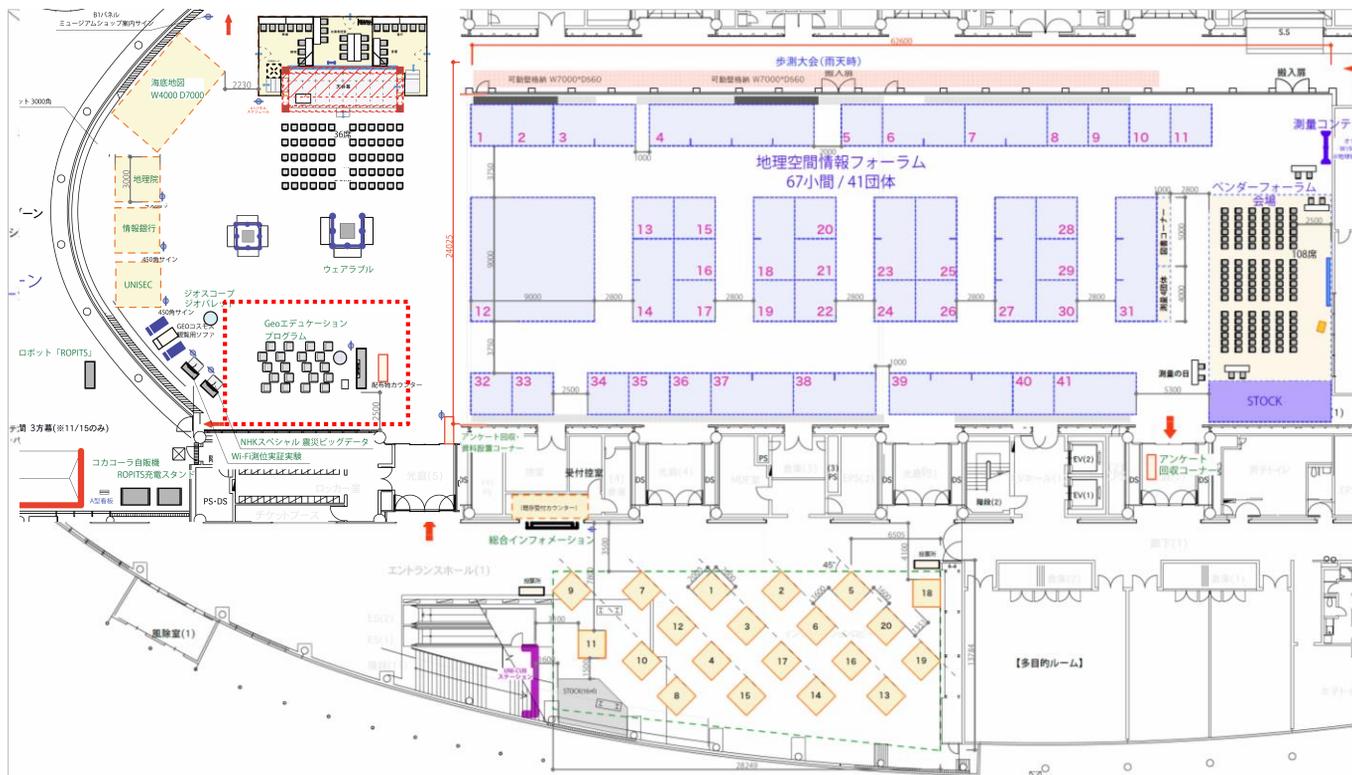
名 称	GeoEduケーションプログラム
開 催 期 間	平成26年11月13日（木） 14日（金） 15日（土） 10:00-17:00
会 場	7F会議室3及びメッセージゾーンGeoEduケーションプログラムブース 屋外スペース

実施内容

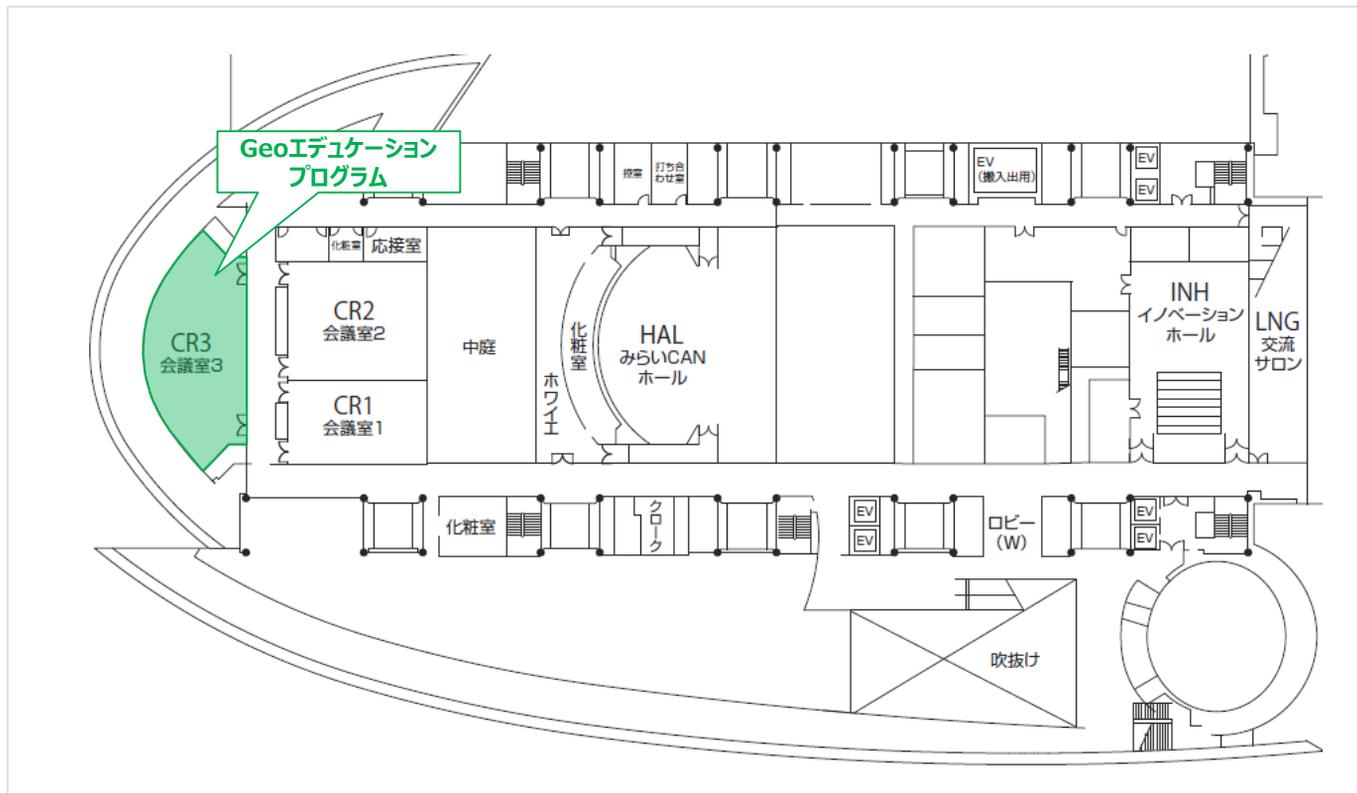
- 11月13日（木） 位置情報を活用した未来の学校教育
10:30-12:30 パネルディスカッション
13:30-16:30 アイデアワークショップ
- 11月14日（金） 自治体におけるGISとオープンデータの利活用
10:30-12:30 GISとオープンデータの過去、現在、未来
13:30-16:30 GISとオープンデータによる地域課題解決の実際！
- 11月15日（土） Geoアトラクションズ
10:30-13:00 / 14:00-16:30 G空間フィールドワーク「東京地歴再発見2014」※屋外イベント
10:30-13:00 / 14:00-16:30 日本地図センタープレゼンツ「3D地形模型をつくってみよう！」
- 11月13日～15日 G空間キャッシング
（初心者向けツアー） 15日（土） 13:00-13:30 / 14:00-14:30 ※各回10名程度で実施
- 11月15日（土） G空間体験ツアー
12:30-13:10 / 15:30-16:10 ※各回20名程度で実施
- ワークショップinメッセージゾーン
災害からみんなを守る！逃げ地図プロジェクト（3日間開催/11:00～12:30 / 15:00～16:30）
みんなでつくる自由な地図！オープンストリートマップ（3日間開催/13:00～14:30）

会場	11/13（木）	11/14（金）	11/15（土）
1Fシンボルゾーン	専用受付（事前登録イベント等の受付、案内等） 一般向け体験コーナー		
7F 会議室3	教育関係者向け研修	自治体関係者向け研修	一般向け体験セミナー
その他 （屋外・会場全体等）	Geoアトラクションズ・G空間体験ツアー		

[日本科学未来館 1F G空間EXPOメッセージゾーン]



[日本科学未来館 7F 会議室3]



■ 位置情報を活用した未来の学校教育

会 場 日本科学未来館 7F 会議室3

対 象 小・中・高等学校教員 50名

趣 旨 “G空間で教育が変わる！”学校教育の第一線に関わるプロフェッショナルが集まり、学校教育で位置情報が重要になっている背景や近未来的な授業について解説。先進事例をもとにしたワークショップも開催しました。

(10:30-12:30 パネルディスカッション)



(13:30-16:30 アイデアワークショップ)



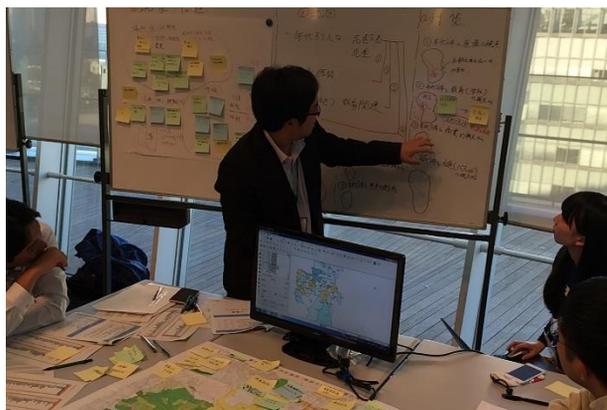
■ 位置情報を活用した未来の学校教育

会 場	日本科学未来館 7F 会議室3
対 象	自治体関係者 50名
趣 旨	“GIS×オープンデータのこれからを占う！”先進自治体職員による解説と問題提起、参加者によるグループディスカッションを行いました。実際にオープンデータの地域課題解決への活用を体験するワークショップも開催しました。

(10:30-12:30 GISとオープンデータの過去、現在、未来)



(13:30-16:30 GISとオープンデータによる地域課題解決の実際)



■ Geoアトラクションズ

会 場	日本科学未来館 7F 会議室3及び屋外スペース
日 時	11月15日 (土) 10:30-13:00 / 14:00-16:30 G空間フィールドワーク「東京地歴再発見2014」 11月15日 (土) 10:30-12:30 / 14:00-16:00 日本地図センタープレゼンツ「3D地形模型をつくってみよう！」
対 象	一般来場者 G空間フィールドワーク「東京地歴再発見2014」 30名 (1回あたり) 日本地図センタープレゼンツ「3D地形模型をつくってみよう！」 30名 (1回あたり)
趣 旨	身近な物を材料に、簡単な工夫で3D地形模型をつくる親子で楽しめる地図教室、 屋外でG空間情報に触れながらお台場の地形や歴史について紐解くフィールドワーク など、子供から大人まで楽しめるプログラムを用意しました。

(G空間フィールドワーク「東京地歴再発見2014」)



(日本地図センタープレゼンツ「3D地形模型をつくってみよう！」)



■ G空間体験ツアー

- 日 時 11月15日 (土) 12:30-13:10 / 15:30-16:10
- 対 象 一般来場者 (1回あたり20名)
- コ ー ス エデュケーションプログラムブース (集合) → G空間EXPOメッセージゾーンテーマ展示 → 地理空間情報フォーラム (宇宙ゾーン) → エスカレータで移動 → 3F「アナグラのうた」 → 3F「Geo-Scope」「Geo-Cosmos」 → 1Fライブラリ解散
※Androidタブレット (もしくはiPad) で屋内測位アプリを使用



■ G空間キャッシング

- 日 時 11月13日 (木) ~15日 (土)
※15日 (土) 初心者向けツアーを実施 (3回程度実施)
- 対 象 一般来場者
- 参加者ノベルティ
- ・カラビナ ミニ トーチライト (1,000個)
 - ・「チームラボ 踊る! アート展と、学ぶ! 未来の遊園地」割引券



■ワークショップ in G空間EXPOメッセージゾーン

マップコンシェルジュ株式会社、株式会社日建設計 ボランティア部にご協力いただき、実際に来場者の皆様がその場で体験できるパネル展示やワークショップを実施しました。

(運営協力)

マップコンシェルジュ株式会社、株式会社日建設計 ボランティア部

■みんなで作る自由な地図 オープンストリートマップ：マップコンシェルジュ株式会社



■災害からみんなを守る！逃げ地図プロジェクト：株式会社日建設計 ボランティア部





7.講演・シンポジウム

■ G空間EXPO2014 講演・シンポジウム

G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施しました。G空間社会をリードする研究者や技術者、サービス提供者などによる、講演・シンポジウムがずらり登場。G空間社会の未来をつくる研究成果の発表や、世界最先端の技術動向を、最先端を走る研究者たちから直接聞き、対話できるチャンスを提供しました。

名 称 G空間EXPO2014 講演・シンポジウム

開 催 期 間 平成26年11月13日（木）14日（金）15日（土） 10:00-17:00

会 場 7F 未来館ホール・イノベーションホール・会議室1・会議室2

会場	11月13日（木）		11月14日（金）		11月15日（土）	
	午前 (9:30-13:30)	午後 (13:30-17:30)	午前 (9:30-13:30)	午後 (13:30-17:30)	午前 (9:30-13:30)	午後 (13:30-17:30)
みらいCAN ホール 404㎡ シアター 300席		内閣府 宇宙戦略室 『準天頂衛星システム 講演会』 <QZSS産学官利用拡 大プラットフォーム会議>	シスコシステムズ 合同会社 三井情報株式会社 Wi-Fiロケーションサービス/ 技術の最前線 2014	(一財) 衛星測位 利用推進センター SPACシンポジウム2014	gコンテンツ流通推進協議会 G空間WAVE2014 gコンテンツワールド×ジオメディアサミット	
イノベーシ ョンホール 196㎡ シアター 154席	日本地理学会 G空間のナカミを科学する	全国測量設計業 協会連合会 知っ得！ 測量時事情報セミナー	Geoアクティビティフェスタ プレゼンテーション		日本土地家屋調査士会連合会 「地籍情報の共有化と一元化及び公開の有用性」（仮）	
会議室1 112㎡ シアター 96席	国土地理院 場所に結び付ける新たな 位置情報サービスへの展望 - 場所情報コードの位置 情報サービスへの応用に 関する共同研究成果報告 -	日本写真測量学会 地球観測衛星に期待される 新たな展開	国土地理院 高精度測位社会における 3次元地理空間情報	日本地図学会 都市冒険と地図の好奇心	(公社)日本測量協会 学生フォーラム2014	
会議室2 160㎡ シアター 165席	公益財団法人 日本測量調査 技術協会 地理情報標準の最新動向と 地理情報標準認定資格 -(S-GI-Cert)講習 ・試験のポイント-	東京大学空間 情報科学 研究センター 人のうごきとGIS	国土地理院 防災とG空間情報 ～役立つ防災アプリ展～	社会基盤情報流通 推進協議会 アーバンデータチャレンジ2014 - 地域の課題を解決する ためのアイデアを考えよう！ -	一般社団法人 地理情報システム 学会事務局 一般市民向けの地理 空間情報利活用に向けて	

■『準天頂衛星システム講演会』 <QZSS産学官利用拡大プラットフォーム会議> 実施者：内閣府宇宙戦略室

G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介など、関係各団体によりさまざまなプログラムを実施しました。

<プログラム>

14:00～14:05 開会挨拶

日本電気株式会社 準天頂衛星利用推進室 神藤英俊

14:05～14:10 主催者挨拶

内閣府宇宙戦略室 守山宏道 参事官

14:10～14:30 準天頂衛星システムの概要と最新状況①

『準天頂衛星システムとは』

内閣府宇宙戦略室 田村栄一 企画官

14:30～15:00 準天頂衛星システムの概要と最新状況②

『システムの最新状況について』

日本電気株式会社 パブリックビジネスユニット
宇宙システム事業部 小川秀樹

15:00～15:05 質疑応答

15:05～15:20 準天頂衛星システムの概要と最新状況③

『利用拡大活動状況』

日本電気株式会社 準天頂衛星利用推進室 神藤英俊

15:20～15:35 講演①

『WristableGPS開発と

準天頂衛星がもたらす測位精度向上への期待』
セイコーエプソン株式会社 寺島真秀 氏

15:35～15:50 講演②

『GNSS測位技術の現状と人材育成』

東京海洋大学 久保信明 准教授

15:50～16:05 講演③

『ヤマハ無人ビークルのご紹介とQZSSへの期待』

ヤマハ発動機株式会社 今井浩久 氏

16:05～16:20 講演④

『(調整中)』

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 野田浩幸 氏

16:20～16:25 質疑応答

16:25～16:30 閉会挨拶

日本電気株式会社 準天頂衛星利用推進室 神藤英俊

■ G空間のナカミを科学する 一地理空間研究の歴史と最前線 実施者：日本地理学会

「G空間に再現された歴史」 荒井良雄（東京大学教授・日本地理学会会長）

「地理学者」は本と地図から得た知識をあたかも「見てきたように」語っているに過ぎないが、地理学者なら実際に自分の目で見ることも不可能ではない。しかし、「地理学者」を「歴史学者」に置き換えると、これは難しい。

G空間はコンピュータによる仮想的な空間だが、であるがゆえに現実には存在しない現象、例えば歴史的な空間現象をGISを用いて可視的に再現することも可能である。

講演では、「G空間の中に歴史を再現する」試みの例として、100年以上にわたる都市の人口分布の変遷を精密に再現する手法が紹介された。具体的には、1890年ごろや1930年ごろの地形図からそれぞれの時点の関東地方の人口分布の推計がなされ、これらと1970年以降の人口統計データと合わせることで、1890年～2000年の110年にわたる人口分布データが復元され、関東地方の都市空間がこの間どのようなパターンを描いて変化してきたのか、特に、江戸時代に形成された中心地の体系が、明治以降の鉄道発達を背景としてどのように変化してきたのか、もしくは変化しなかったのかの紹介された。

「G空間という言葉の地理学史的解釈」 小口高（東京大学教授・空間情報科学研究センターセンター長）

「G空間」という言葉について地理学史的に解釈した内容が発表された。

G空間EXPLOのホームページを見ると、「G空間＝地理空間」であると考えられるが、ではなぜ、「地理」ではなく「G」と書くのか？

接頭語のGeoという観点から、「G」は「ジオ」とも理解できるが、「ジオ空間」という言葉は使われないので、G＝ジオと断定できるかは判然としない。「GIS」という言葉はカナダのロジャー・トムリンソンによって命名されたが、「G」(Geographic)が付けられたのは言葉の適切さとともに、彼が地理学の出身だったためである。

一方、東京大学・空間情報センターは新しさを感じる名前ということで、「地理情報」ではなく、「空間情報」という名前になったが、同センターの発足後、それまで使われていなかった「空間情報」という言葉がGIS関係で注目され、普及するきっかけとなった。

その後、「地理空間情報活用推進基本法」のように、「地理空間情報」という言葉が出てきたことは、半分は先祖返りのようで興味深く、G空間の語も、このような歴史的曲折を反映していると考えられる。

このような背景を踏まえ、講演者からは、「G空間のGは地理であるが、地理に限定されない」という提案がなされた。

「G空間は嘘をつかない 一地域の環境行動をG空間で読み解く一」

菊地俊夫（首都大学東京教授・日本地理学会理事長）

G空間の活用に適した分析の1つに、地域における観光者の行動分析があげられる。つまり、観光者が地域において観光として何をどれくらい見て、それをどのように評価するのか、あるいは、観光資源をどのような手順やルートで見ていくのかなどを、G空間では地図とは異なり、より現実的（リアル）に分析可能である。その意味で、G空間は嘘をつかないといえる。実際、G空間としての観光行動の分析にはさまざまな方法が用いられてきたが、ビデオカメラやカメラ、そしてGPSやGPSつきカメラなどを活用することにより、より現実的なデータをG空間をとして得ることが可能となっている。

講演では、松本市安曇野、箱根原生花園、水戸偕楽園、東京都三鷹市の井の頭公園における観光者の行動分析の例が示された。観光者に気に入った場所で写真撮影をしてもらい、写真の撮影位置はGPSで、気に入った場所という指標は写真撮影でデータを得た。井の頭公園における例では、写真撮影の位置は池の右岸と左岸を結ぶ橋に集中しており、また、水域が映える場所が気に入った場所として評価されていることが明らかとなった。

このようにG空間として観光行動を分析することにより、観光者の現実的な行動や評価がより明確になり、それは観光資源の効果的な配置にもつながると指摘がなされた。

3名の講演の後、マップコンシェルジュ代表・OSMF Japan副理事長の古橋大地氏を加えた4名で、宇根寛（日本地理学会企画専門員会副委員長・国土地理院地理空間情報活用推進分析官）の司会によって、パネルディスカッションを行い、会場の参加者も含めて活発な議論がなされた。

【執筆者】

佐藤壮紀（日本地理学会企画専門委員会）

■ 知っ得！測量時事情報セミナー

実施者：一般社団法人全国測量設計業協会連合会

- 司会進行 (一社) 茨城県測量設計業協会 副会長 佐藤 清一
- 主催者挨拶 (一社) 全国測量設計業協会連合会 会長 野瀬 操
- 講演「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部改正等」
国土交通省土地・建設産業局
建設業課長 北村 知久 (きたむら とむひさ)
- 講演「GISでみる国土の将来像」
(株) 都市未来総合研究所
特別研究理事 川上 征雄 (かわかみ ゆきお)

昨年の11月13日～15日の間、東京都江東区の日本科学未来館において、G空間EXPO2014が開催されました。毎年、その年の話題を皆様に提供しています全測連の主催する「知っ得！測量時事情報セミナー」では、2つの講演を開催しました。

講演の一題目と致しまして、国土交通省土地・建設産業局建設業課長の北村知久様をお迎えして、「公共工事の品質確保の促進に関する法律の一部改正等」についてご講演頂きました。建設産業は、地域のインフラの整備やメンテナンス等の担い手であると同時に、地域経済・雇用を支え、災害時には最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う地域の守り手として、国民生活や社会経済を支える大きな役割を担っています。平成26年9月30日に閣議決定された品確法基本方針の改正概要についての改正ポイントを分かりやすくご説明されました。改正のポイントとしては、①各発注者が取り組むべき事項の追加や②発注者の責務に関する事項の追加、③国として講ずべき施策の追加についてお話を頂きました。また、もっと女性が活躍できる建設業行動計画について、今後、女性技術者・技能者の5年以内の倍増を目指す10のポイントを示されました。

二題目と致しまして、(株)都市未来総合研究所特別研究理事 川上征雄様をお迎えしまして「GISでみる国土の将来像」の題目でご講演頂きました。現在では多くのデータ蓄積を基にした確率論によって少しは科学的に将来を「予言」できるようになった。現代にあっても将来を予め知ることは有用であることについて、2050年の国土の将来像の一部を「GISでみる国土」と称し紹介頂きました。将来の国土像について紹介いただき、そこに横たわる根源的な大問題は、人口減少社会にどう対処していくかに尽きるであろう。人口を増やすためには、出生率の上昇を図ることが第一であるが、人口構成の改善に効果を顕すようになるまでには相応の時間を要する。

現在、測量設計業界では労働力不足が叫ばれている。労働不足を緩和するためにまず考えられる策は、第一に日本独特のM字カーブを描く女性の再就職環境の改善、さらには女性就業率全体の拡大を図ることが必要であることをお話頂きました。日本の国土の将来像を予め見定めていくと、これからは労働をはじめとする社会システムの改革は避けて通れない事項であることは明らかである。豊富なGISデータを活用頂きご講演いただきました。

■ 場所に結び付ける新たな位置情報サービスへの展望

－ 場所情報コードの位置情報サービスへの応用に関する共同研究成果報告 －

実施者：国土地理院

報告内容

国土地理院では、測位技術の高度化と位置情報サービスの普及を背景に、「場所情報コード」の利活用を推進しています。場所情報コードには様々な情報を関連づけることが可能であり、防災、観光、公物管理、自律移動支援などの多様な分野への応用が期待されます。

位置情報サービス分野のモデルケースによる実証と、今後の場所情報コードの運用について検討するため、平成25年9月から平成27年3月まで12の企業及び学校法人の方々に参加いただき「場所情報コードの位置情報サービスへの応用に関する共同研究」を実施しています。

報告会では、最初に国土地理院より場所情報コードとこのコードの申請・発行に必要な手続き等をとりまとめた「位置情報基盤整備のためのガイドライン」及び場所情報コードから呼び出すことができる位置情報や地物情報などの基本情報を利用者に提供するための「場所情報コード閲覧システム」について報告しました。

その後、9名の共同研究者より、3つの主要な研究テーマに分けて各研究の進捗状況とその中間成果についてご報告頂きました。

研究テーマ（1）場所情報コードを用いた屋内外ナビゲーションに関する研究（2題）

- 場所情報コードを用いた屋内外ナビゲーションに関する研究 【エル・エス・アイ ジャパン(株)】
障がい者の道案内のために場所情報コードを発信する I C タグを道路に埋設した実証実験や、駅構内の案内のためにホームに誘導システムを設置した例
- 屋内GPS(IMES)送信機への場所情報コードの適用 【(株)日立産機システム】
屋内測位に使用するIMES 送信機へ場所情報コードを適用した例、屋内に設置し屋内座標（緯度・経度）を計測する例

研究テーマ（2）場所情報コードの公物管理への応用に関する研究（5題）

- 森林空間における場所情報コードの利活用について 【国土地図(株)】
森林空間における公物管理の例
- 場所情報コードを用いた公物管理の適応性調査 【(株)パスコ】
場所情報コードと民間企業が発行するuocodeの利用方法の整理、個体識別のための場所情報コード利用の例
- ビーコン搭載標識体の公物管理の仕様に関する検討 【(株)リプロ】
場所情報コードを利用したビーコンによる位置情報や周辺情報の把握
- NFCタグ内蔵国家三角点説明版 【(株)カクマル】
場所情報コードを利用した国家基準点の管理や付属情報の発信
- 場所情報コードの公物管理への応用に関する研究
(ICタグ付きマンホールの実用に向けて) 【(株)トミス、(株)IRO、(株)日立システムズ】
場所情報コードとRFID 技術を応用した、公物管理

研究テーマ（3）場所情報コードの運用に関する検討及び実証実験（2題）

- 場所情報コードを利用した位置情報の応用例 【ユーシーテクノロジー(株)】
場所情報コードを利用した位置情報発信の応用事例、災害時の避難誘導、位置情報プラットフォームの例
- 地域医療データバンクにおける場所情報コード利用
(スマートヘルスケアシティ構想) 【学校法人自治医科大学、測位衛星技術(株)】
場所情報コードを利用した、地域医療データバンクの事例

報告会には、主に測量・地図分野及び情報・通信分野から113名の参加があり、場所情報コードを用いたモデルケースによる位置情報サービスについて理解を深めていただくことができました。その他、報告会終了後、ICタグ付きマンホールの実用に向けたデモンストレーションが実施され、来場者から公物管理への応用例について、大きな関心が寄せられました。

今後、G空間EXPO2014の報告会を契機にして、さらに場所情報コードを実際の位置情報サービスに結び付けられる活用事例が増加することが期待されます。

■ 地球観測衛星に期待される新たな展開 実施者：一般社団法人 日本写真測量学会

本シンポジウムは、G空間EXPO 2013でのシンポジウム「G空間における地球観測衛星の役割」等の議論を引き継ぎ、新たな宇宙基本計画策定の動きに対応してG空間における地球観測衛星の現状、ニーズ、今後の新たな展開について議論することを目的として開催した。

冒頭、千葉大学本多嘉明氏からシンポジウムの開催趣旨が説明された。

講演の部では、まず内閣府前原正臣氏から、宇宙政策の最近の動向として安全保障政策との一層の連携強化及び産業基盤の維持・強化のため新宇宙基本計画の策定が必要となり、本年6月に宇宙政策委員会のもとに基本政策部会が設置され検討が進められてきたこと、年末を目途に新計画を策定するスケジュールであること等が説明された。

続いて国土交通大学小荒井衛氏から、衛星データのユーズの立場から高分解能光学衛星による災害状況判読、SARによる湛水域や壊滅的被害域の抽出、SAR干渉解析による地殻変動や地滑りの検出等の豊富な事例が紹介され、次世代災害監視衛星への期待として、広域を定期的に観測できる体制の確立、実用展開への期待が述べられた。東京大学岩崎晃氏からは、ほどよし4号機を中心に超小型衛星の技術的特徴や成果が説明され、長期継続観測の必要性とそれを実現するための基幹衛星と超小型衛星の連携とデータ融合の重要性が指摘された。

(株)NTTデータ若松健司氏からは、WorldView-3データやALOS World 3Dなど最新の高付加価値製品の紹介とともに、ICTとリモートセンシングの組み合わせによってビジネス化を推進し業界全体を発展させる戦略と、参考例として気象情報ソリューションやクラウドソーシングによる台風被害の算定やマレーシア航空機残骸の搜索の取り組みが紹介された。

講演終了後、東京大学竹内渉氏の司会のもと、講演者4名+3名（本多嘉明氏、長幸平氏、福田徹）及び会場の参加者も交えてディスカッションが行われた。主な議論は以下のとおりであった。

- 今般の宇宙基本計画の見直しにおいて安全保障への対応が大きな論点となっているが、狭義の安全保障（高分解能画像など）だけで良いのかという疑問に対し、民生分野における利用、環境や防災への対応も安全保障で扱われるべき対象であることが確認された。
- 衛星データの利用促進においては、エンドユーザーとの乖離があり、ニーズとシーズのマッチングに努力するべきとの指摘があった。ピンポイントのニーズでは無く様々な分野で使われるようにITとの親和性を高めITを使ってリモートセンシングを活用できる環境を整えることが重要であるとの意見があり、政府においても災害の現場や衛星でしか対応できない場所、航空写真の代替としてリモートセンシングのニーズはあるが、データの継続性が問題になるとの指摘があった。
- 地球環境観測衛星には、明確な責任省庁がないとの指摘があった。しかし、数値気象予報での衛星データの利用、あるいは食料安全保障での利用等を考えた場合、一部はビジネスとして成立するとしても、基本的には地球環境観測データを公共財として位置付けるべきとの議論がなされた。また、ビジネスの展開のためには、公共財としてのデータとビジネスとしてのデータの線引き、競争領域と協調領域の区分を明確にする必要があるとの指摘がなされた。また、大学、研究機関が有する知財・人材も公共財として積極的に活用すべきであるとの指摘があった。
- 国際競争力の観点では日本の大・中型衛星の価格が高くそれを下げる必要があるが、例えばSkySatのように衛星側の機能を落として地上系の処理で性能を確保するなどの思い切った手法を導入する必要があるのではないかの問題提起があった。AMSR2のように国際競争力の高いセンサの継続的な開発・打上げの必要性も指摘された。
- 土台としての基幹衛星と小型衛星とのコンビネーションでニーズに応えていく必要があり、ビジネス展開をする際には我が国衛星を基盤としたいとの希望が表明された。最後に今後とも議論を継続したいとの意見があった。

執筆者：福田徹・（一財）リモート・センシング技術センター

■ 地理情報標準の最新動向と地理情報標準認定資格（S-GI-Cert）講習・試験のポイント 実施者：公益財団法人 日本測量調査技術協会

はじめに

地理情報に関する標準化が普及すれば、様々な機関が作成する地理情報を、誰もが相互に使えるようになり、それらが蓄積・流通されることで、誰もがいつでもどこでも必要な地理情報を利用でき、それらを使った分析結果を基に行動し、より快適で安全・安心な生活を実現できる「G空間社会」が訪れることと確信しております。

本講演は、地理情報標準に関する最新動向と昨年スタートさせた地理情報標準認定資格について講習及び試験のポイントについて以下のプログラムで実施しました。今後の皆様の事業活動や認定資格への挑戦にお役に立ていただければと考えて実施したものです。

講演の概要

10:35 - 11:05 講演1 地理情報標準の最新動向
地理情報標準認定資格制度 講習・試験委員会委員長
大伴 真吾（朝日航洋㈱）

- ・1.地理情報標準に関する最新動向
- ・2.地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014の概要
- ・3.地理情報標準認定資格（S-GI-Cert）の概要

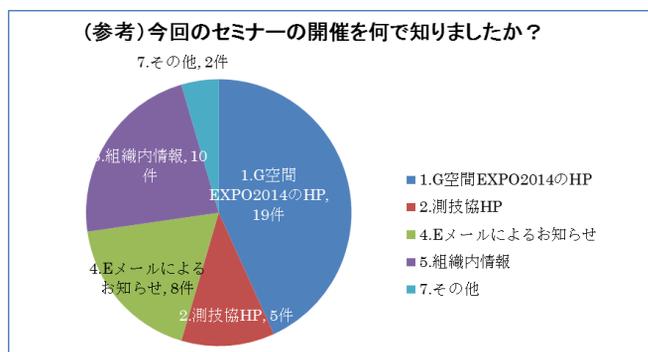
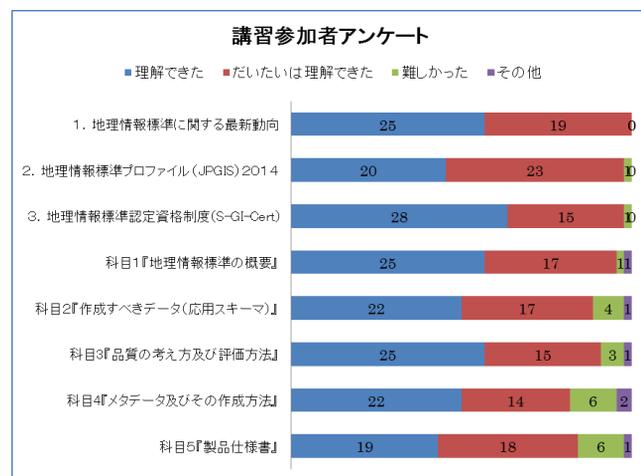
11:05 - 12:30 講演2 地理情報標準認定資格（S-GI-Cert）特別講習
-地理情報標準認定資格（S-GI-Cert）講習・試験のポイント-

地理情報標準認定資格制度 講習・試験委員会
委員 山田 秀之（アジア航測㈱）

- ・科目1 地理情報標準の概要
- ・科目2 作成すべきデータ（応用スキーマ）
- ・科目3 品質の考え方及び評価方法
- ・科目4 メタデータ及びその作成方法
- ・科目5 製品仕様書

参加者

- ・事前応募者：52人、当日登録者：24人、計：76人
- ・希望者に測量CPD等の証明書を発行しました



■人のうごきとGIS

実施者：東京大学空間情報科学研究センター

東京大学空間情報科学研究センター（CSIS）が毎年開催する「CSISシンポジウム」は、国内外で行われている空間情報科学研究の理論と応用の多くの事例を通じて、現状に至る経緯とその背景、および今後の研究の在り方について広く論ずることを目的に開催しています。今回、G空間EXPOにおけるイベントとして本シンポジウムを開催しましたが、これは初めての試みでした。ここでは多くの一般参加者を想定し、身近な空間情報科学に目を向けてもらうことを意図して、とくに「人のうごき」に焦点を置いた話題を集めました。平日午後の短い時間でしたが、その中では、健康や生活といったわれわれがいつも体験している日常的な現象の究明から、観光やスポーツといった非日常的な状況の分析、またそれらのバックグラウンドとしての情報技術まで、幅広い話題が繰り広げられました。

静岡大学教育学部の村越教授からは、「エキスパートのナビゲーション：オリエンテーリング競技者の場合」というタイトルで、オリエンテーリングにおける人の空間認知にかかわる話題が提供されました。地図と空間を結びつける人の頭は、GPS不要のナビゲーションを可能にすることが示されました。

慶應義塾大学総合政策学部の古谷知之准教授からは、「スポーツと空間情報科学」というテーマで、サッカーやアメリカンフットボールといったフィールドプレーヤーの動きをモニタリングする方法や、さまざまなスポーツにおけるアスリートの動きについて解説されました。

東京大学地球観測データ統融合連携研究機構の秋山祐樹助教からは、「マイクロジオデータ：その取得・開発・応用」というタイトルで、今話題のマイクロジオデータについてさまざまな研究事例を交えて、その基礎的なデータ構築から応用的な最先端の研究について紹介されました。

首都大学東京都市環境学部の倉田陽平准教授からは、人が観光地を訪れる際の行動を分析した「観光行動とGIS」というテーマの話題提供がありました。アンケート調査だけでは分かり得ない実際の人々の行動を、携帯電話の移動情報などを活用して分析した事例などが紹介されました。

筑波大学生命環境科学研究科の村山祐司教授からは、「WebGISによる人の動きの可視化と時空間分析」というテーマで、WebGISが普及してきている近年の動向について解説され、また筑波大学空間情報科学分野で実際に構築している多様なWebGISが紹介されました。

中央大学理工学部の山田育穂教授からは、「都市のウォーカビリティ："健康的な都市環境"への空間情報科学的アプローチ」というタイトルでお話しいただきました。ウォーカビリティに関する基本的な概念や、住民の健康との相関関係について、研究事例を通して解説されました。

東京大学大学院情報学環の越塚 登教授からは、「ユビキタス空間情報：人とモノと空間をむすぶ情報通信技術」というテーマで、たとえば街中に設置されたデジタルな案内板など、情報通信技術がいかに空間と結びつき、また活用されているかについて、さまざまな事例が紹介されました。

以上のように、本シンポジウムでは、日常・非日常における人の動きのモニタリングや分析、およびそれを支えるデジタルまたはアナログなテクノロジーやデータについて一挙に紹介され、空間情報科学におけるひとつの主要な流れを俯瞰することができました。

文責

早川裕式（東京大学空間情報科学研究センター）

■ Wi-Fiロケーションサービス／技術の最前線 2014 実施者：シスコシステムズ合同会社 / 三井情報株式会社

本来通信用に設計されたWi-Fi技術は、スマートフォンの普及により、そのOSが提供する測位機能においてGPS/携帯基地局と並んで日々世界中のユーザにより利用されております。さらに特に屋内でその威力は発揮されるため先駆者的にロケーションベースサービス/O2Oの市場を拡大するため使用されてきております。また、屋内Wi-Fi測位にはさまざまな原理、構成要素、提供できるサービスレベル、トレードオフもあります。本シンポジウムでは、Wi-Fiによる屋内測位の基本概念、現状同行などの紹介から、展開されている商業施設、博物館、観光施設、空港などの多種多様なサービス事例、また今後の発展など、屋内Wi-Fi測位ビジネスの最前線をテーマとした講演を実施しました。

【モバイルを活用したリアルタイム動線分析によるマーケティングイノベーション】

スマートフォン等のスマートデバイスの普及と共に、それらを活用するテクノロジーが進歩。従来では考えられなかったようなマーケティング活動を行うことが可能になりつつあります。

その一例として、施設におけるお客様のリアルタイム動線情報や、購買履歴等の様々なデータの組合せと分析に基づいた新しいマーケティング手法をご紹介しますと共に、新しいマーケティングの実現によって得られるビジネスの可能性についてお話ししました。

■「Beacon活用の最新ビジネス事例とこれから。」～国内・海外の最先端事例に学ぶ～ 実施者：株式会社ジェナ

スマホやタブレットの企業導入が進む今、Beaconを活用したビジネス事例が増加し、検証フェーズから実用フェーズへと移行しております。

本シンポジウムでは、国内のBeacon活用事例や海外の最新事例をご紹介するとともに、Beaconを活用する際のポイントについて、デモを交えながら説明しました。



■ SPACシンポジウム2014

実施者：一般財団法人 衛星測位利用推進センター

(1) 基調講演：G空間情報を活用した高精度測位社会の実現

2020年東京オリンピック・パラリンピックの課題の一つとして、①訪日外国人を含む、観客、ボランティアの円滑な移動と②災害が発生した時の避難誘導があり、高精度測位技術、電子地図情報などを活用したソリューションを実現しなければならない。このため、国土交通省では、上記サービスを目指した取り組みの一つとして「高精度測位社会プロジェクト」を考えており、H26年度は、「東京駅周辺高精度測位社会プロジェクト検討会」を設け、必要な検討及びプレ実証実験を実施している。

東京オリンピック・パラリンピック開催までのサービス実現のキーは、①測位環境インフラ/電子地図インフラ等のオープン化（特にナビゲーションについて）、②これらを継続的に維持・管理する体制の確立、③様々な取り組みの連携等である。「高精度測位社会プロジェクト」は一つのゴールとして、東京オリンピック・パラリンピックで高精度測位技術を活用したサービスの提供を実現するが、その後は、全国でのサービス展開を図り、「訪日外国人旅行客の増大を図るためにサービスインフラ」及び「測位サービスと空間データを高度に活用する社会の一環」となることができると考えている。

(2) 準天頂衛星初号機「みちびき」の利用実証報告と実用化に向けた活動

SPACでは、「みちびき」の提供するサービスにおいて、民間企業などから提案を受け、民間利用実証を進めており、2014年7月31日現在テーマ数133、参加企業社等延べ316に上る。これらの一環として、今回のG空間EXPOでは、「みちびき」を活用した自律走行できる移動支援ロボットROPITSやGPS・QZSSロボットカーコンテスト2014の優秀車のデモ走行を予定している。

また、2014年12月に始動する「箱根補完計画」では、アニメのエヴァンゲリオンキャラクターを探しながら箱根周遊を楽しんでもらう衛星測位とARを活用したスタンプラリーを実施するが、衛星測位技術はこのように観光ビジネスに直結するものになってきている。

(3) 歩道を自律走行する搭乗型移動支援ロボットROPITS(R)

ROPITSとは、携帯情報端末で指定した位置へ自律走行ができる一人乗りの人間共生型ロボットであり、筑波ロボット特区（構造改革特区）に参加するために作られた。技術的には、①自己位置推定、②障害物回避、③車体安定のためのアクティブサスペンション等を開発した。

今回はQZSSも利用しており、GPSと比較している。GPSは時間により誤差変動が大きく、また、マルチパスにより誤差が6～7mと大きい場合があるが、QZSSは時間による誤差変動やマルチパスによる影響が少ない。QZSSを使えば、1回の試験で地図ができるのではないかと考えている。

(4) 準天頂衛星「みちびき」のL1-SAIFを活用したアラートシステムの国内外における実証報告（RedRescueプロジェクト）

RedRescueは、文部科学省「平成24年度地球観測技術等調査研究委託事業」の一環で実施しており、NTTデータの他にパスコ、慶應義塾大学も参画している。災害時の携帯通信手段を考えると、普及率の高いGPS端末と補強信号を配信する準天頂衛星の活用が有効である。

今までの実証実験は、国内では、横浜市ポルタ、横浜市みなとみらい地区、静岡市沿岸部があり、海外では、ペナン（マレーシア）、バリ（インドネシア）、プーケット（タイ）等があるが、今後の実利用に向けたポイントは①緊急メッセージの送受信方法の確立、②アジア・オセアニア地域における適用、③アプリケーション/既存デバイスとの連携等である。

(5) 五輪に向けたまちの安全性向上とお宝紹介『おもてなしマッピングパーティ』の提案

本提案の趣旨は、東京オリンピック・パラリンピックに向けた外国人観光客等への案内情報コンテンツ作りであり、地元を熟知した住民の方々による「わがまち案内マップ」の仕組み作りである。この成果は、五輪終了後にも有効活用し、地域の持続的資産となることが期待できる。

このため、小型軽量で安価な「準天頂衛星システム対応ロガー」を早急に開発し、「マッピングパーティ」参加者に無償貸与するぐらいを考えて欲しいと思っている。

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「おもてなしマップ」作りを、みんなの力で実現したいと考えている。

※講演資料は、<http://www.eiseisokui.or.jp/> から閲覧できます。

【執筆者】

濱田英幸、一般財団法人 衛星測位利用推進センター 企画部長

Tel:03-5402-4751、e-mail:hamada.hideyuki@eiseisokui.or.jp

■ 高精度測位社会における3次元地理空間情報 実施者：国土地理院

準天頂衛星の4基体制、マルチGNSS、ICTの進展などにより、地上における自分の位置を高精度で誰でもリアルタイムで簡単に把握することが可能な高精度測位社会が実現しようとしています。

一方、人の移動空間は地上に限らず、立体交差や階層構造、地下街や駅などの公共的屋内空間など3次元的に多岐にわたりますが、これら空間における測位環境や地図の整備は進んでいません。

本シンポジウムでは、昨年のG空間EXPOにおける議論とその後の進展を踏まえ、高精度測位社会において求められる屋内測位環境や3次元地図などの3次元地理空間情報について現状を整理し、今後の方向性について議論しました。

■ 都市冒険と地図的好奇心 Urban Exploration and Curiosity for Maps 実施者：日本地図学会

都市を実際に訪れ、様々なプロフェッショナルな視点から都市のコンテキストを読み解く都市冒険が、まちあるき、TV番組、書籍、ガイドブックなどさまざまなメディアで盛んになって来ている。

本シンポジウムでは、都市冒険、地図、エンタメ、メディアの専門家とユーザに集まっていただき、多角的なお話をうかがい、その意味と今後の展開について議論しました。

■ 防災とG空間情報～役立つ防災アプリ展～

実施者：国土地理院

【はじめに】

国土地理院は関係機関と協力して、防災に関する地理空間情報を広く活用できる防災地図共用データベース（仮称）の構築を目指しており、その一環として国土地理院が提供する防災地理空間情報を活用した災害時の避難誘導等に資する防災アプリを募集し、実証実験等を実施して結果を評価・検討等することにより、防災地図共用データベース（仮称）に必要なコンテンツの充実を図るための取組を進めています。

【概要】

防災アプリに関する取組を広く周知するとともに、アプリ開発の促進を図るため、今年度の審査委員会で選定した7つの防災アプリについて、開発者によるアプリの展示及びプレゼンテーションを行いました。

【出展アプリ】（五十音順）

- ・ARハザードスコープ(R) ONLINE（株式会社キヤドセンター）
- ・家族向け安否確認システムFamiloca（株式会社つなぐネットコミュニケーションズ）
- ・goo防災アプリ（NTTレゾナント株式会社）
 - ・全国避難所ガイドVer. 5（ファーストメディア株式会社）（展示のみ）
 - ・避難所案内（ESRIジャパン株式会社）
 - ・防災セーフティマップ（徳田 貴司（個人））
 - ・LifeLine 防災システム（LifeLine防災システム プロジェクトチーム）

【開催報告】

200名近くの来場者があり、会議室内に設置した各アプリの展示ブースでは、実際のスマホ等を用いたデモや説明が来場者に対して行われ、開発者と来場者の間で熱心な情報交換が行われていました。また、各開発者によるプレゼンテーションタイムには、当初準備した座席数を大幅に超える方々に集まっていただき、関心の高さをうかがうことができました。

【まとめ】

防災地図共用データベース（仮称）に必要なコンテンツの充実を図るための一環として実施した防災アプリに関する取組ではありますが、開発者側の活力そして利用する側の関心の高さに今後も防災アプリへの期待は高まっていくと思われます。

執筆者

国土地理院 応用地理部 環境地理情報企画官 登坂 昇



■ 地域の課題を解決するためのアイデアを考えよう！

～アーバンデータチャレンジ2014 × Linked Open Data チャレンジ Japan 2014～

実施者：社会基盤情報流通推進協議会

1.はじめに

(一社)社会基盤情報流通推進協議会は、東京大学CSIS寄附研究部門と共同して、自治体を始めとする各機関が保有する社会基盤情報の公開・流通促進に向けた具体的な取組として、主に地方自治体発のオープンデータに焦点を当て、地域課題の解決に効果的なツールや有効なデータ活用等について1年間かけてチャレンジする「アーバンデータチャレンジ2014 (UDC2014)」を実施しています。

このUDC2014の活動の一環として、G空間EXPO2014でも「Linked Open Data チャレンジ Japan 2014」における活動と連携し、これまで東京会場あるいは全国約10箇所で開催中のワークショップで議論された地域課題を解決するためのアイデアについて議論を深め、2015年1月に予定されている両コンテストの応募に結び付けられるように共同作業を行いました。

2.イベント概要

最初にUDCT2014及び「Linked Open Data チャレンジ Japan 2014」の趣旨や概要について主催者より説明しました。

次に、アイデアの種や地域課題に関するライトニングトークを6名の発表者よりプレゼンいただきました。テーマは以下のとおりです。

6つのテーマ～アイデアの種や地域課題～

- ①「自治体のインフラ管理のシムシティー」構想
- ②記憶のスクラップブック：被災地のふるさとアーカイブ
- ③オリンピックに向けたプチ災害の緩和 ～競技場エリアの大混雑分散によるパニック防止～
- ④メイド・イン「地元」～「地域愛」と「オープンデータ」を活用した地域活性化～
- ⑤通勤情報を可視化することによる通勤問題解決
- ⑥オープンオリンピック 100万人市民リレー

プレゼンの後、イベント参加者はそれぞれ興味のあるテーマに分かれ、約50分間、6つのグループごとに地域の課題を解決するためのアイデアについて議論を行い、アイデアの深掘りを行いました。

最後に、テーマごとにグループでディスカッションした内容の発表、成果の共有を行いました。

3.イベント成果（まとめ）

今回のイベントでは、自治体関係者、学識経験者、コンサルタント、エンジニアなど多様な分野の専門家が集まり、議論を深めることができました。今回のシンポジウムで得た貴重なご意見等を基に、社会インフラ等に関わる情報の流通に向けて鋭意活動を進めていきたいと考えています。



■ G空間WAVE2014 gコンテンツワールド×ジオメディアサミット（午前） 実施者：gコンテンツ流通推進協議会

地理空間情報を利用した、コンシューマー向けのインターネットメディアサービスを「ジオメディア」と名付け、ジオメディアに関わる業界の発展を目的とし、ジオメディア運営者や技術者、その他関連プレイヤー間の情報交換及び交流の場を提供するための勉強会／交流会、「ジオメディアサミット」の第14回を開催した。

本イベントは年2回のペースで様々な場所で開催している。G空間EXPOでは3回目となり、今回も一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) gコンテンツ流通推進協議会様と共催で開催させていただいた。今回は午前開催となったが、会場の科学未来館には朝早くから多く方にお越しいただいた。今回の勉強会では、5件のライトニングトーク、4件の講演、パネルディスカッションにおいて、最新のゲーム分野における位置情報技術・サービスの紹介、それに関する熱い議論が繰り広げられた。

ライトニングトークは、5分という短い持ち時間の中でそれぞれのサービスの紹介が行われた。また、「AWS re:Invent」に参加されているゴーガの小山氏は開催先のラスベガスから飛び入り参加いただき、初、海外からの中継ライトニングトークを行った。

講演についても、各社、各団体より今回のテーマである「ゲーム×ジオ」について講演が行われた。

パネルディスカッションでは講演でもお話頂いた「Ingress」をテーマに有名なエージェントの方にお越しいただき、Niantic Labsの川島さんにすどいツッコミが行われた。

今回は時間の関係上、これからというところで、パネルディスカッションが終了してしまい、来場いただいた皆様には物足りないものとなってしまったかもしれない。

最後に、ジオメディアサミット開催にあたり、ご尽力いただいた皆様にこの場を借りて、お礼を申し上げます。

文責：ジオメディアサミット代表 瀬瀬考平（ゼンリン）

■ G空間WAVE2014 gコンテンツワールド×ジオメディアサミット（午後）

実施者：gコンテンツ流通推進協議会

開会

【講演 1】

(株) 野村総合研究所 ICT・メディア産業コンサルティング部

主任コンサルタント 鈴木 良介

「5年目のビッグデータビジネスと、ヒト・モノ・カネをつなぐ位置データへの期待」

概要

ビッグデータへの関心が高まってから5年の月日がたち、ウェブサービスのようなサイバー空間だけでなく、フィジカル空間でのデータ活用に対する関心が高くなってきた現状と、有史初めて利用可能となっている様々なデータを活用することによって、どのようなビジネスや公益の実現が可能となるのかについて解説した。併せて、位置データの活用特有な「（自分の現在位置が知られることへの）気持ち悪いデータ活用」への対応について説明した。

【講演 2】

(株) 国際社会経済研究所 主幹研究員 東 富彦

「データ活用ビジネス最前線～オープンデータビジネス成功のポイント～」

概要

「データは貴重な資源である」と欧米各国の政府は公言し、データを基にした新しいビジネスや公共サービス開発に国を挙げて取り組んでいる。ビッグデータに公的機関のデータを再利用するオープンデータの流れが加わり、その勢いは増すばかりである。本セッションでは、データ活用ビジネスの最先端事例を紹介し、オープンデータを活用したビジネスを創出する上でのポイントについて内外のデータを示し解説された。

【講演 3】

経済産業省 商務情報政策局 情報政策課 情報プロジェクト室 室長 和田 恭

「オープンデータによるビジネス創出をめざして」

概要

日本では政府や自治体における「公的データの解放」であるオープンデータが進みつつあり、オープンデータは政府の透明性向上や、市民サービス・ビジネスの創出を通じた市民参加、協業に寄与するものであり、国際的な展開の進展について説明された。我が国でも、社会課題の解決、ビジネスの創出を目指したオープンデータの活用が進んでいる現状等について、経済産業省の取組についてご紹介された。

【パネルディスカッション】

■ テーマ：オープンデータからビジネスは生まれるか

～地域課題解決に止まるのか、その先があるのか～

モデレータ：庄司 昌彦 国際大学GLOCOM講師／主任研究員

パネラー

- ・鈴木 良介
- ・東 富彦
- ・関口 昌幸（横浜市 政策局 政策部 政策課 担当係長）
- ・古山 隆幸（イトナブ石巻 代表）
- ・和田 恭

概要

「オープンデータからビジネスは生まれるか」をテーマにパネルディスカッションが行われた。オープンデータによる社会課題解決、ビジネス市場の開拓と拡大等について、登壇パネラーの産官学それぞれの知見から多様な議論が交わされた。オープンデータにより自治体の取り組みや、非営利団体による取り組みについての課題に対し、ビジネス視点での意見のやり取りや、地域活性化や教育にもオープンデータが活用されている取り組みについても議論された。特に昨今活発に行われているアイデアソンなどに対しビジネス視点の意見や、海外でのデータ利用と国内の現状の比較、また、データの質や量などについても議論が及んだ。

■「地籍情報の共有化と一元化及び公開の有用性」-1

実施者：日本土地家屋調査士会連合会

概要

現在、国は、高度情報化社会に対応した国土基盤情報の整備推進のため、地理空間情報活用推進基本法（NSDI法）が施行される中、平時においてはもとより、緊急時においても有効に地理空間情報を利用できる環境整備の一環として、5年後、10年後の基準点体系を、電子基準点を基盤とした制度に見直すSSP（スマート・サーベイ・プロジェクト）を実行しようとしています。また、地籍調査事業においても、その一環として、新たな測量計測機器の利用を可能とする準則改正なども計画されています。

本シンポジウムは、そのような中、私たち土地家屋調査士が、NSDI法の理念に従い、様々な地籍情報を共有・一元化して公開することができるようにすることの有用性について、関係各所の立場から議論するとともに、これからの地籍情報の共有化と一元化及び公開の有用性と空間情報の進化について考えることを目的としています。

以下、それぞれの概要を報告します。

研究報告

1 「事後責任社会における土地家屋調査士の情報公開」

児玉勝平（土地家屋調査士・日本土地家屋調査士会連合会常任理事）

これからの自己責任型社会における不動産取引においては、買主側が埋設物や相隣関係など目に見えない瑕疵や欠陥をどう見極めるかが重要となってくる。不動産のネット取引が始まる中、不動産トラブルの多くはテレビ会議等で行われる重要事項説明の方法にあると考えられている。そのため、重要事項説明と契約とを分けて行うような動きが高まる中で、説明者の専門家集団ができるのではないかと意見も出ており、国においても不動産流通情報のストックをどのように行っていくかについて検討がされている状況である。本来、国民が求めているのは、取引にかかる土地等のリスク情報であるが、費用がかかるため、そのために必要な事前調査を売主側が避ける傾向にあるのも事実である。そのような中、買主側においても事前調査ができるような仕組みづくりが重要だと考えられる。情報を安価に簡単に取り出せることはもちろんであるが、その情報を解説してくれる者の存在が必要とされると考えられる。私たち土地家屋調査士が持っている情報は、まさにこれからの自己責任型社会の形成へ貢献できるものであり、そのためにも私たちの業務情報を公開するシステム検討を行っている。これからの地籍は、地積、空間情報、相隣情報などさまざまな情報をみんなで寄せ合って作られていくのではないか。そんな中、私たち土地家屋調査士の新たな職責としては、境界を決めるといよりも相隣関係を豊かにするための助言者としての役割を求められていくのではないか。

2 「地図変更情報の蓄積と利用」

木野裕一郎氏（株式会社ゼンリン事業企画本部事業企画部営業企画課課長）

現在の住宅地図は、調査員により足で情報を収集し、それを蓄積・更新して、目的ごとにレイヤーで分けた管理をして提供している。また、カーナビゲーション用地図データについては、計測車両を用い、画像と位置情報を同時に収集し、その情報を画像処理と目視でデータ化して提供している。このようにこれまでは、目的に応じた情報を個別に整理し、それらを重ね合わせることで地図情報を提供してきたが、これからはあらゆる情報を「地物」として整備していく「時空間情報システム」を検討している。これは、目に見える情報（建物、道路など）のほか、目に見えない情報（行政界、境界、地番など）も「地物」として蓄積していき、時間軸で関連づけるシステムであり、過去・現在・未来の地図情報を必要に応じて提供するシステムである。現在すでに一部商用化されているが、例えば建物の築年数推計や商業地などの移り変わりを把握することにより、ターゲットを絞ったマーケティングなどに利用可能であると考えている。ただし、これらの情報は企業単独で収集していくのは困難であるので、情報を持っている関係各所とパートナーシップを組んで取り組んでいきたいと考えている。

3 「官民の防災情報共有における地理空間情報の意義と課題」

花島誠人氏（独立行政法人防災科学技術研究所研究員）

「情報共有」とは、一つの事象に関する情報が複数の主体において共通して認識されることであり、災害時においては、その情報を知っているかどうかにより生死を分けることもある。東日本大震災においては、大規模なインフラの破壊により電子情報へのアクセス手段がなくなり、地図は紙媒体だよりであった。また、地籍図のデータも提供してもらったが、フォーマットが異なるので利用することができなかった。このように防災・災害情報共有の難しさが問題となった。最近になって、そのような防災・災害情報を時空間的に統合することが技術的にも可能となってきており、広島の実験についてもハザード情報はすでに公開されていたとのこともある。ハザード情報からリスク情報への変換が重要であり、その認知のためにも地理空間情報が有効であると考えている。地理空間情報の共有化が図られれば、救助の効率化や復旧の円滑化、またきめ細かい防災対策の実現が可能となる。そのための課題としては、オープンにする領域とそうでない領域の設定の仕方やデータの鮮度、また、可用性、真正性、相互運用性という3つの要件をどのように担保するのかということなどがある。

■「地籍情報の共有化と一元化及び公開の有用性」-2

実施者：日本土地家屋調査士会連合会

4 「空間情報アーカイブの試み」

西村右文（土地家屋調査士・日本土地家屋調査士会連合会研究所研究員）

重要記録を保存・活用し、未来に伝達するという「アーカイブ」の定義からすると、いつも私たち土地家屋調査士が行っている業務はまさにそれに当たると思うが、現在の状態では十分に活用されているとはいえない。そこで、各土地家屋調査士が持っているデータを一元化し、三次元で図形化するなどしてより便利に活用できないかどうか考えている。そのためには個々のデータ作成が増える負担や集約の仕方、またデータをどこまで公開するかなどの課題があると思われるが、三次元データの作成については、現在、より手軽にそのようなデータが作成できるソフトウェア（例sketch up make、Pix4D mapperなど）が開発されてきているので、将来のデータ一元化を見据え、このような知識を蓄えていくことも必要なのではないだろうか。

基調講演

「地籍調査におけるスマート・サーベイ・プロジェクト」

檜山洋平氏（国土交通省土地・建設産業局地籍整備課課長補佐）

まちづくりの基盤や災害時の復旧復興の早期化にも有効な地籍調査であるが、現在の進捗率は50%程度である。そこで、国では、国土地理院が策定した公共測量における「電子基準点のみを既知点とした基準点測量マニュアル」における手法を地籍調査にも取り入れ、ネットワーク型RTK-GPSなどの新技術を利用した測量の効率化を行うことを検討している（スマート・サーベイ・プロジェクト：SSP）。新しい手法によれば、これまで電子基準点→四等三角点→図根三角点という流れで行っていた測量が、四等三角点を使用せずに電子基準点→図根三角点とすることが可能となり、測量の大幅な効率化が図られることが期待されている。国としては、27年度から新手法を取り入れたいと考えており、今後、新手法によるさらなる検証作業や新しい調査方法の普及・啓発を行っていきたいと考えている。

パネルディスカッション

「地籍情報の一元化による地図管理及び公開の有用性」

パネリスト

川口 保氏（公益財団法人日本測量協会測量技術センター参事役・管理部長）

花島誠人氏（同上）、木野裕一郎氏（同上）、児玉勝平（同上）

コーディネーター

佐藤彰宣（土地家屋調査士・日本土地家屋調査士会連合会広報部長）

SSP（スマート・サーベイ・プロジェクト）の一環としての電子基準点を基盤とした制度等を、防災、位置情報サービス、地籍図作成等に多目的に利用することについて、地図を作成する側、地図を利用する側、それぞれの立場から議論し、土地家屋調査士が所有する地籍情報を一元化管理することによる地図作成更新とそれらの情報を公開することの有用性について議論しました。

① 現状報告（基準点・地図の作成・管理・共有化）

それぞれの立場から地図の作成や利用について現状報告が行われました。

- ・ ここ10年の間に3Dプリンターや新たな観測手法が出現し、より簡単に詳細な地図の作成が可能となっている。電子基準点を最大限に利用することで座標の共有化統一化を図ることが可能であると考えている。
- ・ 災害発生時においては、広域的な地理空間情報がまず必要になる。SSPの成果が災害時に共有できるようになれば、その貢献は大きいと思う。
- ・ 地図については、以前よりもその情報のきめ細かさ、鮮度を求められる状況になってきている。
- ・ 土地家屋調査士としては認定登記基準点を約1,600点設置して活用している。但し、私たち土地家屋調査士が作成しているのは「地図」とは言っているが、こま切れであり、意味合い的には「財産図」と言えるのではないか。

■「地籍情報の共有化と一元化及び公開の有用性」-3

実施者：日本土地家屋調査士会連合会

② 問題提起

①の報告を踏まえ、いくつかの問題提起がされました。

- ・ 精度の良い測量をしているが、それぞれに目的があり、それ以外において利用されることが少ない。座標値などお互いに共有できるはずであるが、目的以外において利用されることが少ない。縦割り行政の弊害が出ていると思う。また、高さ情報について計測しながら成果に現れていないのも問題ではないか。
- ・ 共有化を進めていく上で障害となり得るのがフォーマットの問題であり、共有化できるような形式で作成していくことが重要。しかし、共通のフォーマットが世間に浸透するためにはまだ時間が必要であると考えられるため、現在、防災科研では必要なものがすぐ出せるようなバックグラウンドで動く仕組みの開発を進めている。
- ・ 地図の精度と鮮度を更新していくためには、一企業だけでは不可能であるので、土地家屋調査士などそれぞれが持っている測量等の成果を提供していただき、活用していくことが重要。そのためには多少なりともインセンティブが必要である。
- ・ 土地家屋調査士は提供できるデータは持っているが、そのままでは公開できないのである程度の加工が必要。ただしその手間をかけるだけのメリットがあることが重要である。防災的な意味からも土地家屋調査士が持っているデータは意味あるデータとなり得る。一つの団体で行うのではなく、一人一人が管理していくことが重要。

③ 解決へ向け

②の問題提起を受け、次のような解決策の提案がされました。

- ・ 取次的な第三者機関を設けることにより、一括管理することで共有化を図るのはどうか。ただし個人情報問題となるので解釈の検討が必要である。
- ・ 独居老人や介護等が必要な人がどこに住んでいるかなど、地図情報に個人情報が紐づいているのは災害時においてとても重要であるので、平常時はいいとして、災害時には、一定の権限者はその情報にアクセスできるような仕組みの構築が必要であると考えます。
- ・ 公開された個人情報を管理し、どこまで公開するかについては企業側もある程度の割り切りが必要ではないか。そのような成功事例を民間で積み上げてビジネスモデルを作っていくことで発展させていけるのではないかと。
- ・ 私たち土地家屋調査士は境界を確認する際にさまざまな個人情報を取得することになるので、それを活用することができると思う。しかし、そのまま渡してしまうと個人情報が保護できないので、例えば私たち土地家屋調査士などが間に入ることで個人情報も守られるし、取引等も円滑に進むことになるのではないかと。そのような仕組みが構築していけたらと考えている。

④ 今後の活用方法

②、③での議論を踏まえ、今後一元化等が成された場合の今後の活用法についてそれぞれが意見を述べました。

- ・ 地図は人が生活するうえでは欠かせないもの。今でも、案内（ナビゲーション）、財産の管理・保護など、細かい目的を抽出して利用できるものであり、同一基準で作成して共有化するメリットは非常に大きい。現在のデジタル時代においては、技術の共有化、利用の共有化は可能である。法律改正も視野に入れ、取り組んでほしい。
- ・ 地域のことを知っていてITがある程度分かり、地図がわかる方が防災には大変重要であるので、土地家屋調査士の方々には今まで以上に地域防災に関わってほしい。
- ・ 土地家屋調査士が持っている情報（地番、測量成果、写真など）はとても貴重で価値あるものと認識している。それをそのほかの情報と共に活用していければよりよい地図情報システムが構築できるのではないかと。
- ・ 例えば相隣関係など土地家屋調査士が持っている情報を共有化することでできるシステムは必ず世の中や人の役に立つものと信じている。そのためには私たち土地家屋調査士はそのシステムの一部となり、話す地図、歩く地図としての役割が期待されているのではないかと。

⑤ まとめ

例えば、どこか一か所に地図の情報をまとめて随時更新していき、共有し、平時有事に関わらず、皆さんが活用できる状況になることは大変意義があると思う。毎日、地図を利用する側にとっても非常に便利なことだと思う。それを実現するためにも、地籍情報を取り扱う専門家組織が共有化環境を各々が整備する必要がある。

私たち土地家屋調査士は、関連する組織と互いの専門性を認め合い協調し合うことにより、次世代の四次元管理体制の整備を意識しながら将来ビジョンを掲げて努力していきたいことを宣して本シンポジウムは終了となりました。

(日本土地家屋調査士会連合会 広報部長 佐藤彰宣)

■ 一般市民向けの地理空間情報の利活用に向けて—GIS教育を中心に— 実施者：一般社団法人地理情報システム学会

本シンポジウムは、地理情報システム学会の企画委員会が中心に企画したものであるが、土曜日の開催ということもあり、企業やビジネス向けの内容よりは教育関係者や市民向けの内容の方が適切であろうと考えた。地理空間情報を活用しての日常生活の利便性向上がどのようにはかれるのかを、女性向け・子供向け・家族向けのサービスも含め、具体的な事例を含めて紹介することが重要であると考えた。その中には、学校教育や市民教育などの教育分野での利活用も含まれている。そのため、GIS教育に焦点を当てたシンポジウムにした。

今回のシンポジウムでは、学会の主要な委員会や分科会からパネラーを推薦いただき、彼らによる10分程度の発表とパネルディスカッションにより構成されている。パネラーは以下の8名である（敬称略。括弧内は所属。後半は学会における所属委員会または分科会）。

酒井高正（奈良大学：教育委員会） 島川陽一（サレジオ工業高等専門学校）

畑山満則（京都大学防災研究所：防災分科会） ベンカテッシュ ラガワン（大阪市立大学：FOSS4G）

大伴真吾（朝日航洋（株）：GIS資格認定委員会） 小泉和久（浦安市役所：自治体分科会）

三橋浩志（文部科学省） 小荒井衛（国土交通省国土交通大学校：企画委員会）

パネラーによる発表は、分野によって学校教育、社会人教育、市民教育の順番に発表することにした。まずは学校GIS教育をテーマにして、教育委員会の酒井高正先生がGIS学会における学校GIS教育のサポートの仕組みについて、島川陽一先生が教育現場の最前線である工業高等専門学校におけるGIS教育の実態について、文部科学省教科書調査官の三橋浩志氏が社会科教育の学習指導要領におけるGISの位置づけについて話題提供を行った。次いで社会人GIS教育をテーマに、自治体分科会の小泉和久氏が地方自治体におけるGISの普及状況と自治体分科会における自治体のGIS普及に関する取り組みについて、GIS資格認定委員会の大伴真吾氏が社会人に対するGIS資格認定制度について、国土交通大学校測量部長の小荒井衛氏が公務員を対象にしたGIS研修の実態について話題提供を行った。最後に市民GIS教育をテーマに、FOSS4G分科会のベンカテッシュ ラガワン先生がオープンソースGISソフトの状況とそれらを活用したGISの普及啓発について、防災分科会の畑山満則先生が役所や市民を対象にしたGISを活用した防災活動の実態と課題について話題提供を行った。

その後、1時間程度のパネルディスカッションとなったが、参加人数は20名程度と少なかったものの、活発な情報交換・意見交換が行われた。GIS学会の事務局長から、サービスを受ける側の意見や効果についての質問があった。パネラーからは、ユーザ視点で考えることが重要であるとの回答があった。学校や自治体でも先駆的な方がいるところではかなりユーザ視点の取り組みがなされているが、そうでないところでは全く取り組みがなされていないなど、GISの活用については較差が大きい実状がある。ただし、GISが使える人材は就職状況が良いなど、高等教育分野でのGISの重要性は増してきている様である。また、国土地理院の職員から、今後国が整備すべき地理空間情報は何だと考えるかという質問があった。パネラーからは、災害前後の比較のためには過去のデータが重要である、災害後のデータは精度よりも鮮度が重要である、交通環境をテーマにする場合にはデータの取り方の変わらない時系列データが重要であるとの意見があった。また、電気ガス水道などの生活インフラのデータが必要、住民基本台帳データに座標を付けることが重要など行政の持っている情報をより自由に活用できるオープンデータの重要性を指摘する意見もあった。他には、GIS上級技術者について、更新に必要なポイントを学会として取得しやすい様にする取り組みの重要性や、GIS教育ではGIS操作方法だけでなくプログラミング技術の伝授も必要であるとの意見もあった。

今回のシンポジウムで何か特段の結論や提言が出された訳ではないが、今後もこのような議論を定期的に行っていくことの重要性が、会場全体の共通認識として得ることができた。最後に、登壇して話題提供いただいた方々、会場から積極的に発言してシンポジウムを盛り上げてくださった皆様に心から感謝します。

小荒井衛（国土交通大学校測量部長；地理情報システム学会企画委員会委員長）



8.制作物

■ポスター（B2 / 片面 / フルカラー）

ニッポンの未来は、
オモシロイ。

G空間EXPO 2014
地理空間情報科学で未来をつくる

日本の未来を
見に行こう!

11/13木 14金 15土 会場:日本科学未来館(東京・お台場) 入場無料
【開催時間】10:00~17:00 常設展示をご覧いただくには
入場料が必要です。

G空間EXPO 2014 公式ウェブサイト: <http://www.g-expo.jp>

■主催: G空間EXPO2014運営協議会 / 公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会、一般財団法人衛星測位利用推進センター、gコンテツ流通推進協議会、一般社団法人地理情報システム学会、内閣官房、内閣府宇宙戦略室、国土交通省国土政策局、国土交通省国土地理院、独立行政法人宇宙航空研究開発機構
■共催: 日本科学未来館、臨海副都心まちづくり協議会 ■後援: 東京都港湾局

■ G空間キャッシング (A4 / 両面 / フルカラー)

G空間キャッシング

お台場で (キャッシング) 宝探しにチャレンジ!

やめかたは裏面を見て!

△ 入場禁止区域や危険な場所、海中などには探してはいけません!

日本科学未来館
G空間EXPO2014 開催中!
G空間EXPO2014 開催中!
G空間EXPO2014 開催中!

テレコムセンター

7 館内にはGガール!

8 鹿のロケット

9 自転車に乗って

開されているお宝は、9コ! さがしにいきましょう!

1 家ほろば
日本科学未来館の2階フロアに、隠れている9つの宝の宝庫。宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 低 宝庫の場所 低
■ ヒント DEM
■ 電話番号 35.61.9363, 139.777662

2 高い靴子
日本科学未来館の2階フロアに、隠れているお宝の宝庫。宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 高 宝庫の場所 高
■ ヒント G
■ 電話番号 35.61.9436, 139.778104

3 20m先入口
公園の20m先にある宝庫。日本科学未来館の入口に近いです。宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 低 宝庫の場所 高
■ ヒント 17号
■ 電話番号 35.62.0126, 139.776910

4 チョコレートおでん
宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 高 宝庫の場所 高
■ ヒント 力尽きた
■ 電話番号 35.61.8567, 139.778678

5 Connecting Dots
宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 高 宝庫の場所 高
■ ヒント クリスマス
■ 電話番号 35.61.9090, 139.776402

6 幸せの青い犬
宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 高 宝庫の場所 高
■ ヒント NISSAN
■ 電話番号 35.61.9676, 139.778651

7 館内にはGガール!
G空間EXPO2014の会場に、Gガールがいます。Gガールは、お宝のヒント(宝庫のパスワード)を隠しています。
■ 宝庫名 低 宝庫の場所 低
■ ヒント Gガール
■ 電話番号 35.61.8567, 139.778678

8 鹿のロケット
宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 高 宝庫の場所 高
■ ヒント ブースター
■ 電話番号 35.61.8340, 139.779199

9 自転車に乗って
宝庫の中にはお宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。
■ 宝庫名 低 宝庫の場所 低
■ ヒント Box
■ 電話番号 35.61.8156, 139.778704

G空間キャッシング

はじめかたガイド

1 G空間キャッシングとは?
G空間キャッシングとは、お宝探しを目的としたスマートフォンアプリを使ったゲームです。スマートフォンアプリを使って、お宝探しをします。お宝探しをすることで、お宝のヒント(宝庫のパスワード)が隠されています。お宝のヒント(宝庫のパスワード)を隠すことで、お宝の場所がわかります。お宝の場所を探索することで、お宝の場所がわかります。お宝の場所を探索することで、お宝の場所がわかります。

2 お宝の場所を探そう!
お宝の場所を探そう! お宝の場所を探そう! お宝の場所を探そう!

3 お宝の近くまで行ってみよう!
お宝の近くまで行ってみよう! お宝の近くまで行ってみよう! お宝の近くまで行ってみよう!

4 お宝の場所を探そう!
お宝の場所を探そう! お宝の場所を探そう! お宝の場所を探そう!

おめでとう! 発見!

他の"お宝"にチャレンジ!
あなたは、いくつ見つめられる?

Geo spatial
G空間EXPO 2014
地理空間情報科学で未来をつくる

11/13*14*15 (10:00~17:00)

会場: 日本科学未来館 (東京・お台場)
〒135-0101 東京都港区台場1-1-1
TEL: 03-5561-8567 FAX: 03-5561-8568

東京臨海高速鉄道りんかい線 新百合ヶ丘駅下車、徒歩10分



9. 広報活動

■ G空間EXPO公式WEBサイト



G空間EXPO2014は終了となりました。たくさんのご来場ありがとうございました。

スペシャルインタビュー

ここでしか聞けないスペシャルインタビュー! ご覧になりたいインタビュー動画を選択してください。

FILE 01	2014.11.12	G空間社会が作る未来のくらし	G空間EXPOアドバイザー 東野 亮介 氏
FILE 02	2014.11.20	ウェアラブルデバイスの先駆者が語る!	NPO法人ウェアラブルデバイス推進機構 代表 藤原 真氏 氏
FILE 03	2014.11.22	国内位置情報サービスの現状!	NPO法人位置情報サービス推進機構 代表 河川 慎夫 氏 氏
FILE 04	2014.11.30	G空間社会によるイノベーション	インフォマティクス・システムズ株式会社 専務取締役 神武 直彦 氏 氏

EXPO関係者へのインタビューを実施し、公式Webサイトに掲載しました。

G空間EXPO2014 来場者数 (ニゲート通過者数)

11月13日(木)	5,656人	11月14日(金)	5,845人	11月15日(土)	8,810人
3日間合計			20,311人		

* 各々の来場者数の重複等については考慮しておりません。
* ゲート通過者数については、ゲートに設置されたカウンタの数値について、会場である日本科学未来館よりご報告頂いたものです。
* 開場・シンポジウムの参加者数については、含まれておりません。

What's New

- 11月15日(土) G空間EXPO2014 最終日です。
- 11月14日(金) G空間EXPO2014 本日2日目です!
- 11月13日(木) いよいよG空間EXPO2014が始まりました!
- 11月6日(木) スペシャルインタビュー 富士通システム・インテグレーション株式会社 代表取締役 神武 直彦 氏 氏
- 10月30日 G空間EXPO2014 来場者数 (ニゲート通過者数)

Official Facebook

Facebook公式アカウントのタイムラインを掲載しました。

Facebook公式アカウント、Twitter公式アカウントのタイムラインを掲載しました。

Official Movie

特別映像公開中!

ニッポンの未来は、オモシロイ。

Official Twitter

Tweet to @g_expo

メディアパートナーとの相互リンクを設定しました。

G空間EXPO2014運営協議会ワーキングチーム各社との外部リンクを設定しました。

メディアパートナー

Route Press, GIS NEXT, 読者ニュース (KOKI NEWS JP), GLASS INFO

Link

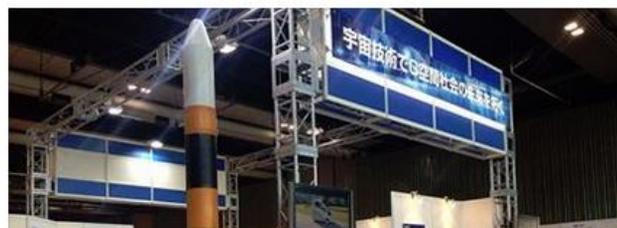
PAC 一般財団法人 地理空間情報推進センター, JSIMA 一般社団法人 日本測量協会, 公益財団法人 日本測量協会, ANA 宇宙航空研究開発機構

■ G空間EXPO公式SNS

Facebook (<https://www.facebook.com/GEXPO2014>)



投稿する際は、写真とともに内容にリンクしているWEBページのURLを貼りました。

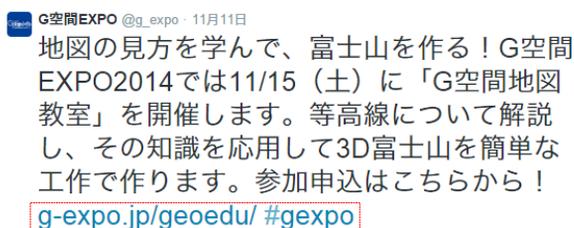


総投稿数：64

Twitter (https://twitter.com/g_expo)



ツイートする際は、「#g-expo」とともに内容にリンクしているWEBページのURLを貼りました。



総投稿数：22

■ G空間EXPO公式動画配信サイト

Youtube (<https://www.youtube.com/user/gexpo2014>)



Ustream (<http://www.ustream.tv/channel/g-expo2014>)



■ 日本科学未来館との連携（公式WEB / 館内告知）



日本科学未来館内でのポスターの掲出



日本科学未来館内でのチラシの配布

日本科学未来館公式Webサイト内でG空間EXPO2014のイベント紹介

■ 日本科学未来館との連携（公式SNS）



日本科学未来館
2014年11月10日 · 公開

【地理空間情報で暮らしを豊かに！ G空間EXPO開催】

みなさんは「地理空間情報」（Geo Spatial Information：以下G空間情報）という言葉を知っていますか？ 人工衛星を使っている衛星測位と、人口動態や渋滞情報などの地理情報システムを組み合わせた情報を指す言葉です。バス停でバスがどれくらい遅れているのか、インフルエンザが今後どのように流行していくのかなどの情報にも、G空間情報を使った技術が使われています。私たちの生活にかかせないG空間情報、これからもっと活用していくためにどうすればいいでしょうか。そんなG空間情報の最先端を知るチャンスが11月13日（木）～15日（土）に未来館で開催される「G空間EXPO2014」。そのオープニングトークとして、11月13日（木）11:20～1階シンボルゾーンにて、「ニッポンの未来はオモシロイ！ G空間社会がつくる未来の暮らし」を開催します。東京大学空間情報科学研究センター教授の柴崎亮介先生やゲームクリエイターの犬飼博士さんなど、未来館の3階常設展示「アナグラのうた」制作にも関わっていただいた方々とともに、G空間社会の仕組みや最新の動向をご紹介します。

- G空間EXPO2014（11月13～15日開催）
<http://www.g-expo.jp/index.html>
- 「ニッポンの未来はオモシロイ！ G空間社会がつくる未来の暮らし」（11月13日 11:20～）
<http://www.g-expo.jp/message/stage.html>



『G空間EXPO2014』公式サイト
2014年11月13～15日に日本科学未来館（東京・お台場）にて開催の『G空間EXPO2014』公式サイトです。

G-EXPO.JP

いいね！ · コメントする · シェア · 82 · 1

日本科学未来館 公式Facebookアカウント
(2014年11月10日)

日本科学未来館 公式Twitterアカウント
(2014年11月7日)

ツイート	フォロー	フォロー中	お気に入り
3,836	24,389	26,604	1

を愛でもよし。自分で作ってみるもよし。 > 科学コミュニケーターブログ：結晶を育てる → bit.ly/1sGxMW3

👍 10 🌟 7

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月13日

「もう、人間と自然は共生できない」...11/22・23開催の「TOKYO・100人ディスカッション」にご出演いただく環境学者・五箇公一さんのインタビューがCINRAに掲載。100人ディスカッションは参加者募集中です！ bit.ly/1EDH0Ld

👍 11 🌟 9

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月12日

【明日から3日間、「G空間EXPO2014」開催！】 将来が期待されるG空間（地理空間情報技術）に関する最先端の技術を見て、触れて、学べるイベントです。 bit.ly/12NbPPW

👍 9 🌟 8

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月11日

12/5（金）20時、鹿児島にある知的障害者支援施設のしょうぶ学園のバンドotto & orabuと高木正勝氏によるライブパフォーマンスを開催！ 多様な人々が生み出す音楽が共鳴する瞬間にぜひ立ち会ってください（要チケット購入） bit.ly/1pzly0S

👍 12 🌟 11

日本科学未来館 公式Twitterアカウント
(2014年11月12日)

ツイート	フォロー	フォロー中	お気に入り
3,836	24,389	26,604	1

要。お気軽に会場へお越しください！ bit.ly/1sQkZVH

👍 12 🌟 4

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月8日

11/22（土）18時半～アルスエレクトロニカ・リンツの芸術監督、ゲルフリート・シュトッカー氏の特別講演「アートは都市を変化させる触媒である」を開催。アート&テクノロジーと都市について存分に語ります。要申込 → bit.ly/1p9ZBLV

👍 16 🌟 13

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月7日

11/13（木）～15（土）、「G空間EXPO2014」開催！ 将来が期待されるG空間（地理空間情報技術）に関する最先端の技術を見て、触れて、学べるイベントです。 bit.ly/12NbPPW

👍 25 🌟 11

📍 日本科学未来館 @miraikan · 11月7日

再生可能エネルギーとして期待される太陽電池。実はいろいろタイプがあるってご存知ですか？ 研究者から直接、聞いてみましょう。 > 科学コミュニケーターブログ：求む！ 未来の研究者 JST 太陽電池キャラバン →

■ G空間EXPO2014 メディアパートナーとの連携 (WEB)

Expo TODAY

The screenshot shows the Expo TODAY website with a focus on automotive news. Key elements include: a top navigation bar with 'トップ', '展示会・イベント', 'ランキング', '資料ダウンロード', and 'イベントニュース'; a main banner for 'iPhoneの回線速度を計ってみよう!'; a featured article for 'AUTOMOTIVE WORLD 2015' with a photo of a crowd; and a sidebar with '注目のセミナー・イベント' listing various events like '骨董ジャンボリー' and 'TOKYO AUTO SALON 2015'.

航空ニュース

The screenshot shows the KOKU NEWS JP website. The main feature is a large banner for '航空便覧2014' (Aviation Yearbook 2014), described as '航空人必携' (essential for aviation professionals) and '発売中' (on sale). The banner text includes '本邦航空界の2014年を網羅' (covering the 2014 Japanese aviation industry) and '本体価格 2305円' (main price 2305 yen). The website layout includes a search bar, navigation tabs for 'ホーム', 'WEBニュース', 'WEBコラム', '電子版', 'イベント', and '吉報・雑談', and a news section with several articles.

東京IT新聞

The screenshot shows the Tokyo IT News website. It features a top navigation bar with '最新記事', '最新情報', 'キーワード', and 'RSS'. The main content area includes several news articles, such as '地方創生' (Local Revitalization) and '2015年のセキュリティ' (2015 Security). A prominent advertisement for '動画配信ビジネス調査報告書2014' (Video Distribution Business Survey Report 2014) is visible on the right side. The website also has a sidebar with '注目のセミナー・イベント' and a footer with 'SPONSOR' information.

GIS NEXT

The screenshot shows the GIS NEXT magazine website. The top banner features the magazine title 'GIS NEXT' and the tagline '地理情報から空間IT社会を切り拓く' (Opening up spatial IT society from geographic information). Below the banner is a navigation bar with 'HOME', 'What's GIS NEXT', 'Next Number', 'Back Number', 'Readers Voice', and 'Staff'. The main content area includes a 'MENU' sidebar, a '最新号' (Latest Issue) section, and a '特集' (Special Feature) section titled '異常気象を捉える' (Capturing Abnormal Weather). The '特集' section highlights articles on '降雨予測の高解像度化でゲリラ豪雨に迫る' (Approaching Gully Floods with High-Resolution Rainfall Prediction) and 'Xバンド MPRレーダー網でリアルタイムに降雨観測' (Real-time Rainfall Observation with X-band MPR Radar Network). A 'Fujisan.co.jp' logo is also present.

■ G空間EXPO2014 メディアパートナーとの連携 (WEB)

東京お台場.net

The screenshot shows the homepage of Odaiba.net, featuring a navigation bar with language options and social media links. The main content area includes a calendar for the month of May 2014, categorized by event type such as 'レジャー' (Leisure), 'グルメ' (Food), 'ホテル' (Hotels), and 'ショッピング' (Shopping). A 'ピックアップ' (Pickup) section highlights specific events like '折って開く色が数字マジック' and '折って開く色が数字マジック'.

日経コンピュータ

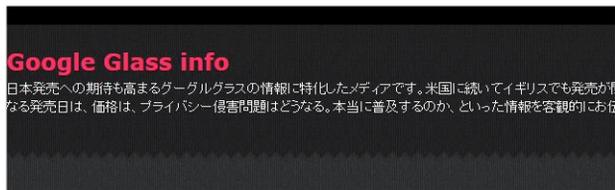
The screenshot displays the Nikkei Computer website interface. It features a top navigation bar with various categories like 'Biznet', 'ビジネス', 'PC', 'IT', etc. The main content area includes a 'Pickup' section with an article titled '「2015年はBeacon元年」、JR東日本やJALも活用する“屋内版GPS”の本音'. There is also a prominent advertisement for VMware's Software-Defined Data Center. A 'Headline' section lists various news items, and a 'Focus' section highlights '今日のトピックス'.

ルート21

The screenshot shows the Route Press 21st website. The main headline is '道の駅を「地方創生の拠点」に'. The article text discusses the role of roadside stations in regional revitalization. A sidebar on the left contains social media links for Facebook and NPOs. A 'ピックアップ' section highlights the 'G空間EXPO' event. At the bottom, there is a section for '東日本大震災特別編集委員会 販売中' with a cover image of a magazine.

■ G空間EXPO2014 メディアパートナーとの連携 (WEB特集記事)

GLASS INFO (2014年11月12日配信)



2014年11月12日
スマートグラス関係者は要チェック 「G空間EXPO2014」で塚本昌彦教授ら参加のトークイベントが開催

📍 日本での動き | 📄 ガーグルグラスの業務利用 | 🗨️ 0 コメント

地理空間情報の活用に関するイベント「G空間EXPO2014」が東京・お台場の日本科学未来館で11月13日から開催される。今年で4回目を迎える同イベントには、位置情報に関する最先端技術が一堂に集結する。



ウェアラブルやスマートグラス関連で最大の見どころと言えるのが、11月14日(金曜日)15:10から**メインステージ**で開催される「ウォッチ vs メガネ G空間を制するのはどっち?」と題されたトークイベント。「ウェアラブルデバイスの最新動向」をテーマに神戸大学・塚本昌彦教授をはじめ、計4名のパネラーが集結する。



塚本昌彦教授と言えば、先日ソニーの「SmartEyeglass」を着用して大阪マラソンを完走して話題を呼んだばかり。マラソンは「ウェアラブルの究極の実用性テスト」(塚本教授)とのことで、当日はそのこぼれ話なども聞けるかもしれない。

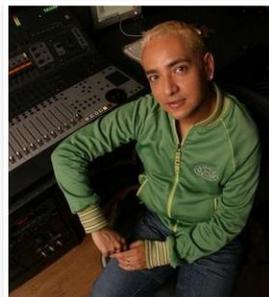
パネラーには他にも「和製ガーグルグラス」の異名をとる「Infrod -インフォロッド-」開発元のウエストユニティ社代表の福田登仁氏、ヘッドマウントディスプレイ「mirama」で知られるブリリアントサービス社・杉本礼彦氏。そして、セイコーエプソンでMOVERIOの商品化を担当した津田敦也氏も登壇。スマートグラス関連の最新動向を知るには必見の権しと言えそう。

また今回のG空間EXPO会場では日立製作所の搭乗型移動支援ロボット「ROPITSR」のデモンストラーションも実施される。



位置情報をもとに自律移動する「ROPITSR」は「日本版グーグルカー(Google Self Driving Car)」とも呼べるような注目のプロジェクト。茨城県つくば市で走行実験を重ねているが、今回は初の一般公開ということで、こちらも大きな話題となりそう。

最終日、15日(土曜日)のメインステージでは J-WAVEのナビゲーターを務め、ガジェットへの造詣も深いクラブDJとして知られるDJ TAROが司会進行役として登場。



地元好きコラムニストとして知られる泉麻人氏のトークや、アスキーの遠藤諭氏が「位置モノ ガジェット & アプリ大賞」を発表するなど、とにかく見どころ豊富な内容となっている。

「G空間EXPO2014」は11月13日～15日までお台場の日本科学未来館で開催。入場は無料。[公式サイト](#)から詳細をチェックし、会場口向かってほしい。(Google Glass Info)

「G空間EXPO2014」[メインステージプログラム](#)

■ G空間EXPO2014 メディアパートナーとの連携 (雑誌特集記事)

GIS NEXT (第49号: 2014年10月)

特集 異常気象を捉える

矢野 桂司

ニッポンの未来は、オモシロイ

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

今年もG空間EXPOの開催は前年同様多岐にわたります。東京・有明コロシアムで開催される「G空間EXPO2014」は、今年も多くの注目を集めています。その中でも、今年の特集として「ニッポンの未来は、オモシロイ」が大きな注目を集めています。この特集は、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

地理空間情報フォーラム

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本フォーラムは、地理空間情報技術の最新動向や、その応用分野に関する講演やパネルディスカッションが行われます。また、最新のGISソフトウェアやハードウェアの展示も行われます。

「オモシロイ」未来を体感し、G空間へ飛び込め!

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本特集は、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

G空間 EXPO メッセージゾーン

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本ゾーンでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

2014 G空間社会を支える最先端の技術やサービス

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本ゾーンでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

2014 G空間社会を支える最先端の技術やサービス

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本ゾーンでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

Geoアクティビティフェスタ

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本フェスタでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

Geoエデュケーションプログラム

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本プログラムでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

Geoアクティビティフェスタ

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本フェスタでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

Geoエデュケーションプログラム

「(最新特集) G空間 EXPO2014」

本プログラムでは、G空間EXPO2014の開催を機に、日本の未来について、最新の技術やアイデアを交えて、未来の日本を想像し、その可能性を追求する内容となっています。

■ G空間EXPO2014 その他媒体との連携（雑誌特集記事及び広告）

週間アスキー（No.1003 / 2014年11月4日発刊）

iPhone6 Plusと大型スマホを完全比較っ
 デルが最新グラフィックをノートで使う「夢のBOX」つきAlienwareを発売!!

週刊アスキー No.1003
 weekly.ascii.jp

11/18 400円
デカスマホ10機種比較

Zen Watch
 着けてスマホの小さなスマートウォッチ

エクスペリアがキャラクシーかネクサスか?

iPhone6/Plus アクセ33
 4004からコアMまでグッとわかる
CPU進化の道 40年

八面六臂株式会社

G空間EXPOへ行こう!

驚きと感動で期待膨らむ
ニッポンの未来を実感!

位置情報サービス
 急速に進化する

位置情報社会に
 欠かせないキーワード
オモシロイ

Geo spatial
G空間EXPO 2014
 地理空間情報科学で未来をつくる

11/13・14・15
 http://www.g-expo.jp

科学雑誌 Newton（10月25日発刊）

from Miraikan
未来社会は、情報も「銀行」へ

「パーソナル情報」という言葉をどう使いますか? 近未来社会の「個人情報」の正体、そのリスクと管理、パーソナル情報とは、高度な技術と直接は関係がないけれど、個人にのみ与えることができる情報です。位置情報・行動履歴、買い物履歴のような消費情報など、その人の行動の中で発生する多くの情報がパーソナル情報にあります。

パーソナル情報は、種類・量ともに、日々増えています。また、活用方法も多岐にわたります。たとえば、電車から帰路に帰ることができるように個人IDカード（交通系ICカード）にパーソナル情報を読み取ることができるといった、利便性の高いサービスが、早急に実現を望まれているように見えます。あるいは、GPS履歴の多量なデータにより、より身近になった「健康情報」、地震などの自然災害に役立つ情報、より安全な「通勤」ができるようになるかもしれません。

一方で、プライバシーの侵害などの懸念も多いのも事実です。過去のデータの活用も増え、病院では、過去の診療履歴を参照して診断することができるようになります。また、過去の履歴を参照して、より適切なサービスを提供することも、その価値を必要とするには十分な活用ができるのではないでしょうか。

そのキーワードは「銀行」にあります。お金を銀行に預けて、銀行から利息を得るというしくみを参考に、個人情報を「情報銀行」という概念が提唱されています。

情報銀行の提唱者、東京大学教員による提議は、次のようなものです。個人情報は「情報銀行」へ預け、個人情報は、個人が自由に利用できるようにして、個人情報を安全に管理するのは個人自身、安全な利用ができることを個人が求め、個人が同意した内容が適切に提供されることを示します。個人が預けた個人情報は、「預け」られて、たまたま利用されるのではなく、個人が同意した範囲で利用されるという、きめ細やかなサービスを実現するというのです。また、多くの情報が「情報銀行」に集まることで、高度な分析技術を活用し、個人に最適なサービスを提供できる可能性があります。

「情報銀行」は情報の保管・管理・運用をこなす
 個人IDカード
 個人IDカード
 個人IDカード
 個人IDカード

「情報銀行」の概念は、個人が個人情報を預け、個人が個人情報を自由に利用できるようにして、個人情報を安全に管理するのは個人自身、安全な利用ができることを個人が求め、個人が同意した内容が適切に提供されることを示します。個人が預けた個人情報は、「預け」られて、たまたま利用されるのではなく、個人が同意した範囲で利用されるという、きめ細やかなサービスを実現するというのです。また、多くの情報が「情報銀行」に集まることで、高度な分析技術を活用し、個人に最適なサービスを提供できる可能性があります。

「情報銀行」というパーソナル情報
 個人が個人情報を預け、個人が個人情報を自由に利用できるようにして、個人情報を安全に管理するのは個人自身、安全な利用ができることを個人が求め、個人が同意した内容が適切に提供されることを示します。個人が預けた個人情報は、「預け」られて、たまたま利用されるのではなく、個人が同意した範囲で利用されるという、きめ細やかなサービスを実現するというのです。また、多くの情報が「情報銀行」に集まることで、高度な分析技術を活用し、個人に最適なサービスを提供できる可能性があります。

「G空間 EXPO2014」開催!
 日本科学未来館（東京都中央区）にて、11月13日（水）～15日（金）に「G空間 EXPO2014」を開催します。地理空間情報科学で未来をつくる。開催期間中は、地理空間情報科学に関する展示、講演、ワークショップなどを実施いたします。また、地理空間情報科学に関する展示、講演、ワークショップなどを実施いたします。また、地理空間情報科学に関する展示、講演、ワークショップなどを実施いたします。

月刊『測量』（2014/11月号）

ニッポンの未来は、オモシロイ。

Geo spatial
G空間EXPO 2014
 地理空間情報科学で未来をつくる

11/13・14・15
 http://www.g-expo.jp

■プレスリリース（平成26年10月16日配信） 地理空間情報フォーラム

発表場所：(公社)日本測量協会 303会議室
発表日時：平成26年10月16日(木) 15時～16時
解禁日時：平成26年10月16日(木) 以降適宜

公益社団法人 日本測量協会
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会
一般社団法人 日本測量機器工業会
公益財団法人 日本測量調査技術協会

G空間 EXPO2014において、地理空間情報フォーラム2014を開催 【会期：11月13日(木)～15日(土)、会場：日本科学未来館】

公益社団法人日本測量協会(会長 村井俊治)、一般社団法人全国測量設計業協会連合会(会長 野瀬 操)、一般社団法人日本測量機器工業会(会長 平野 聡)、公益財団法人日本測量調査技術協会(会長 岡部篤行)は、11月13日(木)～15日(土)の3日間、日本科学未来館(東京都江東区青海2-3-6)で開催されるG空間 EXPO2014において、地理空間情報フォーラム2014を開催します。

G空間 EXPOは、地理空間情報の活用に関する新たな産業・サービスの創出や既存のサービスの高度化・発展に関する民間事業者等の提案及び創意工夫を掘り起こすとともに、一般への普及啓発を行うため、産学官が連携して開催します。今回は、平成22年、平成24年、平成25年に続く4回目、G空間 EXPO2014運営協議会が主催します。

「地理空間情報フォーラム」では、従来からの測量や計測という“測る”最先端技術を中核にして、地理空間情報の整備・構築から地理空間情報を用いて“調べる”、“計画する”といった利活用技術、さらには、その成果である三次元データや地図等の高度な表現技術を駆使した“見せる”、“伝える”といった情報サービス技術まで、広範な地理空間情報の世界を知っていただくために、企業・関連団体と学・官の連携による展示会や講演・シンポジウム、体験イベントなどを開催します。

加えて、「地理空間情報フォーラム」を通じ、多種多様な地理空間情報に関する最先端技術の動向やその提供、地理空間情報の利活用とそのためのノウハウ、さらには、地理空間情報分野を担う人材の交流や人材育成などに貢献いたします。

G空間 EXPO2014ならびに地理空間情報フォーラム2014の概要は、別紙のとおりです。

(問い合わせ先)
地理空間情報フォーラム事務局
公益社団法人 日本測量協会 〒112-0002 東京都文京区小石川1-3-4
会員業務センター 会員部長 小島 高武 電話 03-5684-3352

■プレスリリース（平成26年11月6日配信） 国土交通省

国土交通省  Press Release
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

国土地理院(配布先：筑波研究学園都市記者会)同時配布

平成26年11月6日
G空間 EXPO2014運営協議会

「G空間 EXPO2014ーニッポンの未来は、オモシロイ。ー」を開催

近年、地理空間情報の高度化等によりストレスフリーな社会と国土の利活用の高度化等、位置や時間に関連する情報(以下「G空間情報」という。)を活用した様々な技術やサービスが生まれています。

また、平成32(2020)年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定し、G空間情報を活用した新たな技術やサービスの登場が期待されています。

こうした状況の中、G空間情報は、わが国の最も重要な社会システム基盤のひとつとして位置づけられ、その利用の可能性と領域のさらなる広がりに強い期待が寄せられています。このG空間情報が広く活用される社会「G空間社会」(地理空間情報高度活用社会)の裾野を広げ、技術やサービスの創出や高度化を目的として、「G空間 EXPO2014」を産学官の連携で以下のとおり開催します。

- 名称：G空間 EXPO2014 Geospatial EXPO 2014 Japanーニッポンの未来は、オモシロイ。ー
- 会期：平成26年11月13日(木)、14日(金)、15日(土) 10:00～17:00
- 会場：日本科学未来館【東京都江東区青海2-3-6】
- 内容：広く一般の方々を対象に、地理空間情報(※1)に関する様々な分野の技術・製品・サービスが一堂に集まり、それら製品等の展示や体験イベントの実施、講演・シンポジウム等盛りだくさんな内容で行われます。

- 主催：G空間 EXPO2014運営協議会(※2)

■ 入場料：無料

■ URL：G空間 EXPO2014公式ウェブサイト <http://www.g-expo.jp/>

※1 「いつ」「どこ」といった位置や時間に関する情報を含む情報のことで、例えば、カーナビゲーションなど様々なところで使われています。

※2 産学官連携によりG空間 EXPOを企画し、その円滑な運営を図ることを目的に設置された組織です。国土交通省国土政策局及び国土地理院が事務局として運営にあたっています。

■ 開会式

- ・ 日 時：平成26年11月13日(木) 10:00～10:20
- ・ 会 場：G空間 EXPO2014会場 メインステージ
- ・ 内 容：主催者挨拶・テープカット等
- ・ 来 賓 等：国土交通省 西村副大臣
(予 定) 日本科学未来館 毛利館長
公益社団法人日本測量協会 村井会長 ほか、産・学・官の代表者 計7名

添付資料「G空間 EXPO2014」チラシ

同時配布
国土交通記者会
国土交通建設専門紙記者会
国土交通省交通運輸記者会

<問い合わせ先>

国土政策局 国土情報課 TEL.03-5253-8111(代) TEL.03-5253-8353(直通)
宮 元 地理空間情報活用推進官 (内 29-802)
小野寺 専門調査官 (内 29-863)
小 林 活用推進係長 (内 29-844)

■ ニュースリリース配信先

メディア種類	メディア名	部署名	会社名	配信
T V 番組	全国朝日放送 (テレビ朝日)	制作局	株式会社テレビ朝日	FAX
T V 番組	テレビ東京	制作局	株式会社テレビ東京	FAX
T V 番組	テレビ東京	ワールドビジネスサテライト	株式会社テレビ東京	FAX、メール
T V 番組	フジテレビジョン	報道情報本部 報道局	株式会社フジテレビジョン	FAX
T V 番組	TBS	報道局 経済部	株式会社TBSテレビ	FAX
T V 番組	TBS	取材センター	株式会社TBSテレビ	FAX
T V 番組	日本テレビ放送網	報道局	日本テレビ放送網株式会社	FAX
T V 番組	日本放送協会(大阪)	制作局	株式会社日本放送協会	FAX
T V 番組	放送センター	制作局	株式会社日本放送協会	FAX
雑誌	サンデー毎日	編集部	株式会社毎日新聞社	FAX、メール
雑誌	SAPIO	編集部	株式会社小学館	FAX
雑誌	Newsweek日本版	編集部	株式会社阪急コミュニケーションズ	FAX
雑誌	週刊朝日	編集部	株式会社朝日新聞社	FAX
雑誌	週刊プレイボーイ	編集部	株式会社集英社	FAX
雑誌	SPA!	編集部	株式会社扶桑社	FAX、メール
雑誌	週刊エコノミスト	編集部	株式会社毎日新聞社	FAX
雑誌	Goods Press	編集部	株式会社徳間書店	FAX
雑誌	DIME	編集部	株式会社小学館	FAX、メール
雑誌	一個人	編集部	株式会社ベストセラーズ	FAX
雑誌	Begin	編集部	株式会社世界文化社	FAX
雑誌	特選街	編集部	株式会社マキノ出版	FAX
雑誌	日経トレンディ	編集部	株式会社日経BP	FAX
雑誌	ビジネスチャンス	編集部	株式会社ビジネスチャンス	FAX
雑誌	THE21	編集部	株式会社P H P 研究所	FAX
雑誌	AERA	編集部	株式会社朝日新聞社	FAX、メール
雑誌	プレジデント	編集部	株式会社プレジデント社	FAX
雑誌	週刊東洋経済	編集部	株式会社東洋経済新報社	メール
雑誌	週刊ダイヤモンド	編集部	株式会社ダイヤモンド社	FAX
雑誌	日経ビジネス/日経ビジネスオンライン	編集部	株式会社日経BP	FAX、メール
雑誌	BIG tomorrow	編集部	株式会社青春出版社	FAX、メール
雑誌	日経マネー	編集部	株式会社日経BP	FAX
雑誌	日経ものづくり	編集部	株式会社日経BP	FAX
雑誌	日経PC21	編集部	株式会社日経BP	メール
雑誌	Mac Fan	編集部	株式会社マイナビ	FAX、メール
雑誌	日経パソコン	編集部	株式会社日経BP	メール
雑誌	日経コンピュータ	編集部	株式会社日経BP	FAX
雑誌	Get Navi	編集部	株式会社学研パブリッシング	FAX、メール
雑誌	国保実務	編集部	週刊製菓時報株式会社	メール
雑誌	日経ビジネスアソシエ	編集部	株式会社日経BP	メール
雑誌	日経グローバル	編集部	株式会社日経BP	FAX
雑誌	週刊アスキー	編集部	株式会社アスキー・メディアワークス	FAX
雑誌	デジモステーション	編集部	株式会社エムオン・エンタテインメント	メール
雑誌	Yen SPA!	編集部	株式会社扶桑社	メール
雑誌	COURRIER Japon(クーリエ・ジャポン)	編集部	株式会社講談社	FAX
雑誌	ビジネスコミュニケーション	編集部	株式会社ビジネスコミュニケーション社	メール
雑誌	週刊経済	編集部	株式会社地域情報センター(福岡)	FAX
雑誌	日経コミュニケーション	編集部	株式会社日経BP	メール
雑誌	ENGINE	編集部	株式会社新潮社	メール
雑誌	driver	編集部	株式会社八重洲出版	メール
雑誌	GIS NEXT	編集部	株式会社ネクストパブリッシング	メール
新聞	毎日新聞	生活報道部	株式会社毎日新聞社	FAX
新聞	毎日新聞	社会部	株式会社毎日新聞社	FAX、メール
新聞	毎日新聞	経済部	株式会社毎日新聞社	FAX、メール
新聞	毎日新聞	学芸部	株式会社毎日新聞社	FAX
新聞	日本経済新聞	消費産業部	株式会社日本経済新聞社	FAX
新聞	日本経済新聞	社会部	株式会社日本経済新聞社	FAX、メール
新聞	日本経済新聞	生活情報部	株式会社日本経済新聞社	FAX
新聞	日本経済新聞	産業部	株式会社日本経済新聞社	FAX
新聞	産経新聞	経済部	株式会社産業経済新聞社	FAX
新聞	産経新聞	文化部	株式会社産業経済新聞社	FAX、メール
新聞	産経新聞	社会部	株式会社産業経済新聞社	FAX

■ ニュースリリース配信先

メディア種類	メディア名	部署名	会社名	配信
新聞	読売新聞	経済部	株式会社読売新聞社	メール
新聞	読売新聞	社会部	株式会社読売新聞社	FAX、メール
新聞	読売新聞	科学部	株式会社読売新聞社	メール
新聞	読売新聞	生活情報部	株式会社読売新聞社	FAX
新聞	朝日新聞	経済部	株式会社朝日新聞社	FAX
新聞	朝日新聞	社会部	株式会社朝日新聞社	FAX
新聞	朝日新聞	文化くらし報道部	株式会社朝日新聞社	FAX
新聞	朝日新聞	広報部	株式会社朝日新聞社	FAX
新聞	東京中日スポーツ	報道部	株式会社中日新聞社	FAX、メール
新聞	東京スポーツ	文化社会部	株式会社東京スポーツ新聞社	FAX、メール
新聞	デイリースポーツ	報道部	神戸新聞社	FAX、メール
新聞	サンケイスポーツ	文化報道部	株式会社産経デジタル	メール
新聞	スポーツ報知	文化部	株式会社報知新聞社	FAX、メール
新聞	日刊ゲンダイ	編集局	株式会社日刊現代	FAX、メール
新聞	日刊スポーツ	文化社会部	株式会社日刊スポーツ新聞社	FAX、メール
新聞	夕刊フジ	編集局	株式会社産業経済新聞社	FAX、メール
新聞	スポーツニッポン	文化社会部	株式会社スポーツニッポン新聞社	FAX、メール
新聞	千葉日報	編集局	株式会社千葉日报社	FAX、メール
新聞	千葉日報	東京支社 編集局	株式会社千葉日报社	FAX、メール
新聞	東京新聞	東京支社 経済部	株式会社中日新聞社	FAX、メール
新聞	東京新聞	東京支社 社会部	株式会社中日新聞社	FAX、メール
新聞	上毛新聞	編集局	株式会社上毛新聞社	FAX、メール
新聞	上毛新聞	東京支社 編集局	株式会社上毛新聞社	メール
新聞	下野新聞	編集局	株式会社下野新聞社	FAX
新聞	下野新聞	メディア報道部	株式会社下野新聞社	メール
新聞	下野新聞	社会部	株式会社下野新聞社	メール
新聞	茨城新聞	東京支社 編集局	株式会社茨城新聞社	FAX、メール
新聞	茨城新聞	編集局	株式会社茨城新聞社	FAX、メール
新聞	神奈川新聞	編集局	株式会社神奈川新聞社	FAX
新聞	埼玉新聞	編集局	株式会社埼玉新聞社	FAX、メール
新聞	埼玉新聞	東京支社 編集局	株式会社埼玉新聞社	FAX、メール
新聞	山梨日日新聞	東京支社 編集局	株式会社山梨日日新聞社	FAX
新聞	山梨日日新聞	編集局	株式会社山梨日日新聞社	FAX、メール
新聞	日経MJ	編集局	株式会社日本経済新聞社	FAX
新聞	フジサンケイビジネスアイ	経済産業部	株式会社日本工業新聞社	FAX、メール
新聞	日経産業新聞	編集局	株式会社日本経済新聞社	メール
新聞	日刊工業新聞	中小企業部	株式会社日刊工業新聞社	メール
新聞	日経ヴェリタス	編集局	株式会社日本経済新聞社	メール
新聞	週刊BCN	編集局	株式会社BCN	FAX、メール
新聞	科学新聞	編集局	株式会社科学新聞社	FAX
新聞	日本情報産業新聞	編集局	株式会社情報産業新聞社	FAX、メール
新聞	通信興業新聞	編集局	株式会社通信興業新聞	FAX
新聞	新商品情報	編集局	株式会社日刊工業新聞社	FAX
新聞	商経機械新聞	編集局	株式会社商工機械新聞社	FAX
新聞	SANKEI EXPRESS	編集局	株式会社産業経済新聞社	FAX
新聞	日刊工業新聞（大阪）	編集局	株式会社日刊工業新聞社	FAX
新聞	朝日新聞グループ	編集部	株式会社朝日新聞社	メール
インターネット サイト	朝日新聞デジタル	編集部	株式会社朝日新聞社	メール
インターネット サイト	YOMIURI ONLINE	編集部	株式会社読売新聞社	FAX
インターネット サイト	毎日jp	編集部	株式会社毎日新聞社	FAX、メール
インターネット サイト	PC Watch	編集部	株式会社インプレス	メール
インターネット サイト	RBB TODAY	編集部	株式会社イード	FAX、メール
インターネット サイト	ITmedia	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	IT pro	編集部	株式会社日経BP	メール

■ ニュースリリース配信先

メディア種類	メディア名	部署名	会社名	配信
インターネット サイト	INTERNET Watch	編集部	株式会社インプレス	メール
インターネット サイト	CNET JAPAN	編集部	朝日インタラクティブ株式会社	FAX、メール
インターネット サイト	ASCII.jp	編集部	株式会社KADOKAWA	メール
インターネット サイト	@IT	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	ThinkIT	編集部	株式会社インプレス	FAX、メール
インターネット サイト	ケータイ Watch	編集部	株式会社インプレス	メール
インターネット サイト	Tech-On!	編集部	株式会社日経BP	メール
インターネット サイト	BCN Bizline	編集部	株式会社BCN	FAX、メール
インターネット サイト	ZDNet Japan	編集部	朝日インタラクティブ株式会社	FAX、メール
インターネット サイト	IBTimes	編集部	株式会社財経新聞社	メール
インターネット サイト	Japan.Interenet.com	編集部	インターネットコム株式会社	メール
インターネット サイト	nikkei TRENDYnet	編集部	株式会社日経BP	FAX、メール
インターネット サイト	nature asia-pacific	編集部	ネイチャー・ジャパン株式会社	メール
インターネット サイト	Newton press web	編集部	株式会社ニュートンプレス	FAX、メール
インターネット サイト	GIZMODO JAPAN	編集部	株式会社メディアジーン	FAX、メール
インターネット サイト	nikkei BPnet(日経BPネット)	編集部	株式会社日経BP	メール
インターネット サイト	時事ドットコム	時事ドットコム編集部	株式会社時事通信社	FAX
インターネット サイト	ZAKZAK	産経デジタル メディア部	株式会社産経デジタル	メール
インターネット サイト	ライター	編集部	ライター・ジャパン株式会社	FAX
インターネット サイト	マイナビニュース	編集部	株式会社マイナビ	FAX、メール
インターネット サイト	gihyo.jp	編集部	株式会社技術評論社	メール
インターネット サイト	Business Media 誠	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	SourceForge.JP	編集部	OSDN株式会社	メール
インターネット サイト	Selectbox	編集部	株式会社翔泳社	メール
インターネット サイト	アメバニュース	編集部	株式会社サイバーエージェント	メール
インターネット サイト	iza:イザ!	編集部	株式会社産経デジタル	メール
インターネット サイト	ONLINE デジモステーション	デジモステーション編集部	ソニーマガジズ株式会社	メール
インターネット サイト	J-CASTニュース	編集部	株式会社ジェイ・キャスト	メール
インターネット サイト	computerworld.jp	編集部	株式会社IDGジャパン	メール
インターネット サイト	CIO Online	編集部	株式会社IDGジャパン	メール
インターネット サイト	SankeiBiz	SankeiBiz編集部	株式会社産経デジタル	メール

■ ニュースリリース配信先

メディア種類	メディア名	部署名	会社名	配信
インターネット サイト	47NEWS	編集部	Press Net Japan (PNJ)	メール
インターネット サイト	はてなニュース	編集部	株式会社はてな	メール
インターネット サイト	デジタルガジェット新聞	編集部	グローバルソリューション合同会社	メール
インターネット サイト	日刊工業新聞Business Line	編集部	株式会社日刊工業新聞社	メール
インターネット サイト	日報ビジネス	編集部	南十字星エフエム日報ビジネス	メール
インターネット サイト	西日本新聞	編集部	株式会社西日本新聞社	メール
インターネット サイト	河北新報	編集部	株式会社河北新報社	メール
インターネット サイト	琉球新報	編集部	株式会社琉球新報社	メール
インターネット サイト	茨城新聞ニュース	編集部	株式会社茨城新聞社	メール
インターネット サイト	北日本新聞	編集部	株式会社北日本新聞社	メール
インターネット サイト	中日新聞	編集部	株式会社中日新聞社	メール
インターネット サイト	TOKYO WEB	社会部	株式会社中日新聞社	メール
インターネット サイト	TOKYO WEB	経済部	株式会社中日新聞社	メール
インターネット サイト	上毛新聞ニュース	編集部	株式会社上毛新聞社	メール
インターネット サイト	下野新聞「SOON」	社会部	株式会社下野新聞社	メール
インターネット サイト	下野新聞「SOON」	政経部	株式会社下野新聞社	メール
インターネット サイト	日刊自動車新聞	編集部	株式会社日刊自動車新聞社	メール
インターネット サイト	東洋経済オンライン	編集部	東洋経済新報社	メール
インターネット サイト	ダイヤモンド・オンライン	編集部	株式会社ダイヤモンド社	FAX
インターネット サイト	Itmedia Mobile	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	TechTarget	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	ガジェット通信	編集部	東京産業新聞社	メール
インターネット サイト	MONOist	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	BusinessItem通信	編集部	ドリームイノベーションLLP	メール
インターネット サイト	産経ニュース	産経デジタル メディア部	株式会社産経デジタル	メール
インターネット サイト	Newsweek日本版	編集部	株式会社阪急コミュニケーションズ	FAX
インターネット サイト	ITmediaガジェット	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	ITmedia ニュース	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	誠 Biz.ID	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	ITmedia LifeStyle	編集部	アイティメディア株式会社	メール
インターネット サイト	日刊SPA!	編集部	株式会社扶桑社	メール

■ ニュースリリース配信先

メディア種類	メディア名	部署名	会社名	配信
インターネット サイト	sanspo.com	編集部	株式会社産経デジタル	メール
インターネット サイト	日刊ゲンダイ	編集部	株式会社日刊現代	メール
インターネット サイト	nikkansports.com	編集部	株式会社日刊スポーツ新聞社	メール
インターネット サイト	週アスPLUS	編集部	株式会社KADOKAWA	メール
インターネット サイト	Smart IT Magazine	編集部	株式会社リファイド	メール
インターネット サイト	spotlight	編集部	グローバルソリューション合同会社	メール
インターネット サイト	経済情報ニュース	編集部	グローバルソリューション合同会社	メール
インターネット サイト	チェックーズ!	編集部	ニュースメディアネットワーク株式会社	メール
インターネット サイト	産業連携ニュース	編集部	株式会社デトネイター	メール
インターネット サイト	FineNews Today	編集部	株式会社エムエーピープラス	メール
インターネット サイト	メカニカル・テック	編集部	メカニカル・テック社	メール
インターネット サイト	ニコニコニュース	編集部	株式会社ニワンゴ	メール
インターネット サイト	All About Pro File	編集部	株式会社オールアバウトエンファクトリー	FAX
インターネット サイト	WIRED.jp	編集部	コンデナスト・ジャパン	メール
インターネット サイト	ITmedia マーケティング	編集部	アイティメディア株式会社	メール
通信社	共同通信	経済部	社団法人共同通信社	FAX
通信社	共同通信	社会部	社団法人共同通信社	FAX
通信社	時事通信	産業部	株式会社時事通信社	FAX
通信社	時事通信	社会部	株式会社時事通信社	FAX
通信社	ロイター通信	編集部	ロイター・ジャパン株式会社	FAX
通信社	時事通信フォト	編集部	時事通信フォト	メール

合計：189媒体

■ Web露出 / イベント開催前 : 10月

NO	サイト名	媒体社名	日付	記事URL
1	PR TIMES	株式会社PR TIMES	2014/10/30	http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000008538.html
2	Techable	株式会社マッシュメディア	2014/10/30	http://teachable.jp/archives/000000002.000008538
3	ストレートプレス	株式会社マッシュメディア	2014/10/30	http://straightpress.jp/company_news/detail?pr=000000002.000008538
4	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/10/30	http://www.excite.co.jp/News/release/20141030/Prtimes_2014-10-30-8538-2.html
5	東洋経済 ONLINE	株式会社東洋経済新報社	2014/10/30	http://toyokeizai.net/ud/pressrelease/5451c9b4b31ac9235d00000d
6	産経ニュース	株式会社産経デジタル	2014/10/30	http://www.sankei.com/economy/news/141030/pr1410300087-n1.html
7	おたくま経済新聞	C.S.T Entertainment, Inc.	2014/10/30	http://otakei.otakuma.net/archives/prtimes/000000002-000008538
8	iza:イザ!	株式会社産経デジタル	2014/10/30	http://www.iza.ne.jp/kiji/pressrelease/news/141030/pr14103014040089-n1.html
9	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/10/30	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CPRT201428808.html?iref=andM_kijilist
10	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/10/30	http://www.excite.co.jp/News/release/Prtimes_2014-10-30-8538-2.html
11	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/10/30	http://news.livedoor.com/article/detail/9415189/
12	RBBTODAY	株式会社イード	2014/10/30	http://www.rbbtoday.com/release/prtimes-news/20141030/83922.html
13	とれまが	株式会社サイトスコープ	2014/10/30	http://news.toremaga.com/release/others/617712.html
14	@niftyビジネス	ニフティ株式会社	2014/10/30	http://business.nifty.com/cs/catalog/business_release/catalog_prt00000000200008538_1.htm
15	Business Media 誠	アイタイムメディア株式会社	2014/10/30	http://release.itmedia.co.jp/release/mk/2014/10/30/20c6d525538b515012cb3c29d8470856.html
16	Bizloopサーチ	株式会社アイエフネット	2014/10/30	http://www.bizloop.jp/release/PR000000002_000008538/
17	SEOTOOLS	プラストホールディングス株式会社	2014/10/30	http://www.seotools.jp/news/id_000000002.000008538.html
18	gooビジネスEX	エヌ・ティ・ティ・レゾナント株式会社	2014/10/30	http://bizex.goo.ne.jp/release/detail/702940/
19	現代ビジネス	株式会社講談社	2014/10/30	http://gendai.ismedia.jp/ud/pressrelease/5451c9d8b31ac925d200000d
20	CNET JAPAN	朝日インタラクティブ株式会社	2014/10/30	http://japan.cnet.com/release/30085050/
21	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/10/30	http://internetcom.jp/release/852404.html
22	財経新聞	株式会社財経新聞社	2014/10/30	http://www.zaikei.co.jp/releases/206387/
23	産経関西	産経新聞大阪本社	2014/10/30	http://www.sankei-kansai.com/press/post.php?basename=000000002.000008538.html
24	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/10/30	http://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000002A000008538
25	BIGLOBEニュース	NECビッグロブ株式会社	2014/10/30	http://news.biglobe.ne.jp/economy/1030/prt_141030_1701446343.html
26	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/10/30	http://www.mapion.co.jp/news/release/000000002.000008538-all/
27	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/10/30	http://www.mapion.co.jp/news/release/000000002.000008538/
28	時事トットコム	株式会社時事通信社	2014/10/30	http://www.jiji.com/jc/prt/prt?k=000000002.000008538
29	IBTimes	International Business Times社	2014/10/30	http://jp.ibtimes.com/press/article/293576/
30	media jam	株式会社ミツエーリンクス	2014/10/30	http://mediajam.info/topic/414666
31	YOMIURI ONLINE	株式会社読売新聞社	2014/10/30	http://www.yomiuri.co.jp/adv/enterprises/release/detail/00102182.html
32	DIAMOND ONLINE	株式会社ダイヤモンド社	2014/10/30	http://diamond.jp/ud/pressrelease/5451c997b31ac91e8900000d
33	徳島新聞Web	株式会社徳島新聞社	2014/10/30	http://www.topics.or.jp/press/news/2014/10/PRtimes000000002.000008538.html
34	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/10/30	http://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000002_000008538
35	@DIME	株式会社小学館	2014/10/30	http://dime.jp/company_news/detail/?pr=77198
36	INTERNET Watch	株式会社Impress Watch	2014/10/31	http://internet.watch.impress.co.jp/docs/release/20141031_673974.html

■ Web露出 / イベント開催前 : 11月

NO	サイト名	媒体社名	日付	記事URL
1	ジョブサーチ (YOMIURI ONLINE)	株式会社読売新聞社	2014/11/05	http://www.yomiuri.co.jp/adv/job/release/detail/00013564.html
2	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/11/05	http://internetcom.jp/release/857637.html
3	財經新聞	株式会社財經新聞社	2014/11/05	http://www.zaikei.co.jp/releases/207779/
4	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/05	http://www.excite.co.jp/News/release/Atpress_53157.html
5	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/05	http://www.mapion.co.jp/news/release/ap53157-all/
6	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/05	http://www.mapion.co.jp/news/release/ap53157/
7	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/11/05	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CATP20143157.html?ref=andM_kijilist
8	EnterpriseZine	株式会社翔泳社	2014/11/05	http://enterprisezine.jp/release/detail/44255
9	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/05	http://news.infoseek.co.jp/article/atpress_53157
10	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/11/06	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CATP20143421.html?ref=andM_kijilist
11	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/11/06	http://internetcom.jp/release/858446.html
12	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/06	http://www.excite.co.jp/News/release/Atpress_53421.html
13	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/06	http://www.mapion.co.jp/news/release/ap53421-all/
14	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/06	http://www.mapion.co.jp/news/release/ap53421/
15	IBTimes	International Business Times社	2014/11/06	http://jp.ibtimes.com/press/article/295405/
16	財經新聞	株式会社財經新聞社	2014/11/06	http://www.zaikei.co.jp/releases/207963/
17	SourceForge.JP	OSDN株式会社	2014/11/06	http://sourceforge.jp/magazine/pr/14/11/06/100001
18	EnterpriseZine	株式会社翔泳社	2014/11/06	http://enterprisezine.jp/release/detail/44303
19	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/06	http://news.infoseek.co.jp/article/atpress_53421
20	産経ニュース	株式会社産経デジタル	2014/11/10	http://www.sankei.com/economy/news/141110/pr1411100163-n1.html
21	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/10	http://www.excite.co.jp/News/release/20141110/Prtimes_2014-11-10-8538-5.html
22	東洋経済 ONLINE	株式会社東洋経済新報社	2014/11/10	http://toyokeizai.net/ud/pressrelease/5460908ab31ac95d4d00000a
23	iza:イザ!	株式会社産経デジタル	2014/11/10	http://www.iza.ne.jp/kiji/pressrelease/news/141110/pr14111018380162-n1.html
24	ストレートプレス	株式会社マッシュメディア	2014/11/10	http://straightpress.jp/company_news/detail?pr=000000005_000008538
25	JBpress	株式会社日本ビジネスプレス	2014/11/10	http://fbpress.ismedia.jp/ud/pressrelease/54609034b31ac9550100000a
26	Hot Mama Town by SAKURA	株式会社小学館	2014/11/10	http://sakuramama.jp/2014/11/10/p-83543
27	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/11/10	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CPRT201430126.html?ref=andM_kijilist
28	とれまが	株式会社サイトスコープ	2014/11/10	http://news.toremaga.com/release/others/621006.html
29	財經新聞	株式会社財經新聞社	2014/11/10	http://www.zaikei.co.jp/releases/208986/
30	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/10	http://www.excite.co.jp/News/release/Prtimes_2014-11-10-8538-5.html
31	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/10	http://news.livedoor.com/article/detail/9452634/
32	BIGLOBEニュース	NECビッグロブ株式会社	2014/11/10	http://news.biglobe.ne.jp/economy/1110/prt_141110_3707293765.html
33	Bizloopサーチ	株式会社アイエフネット	2014/11/10	http://www.bizloop.jp/release/PR000000005_000008538/
34	@niftyビジネス	ニフティ株式会社	2014/11/10	http://business.nifty.com/cs/catalog/business_release/catalog prt00000000500008538_1.htm
35	リセマム	株式会社イード	2014/11/10	http://resemom.jp/release/prtimes/20141110/7879.html
36	FreshEye	株式会社ニューズウォッチ	2014/11/10	http://news.fresheye.com/article/fenwnews2/1000003/20141110183151_pr_r000000005-000008538/index.html
37	Business Media 誠	アイティメディア株式会社	2014/11/10	http://release.itmedia.co.jp/release/mk/2014/11/10/6ad1cc37c2cdb59929a966f2561b35d9.html
38	PRESIDENT Online	株式会社 プレジデント社	2014/11/10	http://president.jp/ud/pressrelease/54609035b31ac9552600000a
39	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/10	http://www.mapion.co.jp/news/release/000000005.000008538-all/
40	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/10	http://www.mapion.co.jp/news/release/000000005.000008538/
41	現代ビジネス	株式会社講談社	2014/11/10	http://gendai.ismedia.jp/ud/pressrelease/546090a9b31ac9606400000a
42	産経関西	産経新聞大阪本社	2014/11/10	http://www.sankei-kansai.com/press/post.php?basename=000000005_000008538.html
43	gooビジネスEX	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/10	http://bizex.goo.ne.jp/release/detail/706265/
44	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/11/10	http://news.jordan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000005A000008538
45	時事ドットコム	株式会社時事通信社	2014/11/10	http://www.jiji.com/jc/prt/prt?k=000000005.000008538
46	IBTimes	International Business Times社	2014/11/10	http://jp.ibtimes.com/press/article/296560/
47	SEOTOOLS	フラストホールディングス株式会社	2014/11/10	http://www.seotools.jp/news/id_000000005.000008538.html
48	DIAMOND ONLINE	株式会社ダイヤモンド社	2014/11/10	http://diamond.jp/ud/pressrelease/54609067b31ac9587a00000a
49	徳島新聞Web	株式会社徳島新聞社	2014/11/10	http://www.topics.or.jp/press/news/2014/11/Prtimes000000005.000008538.html
50	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/10	http://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_000000005_000008538
51	@DIME	株式会社小学館	2014/11/10	http://dime.jp/company_news/detail?pr=78488
52	PR TIMES	株式会社PR TIMES	2014/11/10	http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000005.000008538.html

■ Web露出 / イベント開催前 : 11月

53	YOMIURI ONLINE	株式会社読売新聞社	2014/11/11	http://www.yomiuri.co.jp/adv/enterprises/release/detail/00103317.html
54	SEOTOOLS	プラストホールディングス株式会社	2014/11/11	http://www.seotools.jp/news/id_00000095.000005644.html
55	BIGLOBEニュース	NECビッグロブ株式会社	2014/11/11	http://news.biglobe.ne.jp/economy/1111/prt_141111_3250445837.html
56	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/11/11	http://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PT000095A000005644
57	Techable	株式会社マッシュメディア	2014/11/11	http://techable.jp/archives/00000095.000005644
58	ストレートプレス	株式会社マッシュメディア	2014/11/11	http://straightpress.jp/company_news/detail?pr=00000095.000005644
59	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/11	http://www.excite.co.jp/News/release/20141111/Primes_2014-11-11-5644-95.html
60	産経ニュース	株式会社産経デジタル	2014/11/11	http://www.sankei.com/economy/news/141111/pr14111110053-n1.html
61	東洋経済 ONLINE	株式会社東洋経済新報社	2014/11/11	http://toyokeizai.net/ud/pressrelease/54618d96b31ac97b4000009
62	iza:イザ!	株式会社産経デジタル	2014/11/11	http://www.iza.ne.jp/kiji/pressrelease/news/141111/pr14111112400053-n1.html
63	JBpress	株式会社日本ビジネスプレス	2014/11/11	http://jbpres.ismedia.jp/ud/pressrelease/54618d54b31ac9740800009
64	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/11/11	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/CPRT201430194.html?ref=andM_kijilist
65	とれまが	株式会社サイトスコープ	2014/11/11	http://news.toremaga.com/computer/business/621235.html
66	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/11	http://news.livedoor.com/article/detail/9455241/
67	gooビジネスEX	エヌ・ティ・テレソナント株式会社	2014/11/11	http://bizex.goo.ne.jp/release/detail/706496/
68	IBTimes	International Business Times社	2014/11/11	http://jp.ibtimes.com/press/article/296759/
69	Bizloopサーチ	株式会社アイフネット	2014/11/11	http://www.bizloop.jp/release/PR000000095_000005644/
70	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/11	http://www.excite.co.jp/News/release/Primes_2014-11-11-5644-95.html
71	@niftyビジネス	ニフティ株式会社	2014/11/11	http://business.nifty.com/cs/catalog/business_release/catalog_prt0000009500005644_1.htm
72	Business Media 誠	アイティメディア株式会社	2014/11/11	http://release.itmedia.co.jp/release/mk/2014/11/11/41b06e81f7ff653b15038b014568b3f5.html
73	PRESIDENT Online	株式会社 プレジデント社	2014/11/11	http://president.jp/ud/pressrelease/54618d53b31ac9738000009
74	Mapionニュース	株式会社マピオン	2014/11/11	http://www.mapion.co.jp/news/release/000000095.000005644-all/
75	現代ビジネス	株式会社講談社	2014/11/11	http://gendai.ismedia.jp/ud/pressrelease/54618dcab31ac97f6800009
76	産経関西	産経新聞大阪本社	2014/11/11	http://www.sankei-kansai.com/press/post.php?basename=00000095.000005644.html
77	RBBTODAY	株式会社イード	2014/11/11	http://www.rbbtoday.com/release/prtimes-news/20141111/85117.html
78	CNET JAPAN	朝日インタラクティブ株式会社	2014/11/11	http://japan.cnet.com/release/30086037/
79	ZDNet Japan	朝日インタラクティブ株式会社	2014/11/11	http://japan.zdnet.com/release/30086037/
80	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/11/11	http://internetcom.jp/release/863589.html
81	財経新聞	株式会社財経新聞社	2014/11/11	http://www.zaikei.co.jp/releases/209162/
82	時事ドットコム	株式会社時事通信社	2014/11/11	http://www.jiji.com/jc/prt/prt?k=00000095.000005644
83	EnterpriseZine	株式会社翔泳社	2014/11/11	http://enterprisezine.jp/release/detail/44577
84	YOMIURI ONLINE	株式会社読売新聞社	2014/11/11	http://www.yomiuri.co.jp/adv/enterprises/release/detail/00103399.html
85	DIAMOND ONLINE	株式会社ダイヤモンド社	2014/11/11	http://diamond.jp/ud/pressrelease/54618d87b31ac97789000009
86	徳島新聞Web	株式会社徳島新聞社	2014/11/11	http://www.topics.or.jp/press/news/2014/11/Primes00000095.000005644.html
87	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/11	http://news.infoseek.co.jp/article/prtimes_00000095_000005644
88	@DIME	株式会社小学館	2014/11/11	http://dime.jp/company_news/detail/?pr=78569
89	PR TIMES	株式会社PR TIMES	2014/11/11	http://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000095.000005644.html
90	dot.	株式会社朝日新聞出版	2014/11/11	http://dot.asahi.com/business/pressrelease/2014111100023.html
91	AFPBB	株式会社ウエイティヴ・リンク	2014/11/11	http://www.afpbb.com/articles/-/3031418
92	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/11/11	http://internetcom.jp/release/863522.html
93	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/11	http://www.excite.co.jp/News/release/Kyodo_prw_201411065326.html
94	CNET JAPAN	朝日インタラクティブ株式会社	2014/11/11	http://japan.cnet.com/release/30086005/
95	朝日新聞デジタル	株式会社朝日新聞社	2014/11/11	http://www.asahi.com/and_M/information/pressrelease/Ckprw201411065326.html?ref=andM_kijilist
96	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/11/11	http://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=PW201411065326
97	ZDNet Japan	朝日インタラクティブ株式会社	2014/11/11	http://japan.zdnet.com/release/30086005/
98	共同通信社	株式会社共同通信社	2014/11/11	http://www.kyodo.co.jp/pr/2014-11-11_1166828/
99	徳島新聞Web	株式会社徳島新聞社	2014/11/11	http://www.topics.or.jp/press/news/2014/11/Prwire201411065326.html
100	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/11	http://news.infoseek.co.jp/article/kyodopr201411065326
101	東京バーゲンマニア	株式会社ジェイ・キャスト	2014/11/11	http://bg-mania.jp/other/a02_prwire/2014/11/11121062.html
102	gooニュース	エヌ・ティ・テレソナント株式会社	2014/11/11	http://news.goo.ne.jp/article/mycom/life/mycom_1075634.html
103	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/11	http://www.excite.co.jp/News/column_g/20141111/Cobs_075634.html
104	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/11	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141111-0000072-mycomj-sci
105	マイナビニュース	株式会社マイナビ	2014/11/11	http://news.mynavi.jp/news/2014/11/11/215/
106	BIGLOBEニュース	NECビッグロブ株式会社	2014/11/11	http://news.biglobe.ne.jp/it/1111/mnn_141111_7256744203.html
107	@niftyニュース	ニフティ株式会社	2014/11/11	http://news.nifty.com/cs/technology/internetdetail/mycom-20141111-20141111101/1.htm
108	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/11	http://news.livedoor.com/article/detail/9455053/
109	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/11/11	http://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=MV20141111_1075634
110	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/11	http://news.infoseek.co.jp/article/mynavi_1075634

■ Web露出 / イベント開催前 : 11月

111	japan.internet.com	インターネットコム株式会社	2014/11/11	http://internetcom.jp/release/863639.html
112	IBTimes	International Business Times社	2014/11/11	http://jp.ibtimes.com/press/article/296782/
113	CNET JAPAN	朝日インタラクティブ株式会社	2014/11/11	http://japan.cnet.com/release/30086051/
114	財経新聞	株式会社財経新聞社	2014/11/11	http://www.zaikei.co.jp/releases/209192/
115	マネボケ F X クチコミコミュニティ	ごりっち株式会社	2014/11/11	http://fx.manepoke.jp/press/press_13017.html
116	EnterpriseZine	株式会社翔泳社	2014/11/11	http://enterprisezine.jp/release/detail/44584
117	クラウド Watch	株式会社Impress Watch	2014/11/11	http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/news/20141111_675409.html
118	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/11	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141111-00000035-impress-sci
119	exciteニュース	エキサイト株式会社	2014/11/11	http://www.excite.co.jp/News/column_g/20141111/Cobs_075471.html
120	gooニュース	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/11	http://news.goo.ne.jp/article/mycom/bizskills/offices/mycom_1075471.html
121	マイナビニュース	株式会社マイナビ	2014/11/11	http://news.mynavi.jp/news/2014/11/11/139/
122	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/11	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141111-00000050-mycomj-sci
123	@niftyニュース	ニフティ株式会社	2014/11/11	http://news.nifty.com/cs/technology/techalldetail/mycom-20141111-20141111074/1.htm
124	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/11	http://news.livedoor.com/article/detail/9454599/
125	gooビジネスEX	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/11	http://bizex.goo.ne.jp/news/bizskills/offices/mycom_1075471/
126	ニコニコニュース	株式会社ニワンゴ	2014/11/11	http://news.nicovideo.jp/watch/nw1315962?news_ref=top_latest_bus
127	ジョルダンニュース!	ジョルダン株式会社	2014/11/11	http://news.jorudan.co.jp/docs/news/detail.cgi?newsid=MV20141111_1075471
128	media jam	株式会社ミツエーリンクス	2014/11/11	http://mediajam.info/topic/427180
129	Infoseekニュース	楽天株式会社	2014/11/11	http://news.infoseek.co.jp/article/mynavi_1075471
130	Work Master	株式会社マッシュメディア	2014/11/12	http://www.work-master.net/201405156

■ 新聞露出 / イベント開催前

NO	新聞名	日付
1	東京IT新聞	2014/10/28
2	高知新聞	2014/10/30
3	日刊建設産業新聞	2014/11/10
4	日刊建設工業新聞	2014/11/10
5	建設通信新聞	2014/11/10
6	日刊建設工業新聞	2014/11/11
7	建設通信新聞	2014/11/12

■ 雑誌露出 / イベント開催前

NO	新聞名	日付
1	GIS NEXT 第49号	2014/10月
2	科学雑誌 Newton	2014/10/25日発行
3	月刊『測量』	2014/11月号
4	月刊B-maga	2014/11月号
5	週刊アスキー No.1003	2014/11/4

■ Web露出 / イベント開催中及び事後告知

1	ニコニコニュース	株式会社ニワンゴ	2014/11/13	http://news.nicovideo.jp/watch/nw1319089
2	週アスPLUS	株式会社株式会社KADOKAWA	2014/11/13	http://weekly.ascii.jp/elem/000/000/273/273772/
3	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/14	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141114-00000015-rps-ind
4	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/14	http://news.livedoor.com/article/detail/9467459/
5	goo自動車&バイク	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/14	http://autos.goo.ne.jp/news/newcar/237339/article.html
6	gooニュース	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/14	http://news.goo.ne.jp/article/internet_watch/trend/internet_watch-676074.html
7	INTERNET Watch	株式会社Impress Watch	2014/11/14	http://internet.watch.impress.co.jp/docs/event/20141114_676074.html
8	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/14	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141114-00000057-impress-sci
9	INSIDE	株式会社イード	2014/11/15	http://www.inside-games.jp/article/2014/11/15/82585.html
10	gooニュース	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/17	http://news.goo.ne.jp/article/internet_watch/trend/internet_watch-676346.html
11	INTERNET Watch	株式会社Impress Watch	2014/11/17	http://internet.watch.impress.co.jp/docs/event/20141117_676346.html
12	Yahoo!ニュース	ヤフー株式会社	2014/11/17	http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20141117-00000035-impress-sci
13	Carview	株式会社カービュー・ヤフー株式会社	2014/11/18	http://carview.yahoo.co.jp/news/market/20141118-10214195-carview/
14	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/18	http://news.livedoor.com/article/detail/9482675/
15	livedoor NEWS	LINE株式会社	2014/11/18	http://news.livedoor.com/article/detail/9479434/
16	マイナビニュース	株式会社マイナビ	2014/11/18	http://news.mynavi.jp/news/2014/11/18/250/
17	INSIDE	株式会社イード	2014/11/18	http://www.inside-games.jp/article/2014/11/18/82651.html
18	gooニュース	エヌ・ティ・ティ レゾナント株式会社	2014/11/20	http://news.goo.ne.jp/article/internet_watch/trend/internet_watch-676906.html
19	INTERNET Watch	株式会社Impress Watch	2014/11/20	http://internet.watch.impress.co.jp/docs/column/chizu/20141120_676906.html

■ 新聞露出 / イベント開催中及び事後告知

NO	新聞名	日付
1	建設通信新聞	2014/11/14
2	日刊建設産業新聞	2014/11/14
3	日刊建設工業新聞	2014/11/14
4	建通新聞東京	2014/11/14
5	沖縄タイムス	2014/11/27
6	半導体産業新聞	2014/12/10

■ 新聞露出 / イベント開催中及び事後告知

NO	新聞名	日付
1	月刊B-maga	2014/12月号

■ TV露出

ニュースアンサー (No.1003 / 2014年11月13日)





付録-1

ご来場者様 アンケート



本日は、G空間EXPO2014にご来場いただき、ありがとうございました。
 今後の開催プログラムの検討等のため、アンケートにご協力のほどお願い申し上げます。
 結果は統計的に処理し、目的以外に利用することはありません。アンケートにご協力いただいた方には、粗品を差し上げます。

G空間EXPO2014 運営協議会

下記各欄の該当する□に✓を入れてください。

Q1 参加された日時を教えてください。(複数回答可)

11/13(木) 11/14(金) 11/15(土)

Q2 どのイベントに参加されたのか教えてください。(複数回答可)

メッセージゾーン Geoアクティビティフェスタ 講演・シンポジウム
 地理空間情報フォーラム Geoエデュケーションプログラム

Q3 どのような目的で参加されたのか教えてください。

情報収集 技術動向の調査 今後の勉強のため 趣味等の活動
 常設展を見たついでに立ち寄った 何となく その他()

Q4 G空間EXPO2014のプログラムの内容や会場はいかがでしたか。

①プログラムの内容全般について
 とても満足 どちらかというと満足 どちらかというと不満 とても不満 わからない

②会場のアクセス・快適性等について
 とても満足 どちらかというと満足 どちらかというと不満 とても不満 わからない

Q5 「G空間社会」とはどんな社会か、ご理解いただけましたでしょうか。

よく理解できた 少し理解できた まだ、よく理解できない 全く理解できない

Q6 今後、G空間EXPOやそれに類するイベントに参加してみたいですか。

ぜひ参加したい 都合があれば参加したい どちらともいえない あまり参加したくない 全く参加したくない

裏面にもアンケートがございます。

Q1.参加された日時を教えてください。(複数回答可)

11/13 (木)	11/14 (金)	11/15 (土)	合計
249	265	245	759

Q2.どのイベントに参加されたのか教えてください。(複数回答可)

(13日)

G空間EXPO メッセージゾーン	Geo アクティビティフェスタ	講演・ シンポジウム	地理空間情報フォー ラム	Geo エデュケーション プログラム	NA	合計
118	59	57	94	13	33	374

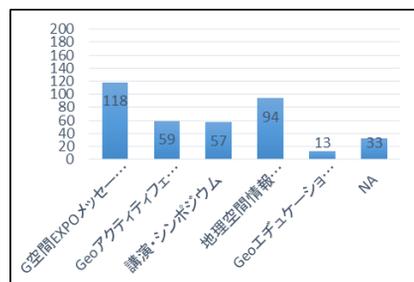
(14日)

G空間EXPO メッセージゾーン	Geo アクティビティフェスタ	講演・ シンポジウム	地理空間情報フォー ラム	Geo エデュケーション プログラム	NA	合計
176	61	91	86	17	13	444

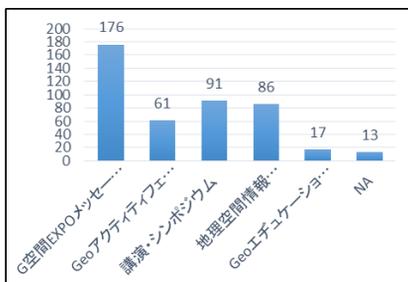
(15日)

G空間EXPO メッセージゾーン	Geo アクティビティフェスタ	講演・ シンポジウム	地理空間情報フォー ラム	Geo エデュケーション プログラム	NA	合計
136	64	52	76	37	20	385

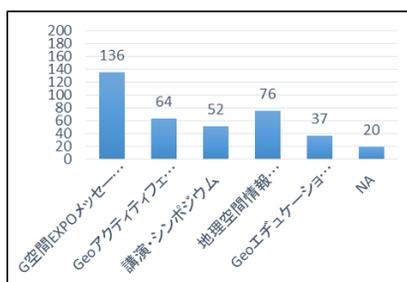
(13日)



(14日)



(15日)



Q3.どのような目的で参加されたのか教えてください。

(13日)

情報収集	技術動向の調査	今後の勉強のため	趣味等の活動	常設展を見ついでに立ち寄った	何となく	その他	NA	合計
120	63	98	12	9	22	40	3	367

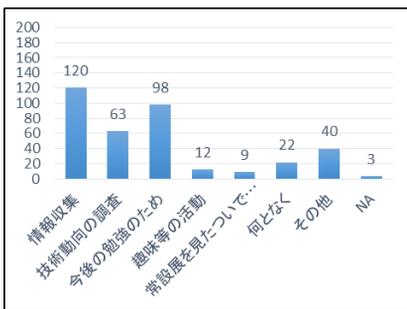
(14日)

情報収集	技術動向の調査	今後の勉強のため	趣味等の活動	常設展を見ついでに立ち寄った	何となく	その他	NA	合計
173	102	99	15	11	15	2	8	425

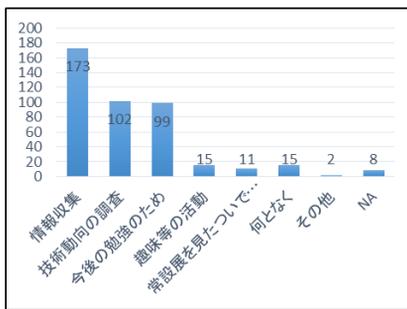
(15日)

情報収集	技術動向の調査	今後の勉強のため	趣味等の活動	常設展を見ついでに立ち寄った	何となく	その他	NA	合計
118	56	96	34	19	38	18	3	382

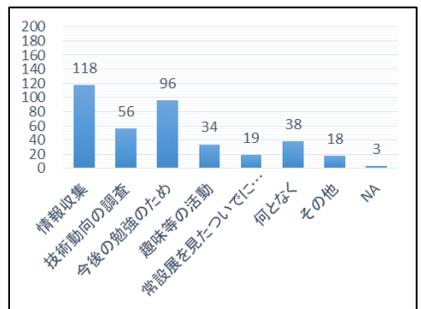
(13日)



(14日)



(15日)



(その他)

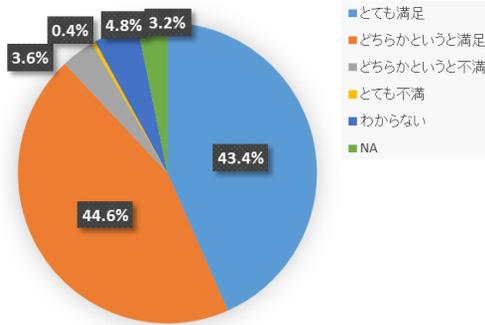
理科学
学校行事
見学
就活も兼ねて
就学旅行
ビックサイトのついで
取●
研修旅行
社会の見学で
招待された
友達の母がスタッフだから
測量コンテスト
バスレク
ゼンリンのブースでOculusゲーム体験のため
息抜き
公民館のプログラム
紹介
立体地図づくりに参加するため
地域のイベント
最新のものが見たい
測量コンテストの見学
大学の課題だったため

Q4.G空間EXPO2014のプログラムや会場はいかがでしたか。

①プログラムの内容全般について

(13日)

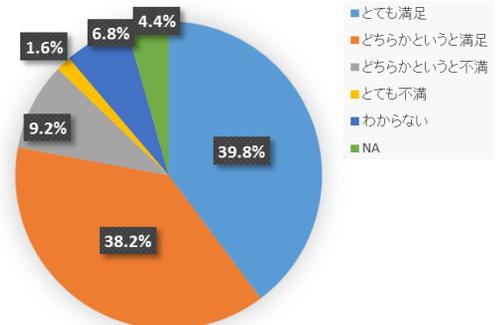
とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
108	111	9	1	12	8	249



②会場のアクセス・快適性等について

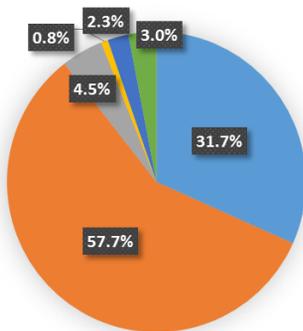
(13日)

とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
99	95	23	4	17	11	249



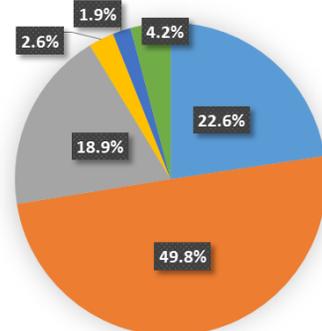
(14日)

とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
84	153	12	2	6	8	265



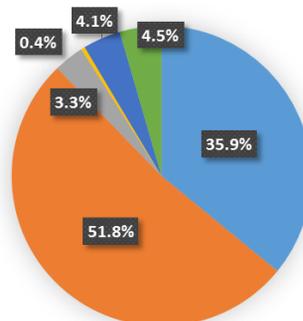
(14日)

とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
60	132	50	7	5	11	265



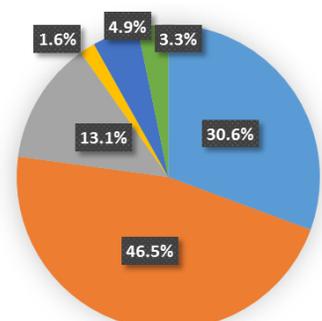
(15日)

とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
88	127	8	1	10	11	245



(15日)

とても満足	どちらかという満足	どちらかという不満	とても不満	わからない	NA	合計
75	114	32	4	12	8	245

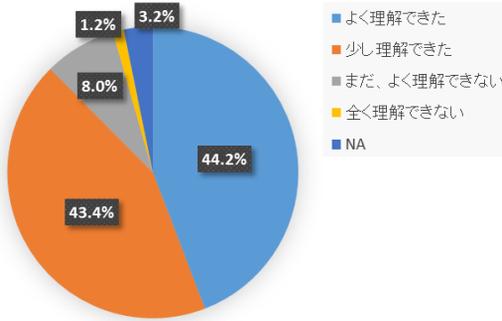


Q5.「G空間社会」とはどんな社会か、ご理解いただけましたでしょうか。

Q6.今後、G空間EXPOやそれに類するイベントに参加してみたいですか。

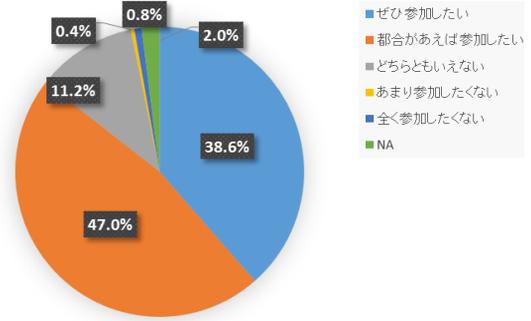
(13日)

よく理解できた	少し理解できた	まだ、よく理解できない	全く理解できない	NA	合計
110	108	20	3	8	249



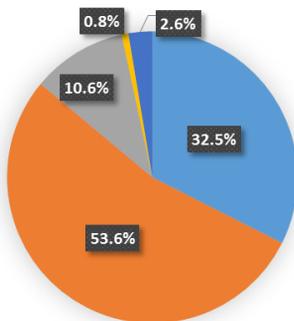
(13日)

ぜひ参加したい	都合があれば参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	全く参加したくない	NA	合計
96	117	28	1	2	5	249



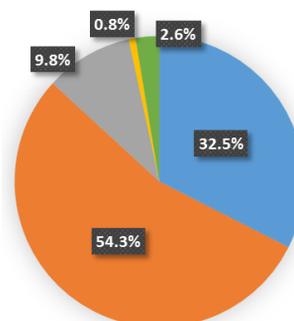
(14日)

よく理解できた	少し理解できた	まだ、よく理解できない	全く理解できない	NA	合計
86	142	28	2	7	265



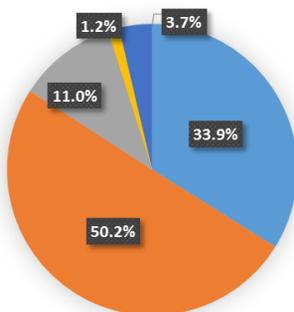
(14日)

ぜひ参加したい	都合があれば参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	全く参加したくない	NA	合計
86	144	26	2	0	7	265



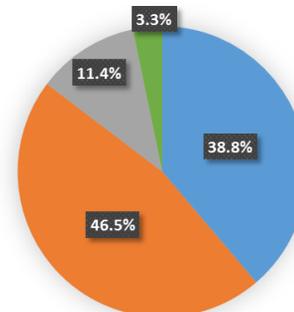
(15日)

よく理解できた	少し理解できた	まだ、よく理解できない	全く理解できない	NA	合計
83	123	27	3	9	245



(15日)

ぜひ参加したい	都合があれば参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	全く参加したくない	NA	合計
95	114	28	0	0	8	245

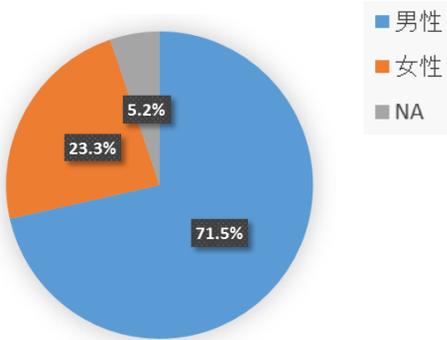


Q7. 貴方の性別・年齢について教えてください。

①性別

(13日)

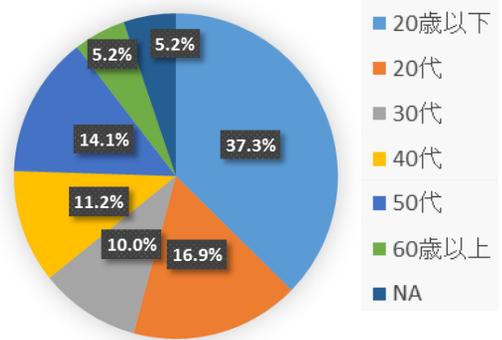
男性	女性	NA	合計
178	58	13	249



②年齢

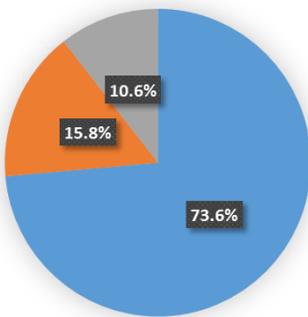
(13日)

20歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	NA	合計
93	42	25	28	35	13	13	249



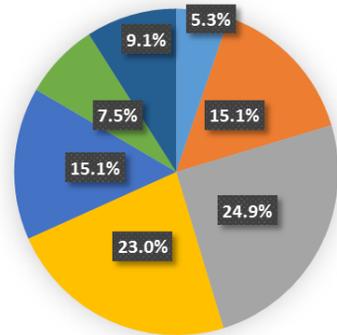
(14日)

男性	女性	NA	合計
195	42	28	265



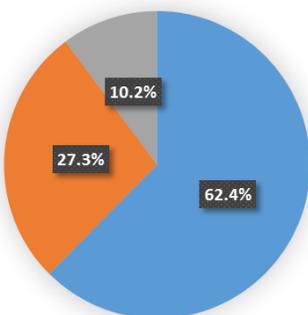
(14日)

20歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	NA	合計
14	40	66	61	40	20	24	265



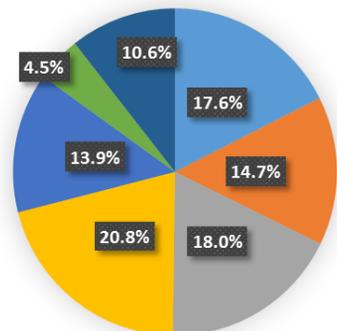
(15日)

男性	女性	NA	合計
153	67	25	245



(15日)

20歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	NA	合計
43	36	44	51	34	11	26	245



Q8.どちらから来られましたか。

(13日)

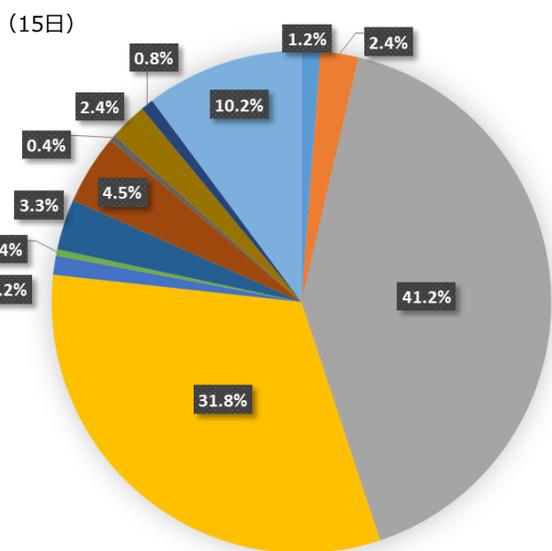
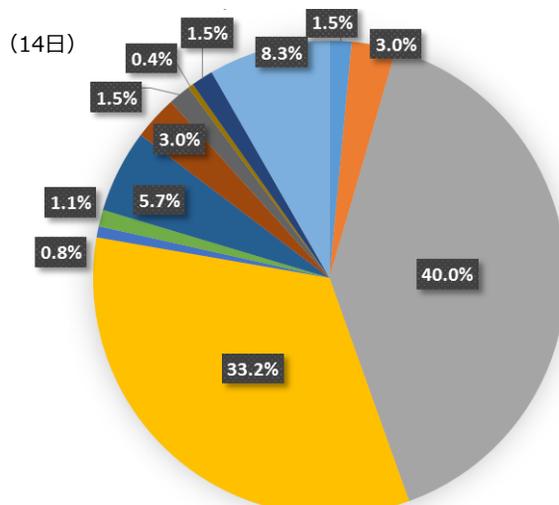
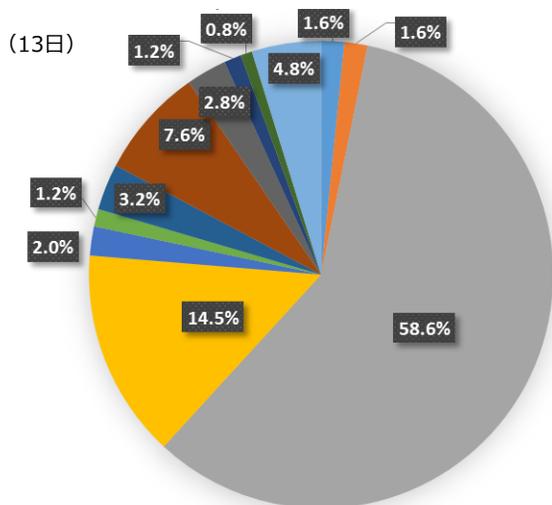
北海道	東北	東京	東京以外の関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	その他	NA	合計
4	4	146	36	5	3	8	19	7	0	3	2	12	249

(14日)

北海道	東北	東京	東京以外の関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	その他	NA	合計
4	8	106	88	2	3	15	8	4	1	4	0	22	265

(15日)

北海道	東北	東京	東京以外の関東	甲信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄	その他	NA	合計
3	6	101	78	3	1	8	11	1	6	2	0	25	245



- 北海道
- 東北
- 東京
- 東京以外の関東
- 甲信越
- 北陸
- 東海
- 近畿
- 中国
- 四国
- 九州・沖縄
- その他
- NA

(その他)

台湾R.O.C
台湾

Q9.お仕事は何ですか。

(13日)

測量調査設計	建設・建設コンサル	地図GIS	製造(情報通信機器)	製造(その他)	情報サービス	情報通信	農林漁業鉱業	交通運輸	ライフライン	その他サービス	公務	教育	学生	無職	その他	NA	合計
37	7	18	0	17	6	0	0	0	0	10	5	5	116	9	11	16	257

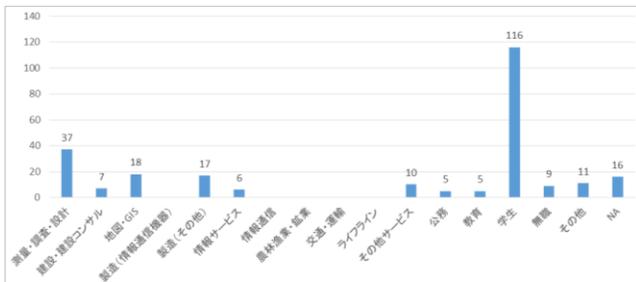
(14日)

測量調査設計	建設・建設コンサル	地図GIS	製造(情報通信機器)	製造(その他)	情報サービス	情報通信	農林漁業鉱業	交通運輸	ライフライン	その他サービス	公務	教育	学生	無職	その他	NA	合計
32	23	27	11	37	16	0	1	3	0	8	29	16	38	3	6	22	272

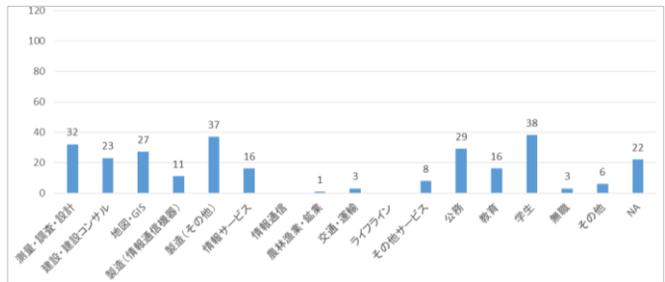
(15日)

測量調査設計	建設・建設コンサル	地図GIS	製造(情報通信機器)	製造(その他)	情報サービス	情報通信	農林漁業鉱業	交通運輸	ライフライン	その他サービス	公務	教育	学生	無職	その他	NA	合計
31	15	14	3	24	7	0	0	4	1	10	15	8	43	21	24	29	249

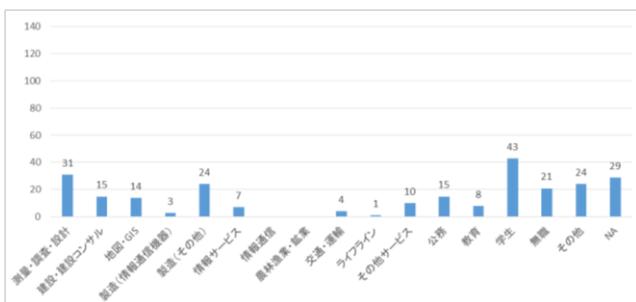
(13日)



(14日)



(15日)



(その他)

sa●ellite communication	図書館
設計事務所(建築)	主婦
未来館ボランティア	不動産
フリーライター	印刷販促企画
3次元CAD開発	環境分析会社
金融	販売
商社	保険業
保険	土地家屋調査士
宇宙関連	建材メーカー
広告業	研究
出版	クリエイター
土地家屋調査士	

Q10.G空間EXPOは何でお知りになりましたか。(複数回答可)

(13日)

案内状 DM	チラシ	ポスター	ホームページ	SNS	新聞	雑誌	知人	デジタルサイネージ	その他	NA	合計
26	25	27	66	3	3	8	46	0	45	33	282

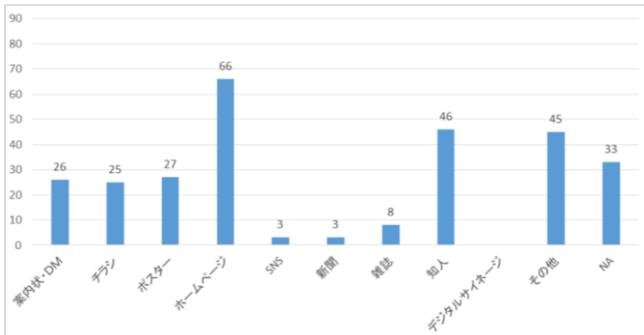
(14日)

案内状 DM	チラシ	ポスター	ホームページ	SNS	新聞	雑誌	知人	デジタルサイネージ	その他	NA	合計
38	30	15	84	9	3	11	53	0	35	15	293

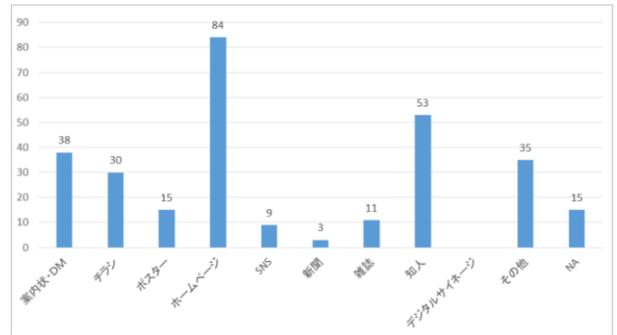
(15日)

案内状 DM	チラシ	ポスター	ホームページ	SNS	新聞	雑誌	知人	デジタルサイネージ	その他	NA	合計
21	18	22	60	16	3	11	57	0	44	31	283

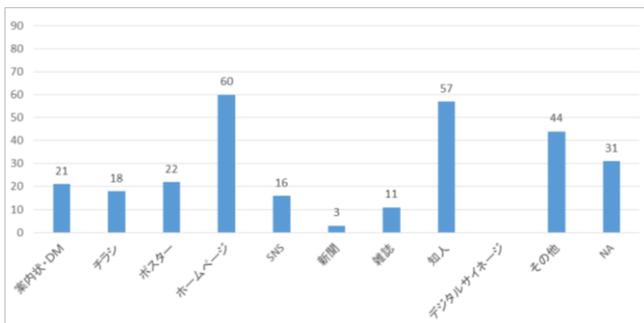
(13日)



(14日)



(15日)



(その他)

来てから	主催者
学校で知った	業務関係
していません。	業界より
どうりがかり	同業者と見学会
たまたま来たらやっていた	ImpressWatch(Webサイト)
メルマガ	日本測量協会メール
出展社	国体受付の際、担当者から直接
CSIS	職場掲示版
理科見学	去年来れなかったから
学校の研修の一貫	お父さん
国地理院	ネットサーフィンしまくって
講演者	東京都のHP
会社の先輩	みらい館ニュース
大学の先生の紹介	
社内案内	
出展者から	

Q11. 展示会等のイベント情報は主に何でお知りになりますか。

(13日)

案内状・DM	インターネット	SNS	新聞	雑誌	知人	その他	NA	合計
41	103	7	10	4	37	41	38	281

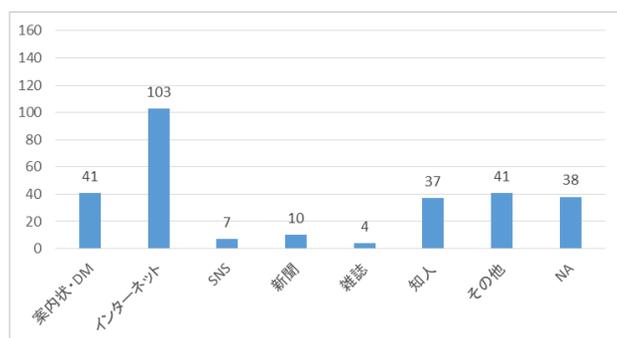
(14日)

案内状・DM	インターネット	SNS	新聞	雑誌	知人	その他	NA	合計
55	149	10	4	11	35	24	25	313

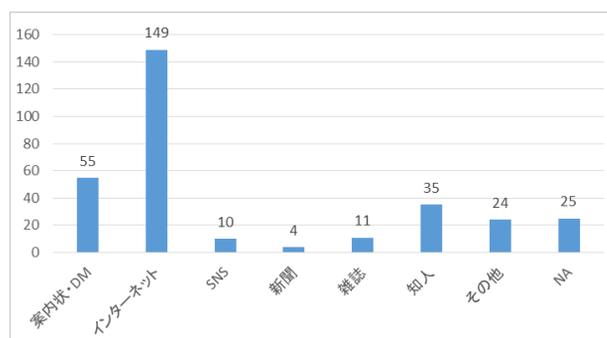
(15日)

案内状・DM	インターネット	SNS	新聞	雑誌	知人	その他	NA	合計
31	114	16	9	6	44	27	36	283

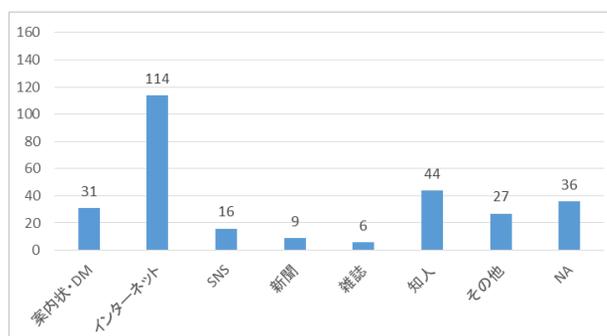
(13日)



(14日)



(15日)



Q12. 今後、実施を希望されるイベントについてお知らせください。

(13日)

(G空間関連の) 機関、 企業により展示	講演・シンポジウム	フィールドワーク・ 地図教室等の 体験型イベント	研修・ワークショップ等の 参加型イベント	NA	合計
115	73	45	35	51	319

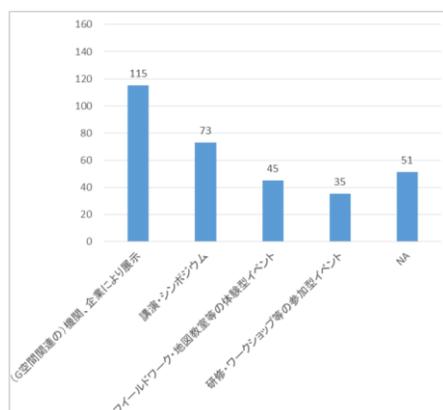
(14日)

(G空間関連の) 機関、 企業により展示	講演・シンポジウム	フィールドワーク・ 地図教室等の 体験型イベント	研修・ワークショップ等の 参加型イベント	NA	合計
146	99	64	49	40	398

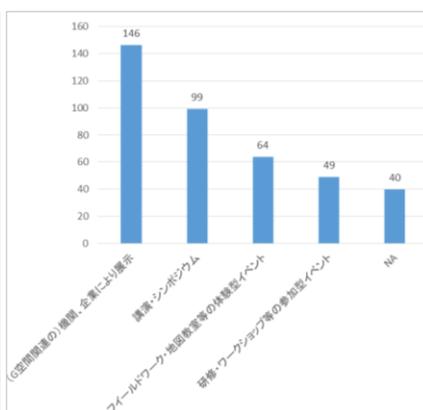
(15日)

(G空間関連の) 機関、 企業により展示	講演・シンポジウム	フィールドワーク・ 地図教室等の 体験型イベント	研修・ワークショップ等の 参加型イベント	NA	合計
109	60	86	50	44	349

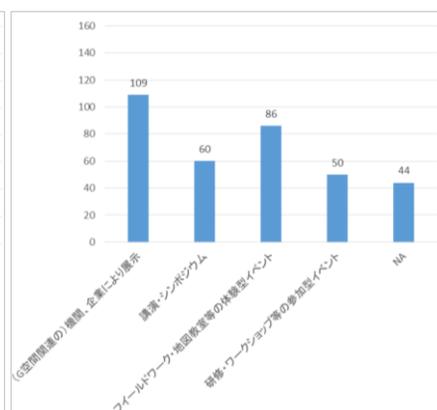
(13日)



(14日)



(15日)



Q12. 今後、実施を希望されるイベントについてお知らせください。

(その他)

- ・とてもいい
- ・アプリが面白かった。
- ・体験イベントについての館内インフォメーションがなかったように思う。いったら終わってた。
- ・ビックサイトにしてほしい
- ・オープンソース(GISや統計)やオープンデータを使い製作するアプリの作り方。工夫がメイン。見せ方やレスポンスの向上。
- ・測量器機メーカーの参加を希望する。
- ・器機メーカーの出展がほしい
- ・関西圏での開催
- ・子供(小中学生)でも分かるかんじにしてください。
- ・案内パンフレットがわかりにくい。ゾーンごとに案内分ける必要ないのでは
- ・専門家(事業者)向けと一般向けが混在し分かりにくい
- ・イベント案内についてですが、会場ごとのタイムテーブルはあるものの、時間ごとのイベント一覧のようなものがなく、アクセス性がまいでした。今この時間にどこでどんなイベント(講演)があるのかを一目でわかるようにしてほしいです。
- ・日本地図学会のシンポ、一般向けに焦点があつてとても良いと思いました。
- ・シンポジウム、ワークショップも良いが、セミナー事例などもあると良い。
- ・例えば測量器機等、操作することができるとより楽しいと思います。
- ・より上位の情報をお願いします。
- ・もう少し規模を広げてほしい気がする
- ・都内にしてほしい(ゆりかもめでのアクセスは困る)
- ・セミナーの充実
- ・はいかい老人などの位置情報管理技術を公開してもらいたい
- ・子連れで来ましたが、子どもも十分楽しめました。
- ・年1回ではなく数回実施を願う。
- ・柴崎教授の話をじっくり聞きたい
- ・自治体や町内単位での参加型ワークショップ(専門家と市民が気軽に情報交換できる場の提供)
- ・楽しかったです!
- ・学校教育への利用について、もっと情報(実践例)うかがえるとありがたいです。
- ・今後の勉強に役立てたいです
- ・いろいろなものがあつてとても学べた
- ・いろいろな機械があつておもしろかった(3Dとシュミレーション)



付録-2

	G空間EXPO (2010)	G空間EXPO2012	G空間EXPO2013	G空間EXPO2014
会期	9/19(日)・21(祝)・ 22(火)	6/21(木)・22(金)・ 23(土)	11/14(木)・15(金)・ 16(土)	11/13(木)・14(金)・ 15(土)
会場	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) 展示ホールB・C (10,000㎡)	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) 展示ホールD (6,700㎡)	日本科学未来館 (東京都江東区) 1F企画展示ゾーン他 (約2,000㎡)	日本科学未来館 (東京都江東区) 1F企画展示ゾーン他 (約2,350㎡)
主催	G空間EXPO 実行委員会	G空間EXPO 実行委員会	G空間EXPO2013 運営協議会	G空間EXPO2014 運営協議会
出展者数	189者 (630小間)	147者 (378小間)	64者 (58小間)	75者 (87小間)
シンポジウム	36プログラム (参加者 3,838人)	21プログラム (参加者 3,695人)	20プログラム (参加者 2,460人)	19プログラム (参加者 2,179人)
来場者数	3日間合計 36,819人 (展示会来場者)	3日間合計 18,143人 (展示会来場者)	3日間合計 17,584人 (展示会来場者)	3日間合計 20,311人 (展示会来場者)

